

審査意見への対応を記載した書類(6月)

(目次)和歌山保健医療学部 看護学科

1. 専門学校の事業譲渡を受けて、4年制大学の学部として本学部を設置するとの説明だが、教育課程の内容については専門学校で取り扱うものの延長に過ぎないなど、専門学校ではなく、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする大学として人材養成を行う理由が判然としないため、本学部を4年制大学の学部として設置する趣旨を改めて明確に説明すること。その上で、養成する人材像及び3つのポリシーが設置の趣旨に合致したもので、かつ、それぞれが整合したものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・4
2. 審査意見1のとおり、設置の趣旨や養成する人材像、3つのポリシーの整合性に疑義があるため、その妥当性を判断することができないものの、カリキュラム・ポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
 - (1)カリキュラム・ポリシー(1)において一般教養科目を配置する趣旨等に関する記載が希薄であり、どのような趣旨で当該科目を配置するのかが判然としない。
 - (2)カリキュラム・ポリシー(2)に「社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術の育成」を掲げているものの、当該ポリシーに対応する授業科目として挙げられている科目との関係性が明確ではない。
 - (3)カリキュラム・ポリシー(1)及びディプロマ・ポリシー(1)において「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心」の育成が掲げられているものの、カリキュラムマップでは「看護倫理学」が対応していない。(是正事項)・・・19
3. ディプロマ・ポリシーで「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心」を掲げるなど、倫理観を重要な能力として捉えていると見受けられる一方で、対応する授業科目として説明されている「看護倫理学」は「実習体験に基づいて倫理観・道徳心が深められる」ように4年次に履修する授業科目とされているものの、その内容は看護倫理の基礎知識を扱うものに過ぎず、実習後に履修する趣旨・妥当性が明確ではない。加えて、例えばチーム医療の基礎知識を修得する「チーム医療論」等の看護学において重要かつ基礎的な内容を取り扱う授業科目について、4年次に履修するものが散見されるなど、教育課程の体系性・妥当性が全般的に不明確である。審査意見1及び2への対応も踏まえつつ、これらの基礎的かつ重要な知識の修得を目的とした授業科目の配当年次の趣旨や妥当性を含めて、教育課程の体系性・妥当性を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・22
4. アドミッション・ポリシーに「看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人」が掲げられている一方で、教育課程にも基礎的なコミュニケーションを学ぶ科目が配置されており、入

学者選抜段階でコミュニケーション能力を担保した上で、入学後に改めて当該能力の涵養(かんよう)を目的とした科目が配置されていることの趣旨が判然としない。このため、審査意見1への対応を踏まえ、コミュニケーション能力に係る教育について、アドミッション・ポリシーや入学者選抜との関係を明らかにした上で、その妥当性を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・25

5. シラバスについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。また、シラバス全体を改めて網羅的に点検した上で、同様の個所を適切に改めること。
 - (1) 例えば、「基礎看護技術学Ⅰ」について、到達目標の記載が抽象的であり、授業計画や成績評価方法等との整合性を判断することができない。
 - (2) 例えば、「看護の統合Ⅰ(演習)」及び「看護の統合Ⅱ(演習)」について、具体的なシミュレーション教育の内容が不明確であったり、「看護の統合Ⅰ(実習)」の3日目の授業内容が「病棟看護師長への随行実習」という抽象的な記載であったりするなど、授業計画で示された各回の授業内容の記載が抽象的で、学修到達目標に合致した授業計画になっているか判然としない。
 - (3) 担当教員の氏名を明示することに加えて、ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、概要欄及び到達目標欄の内容について、当該授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性が明確になるよう具体的な記載に改めること。
 - (4) 「成績評価方法及び基準」欄について、評価方法の記載はあるが、評価基準に係る記載が見受けられない。
 - (5) 「基礎ゼミナール」の「成績評価方法及び基準」欄にある「グループワークへの参加度」は抽象的なため、より客観的かつ具体的な記載に改めること。(是正事項)・・・26
6. 必修科目として「看護倫理学」を4年後期に配置しているが、看護実践における倫理の重要性等に鑑みれば、看護倫理の基礎知識を学ぶ本授業科目は、教育課程の履修上、早期に配当することが必要と考えられるため、適切な配当年次に改めること。(是正事項)・・・29
7. 各実習科目や「看護研究Ⅱ」の成績評価について、「評価表」を用いて評価を行う旨の記載があるが、評価に用いる「評価表」が示されておらず、具体的な評価方法等が不明確であるから、それぞれの「評価表」を示した上で、明確に説明すること。(是正事項)・・・30
8. 「GPA1.0未滿の学生に対しては、本人に対する退学勧告を行うとともに保護者との面談を行うことがある。」との記載があるが、学則にはそのような記載は見当たらない。記載根拠を明確に説明すること。(改善事項)・・・31
9. 審査意見1のとおり、設置の趣旨や養成する人材像、3つのポリシーの整合性・妥当性に疑

義があるため、入学者選抜の妥当性を判断することはできないが、審査意見1への対応を踏まえ、アドミッション・ポリシーと各選抜方法が整合することを明らかにした上で、入学者選抜に係る以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- (1) 総合型選抜について、「オープンキャンパス等での総合型選抜事前説明会の受講」を出願要件としているが、その趣旨等が不明確である。
- (2) 総合型選抜における3つの選抜方法について、日程等の違いが不明確であり、その設定趣旨が判然としない。
- (3) 社会人入学試験において、学力試験を設けておらず、アドミッション・ポリシーに掲げる学力等を適切に測ることができるのか不明確である。
- (4) 各選抜方法における、試験内容ごとの点数配分が不明確である。(是正事項)・・・32

10. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項)・・・37

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

1. 専門学校の事業譲渡を受けて、4年制大学の学部として本学部を設置するとの説明だが、教育課程の内容については専門学校で取り扱うものの延長に過ぎないなど、専門学校ではなく、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする大学として人材養成を行う理由が判然としないため、本学部を4年制大学の学部として設置する趣旨を改めて明確に説明すること。その上で、養成する人材像及び3つのポリシーが設置の趣旨に合致したもので、かつ、それぞれが整合したものであることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を受けて、下記のとおり宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科を設置する理由、養成する人材像及び3つのポリシーが設置の趣旨に合致したもので、かつ、それぞれが整合していることについて見直しを行った。以下のとおり設置する趣旨及び3つのポリシーについて説明すると共に、設置の趣旨を記載した書類について修正した部分を明示する。

【4年制大学の学部として設置する趣旨】

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の設置は、既存の「和歌山看護専門学校」の施設、設備を活用しながら、新しい教育課程、教員組織をもって設置するものである。

これまで当該専門学校を設置運営してきた和歌山県病院協会とは実習施設確保や就職先開拓などにおいて良好な関係を継続しながら、新たに看護学科の設置を計画している。

現在の医療現場においては、医療技術は高度に複雑化し、日々進歩している。看護師として現場の医療に携わるためには、3年間の看護教育では、在学中に相当過密なカリキュラムで知識・技術を身につけることが必要となってきた。修得しなければならない知識や技術は膨大であり、3年間の教育課程では、学生が学習できる内容に限界があると考えられることから、単に専門学校の教育の延長ではなく、4年制大学としてふさわしい学士力の獲得も視野に入れたうえで、知識・技術を教育することに加えて、看護を探究し、継続的に自己研鑽していく力を身につけさせる必要があると考える。

これからの看護師養成においては、高度化、複雑化する医療の進歩に対応し、社会の要請に応えるために、看護師としての基礎的な知識、技術及び態度に加えて、次に挙げる能力を養成する機能が必要であると考えます。

- (1) 医療の進歩に加えて、災害や新型の感染症など、これまでの知識・技術をそのまま当てはめることが出来ない事態へ対応する能力
- (2) 身につけた知識・技術を基に应用する能力
- (3) 医療技術の進歩に応じて、生涯にわたって生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる能力、看護を探究し、継続して自己研鑽を行う能力
- (4) 高い倫理観と豊かな人間力、社会人としての基礎的能力

従って、こうした能力を養うために4年制大学における一層高度な教育内容と学修期間が必要と

考える。

以上のことから、社会的、地域的な看護師養成の必要性に加え、学士課程における教育で基礎的な素養である学士力と看護師としての専門的な知識と技術・態度を身につけた看護師を養成し、社会に送り出すことを目的とし、もって我が国、特に地域における医療、保健、福祉の向上に貢献することを旨とする。

【養成する人材像】

今回の審査意見を受け、設置の趣旨に基づき、学士力を踏まえつつ4年制の教育課程をもって養成する人材像について、次のとおり改めることとした。

- (1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材
- (2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材
- (3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる人材
- (4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる人材

養成する人材像の(1)は、様々な背景をもつ看護の対象者及びその家族と接するための一般教養をはじめ、総合的な基礎的能力を重視し、幅広い教養を有した豊かな人間性を身につけるとともに、保健、医療及び福祉に関する知識、高い倫理観、遵法意識をもち、対象者との信頼関係を築くことができる看護師を養成する必要があることから、「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材」とした。

養成する人材像の(2)は、「社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術を身につけた人材」としていたが、4年制大学での教育を行うにあたり、質の高い看護をシームレスに提供できる、科学的な看護の知識・技術・態度を十分に身につけた看護師を養成することに主眼を置き、日々進歩する医療技術に対応出来る知識技術を身につけた人材を養成する必要があることから、「質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材」に改める。

養成する人材像の(3)は、「論理的思考力を持ち看護を实践できる人材」としていたが、社会の変化、疾病の変化などに対応して、身につけた知識・技術を応用する能力が一層求められることから、科学的根拠に基づき論理的思考することに加え、自ら問題を発見し、創造性と新しい発想で解決策を見出せる基礎的な能力を養うことが必要であることから、「論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる人材」に改める。

養成する人材像(4)は、「高い創造性と問題発見・解決できる基礎的能力を有し、自己研鑽できる人材」としていたが、問題発見・解決出来る基礎的能力に関しては、養成する人材像(3)に含めることとし、看護師として社会に貢献する使命感と責任感を4年間で涵養し、その上で生涯にわたって看護を探求し、自己研鑽できる人材を養成することが4年制大学の教育を経た看護師に求められる重要な基礎的能力であると考えられることから、「看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる人材」に改める。

【ディプロマポリシー】

ディプロマポリシーは、本学科が養成する人材像と強く結びついている。

本学を卒業し、学士(看護学)の学位を授与するための条件は、必要な単位を修得し、次の能力を有すると認められた者であることであり、上記の養成する人材像の修正を踏まえ、学位の授与にあたり求める能力を次のとおり修正する。

- (1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。
- (2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。
- (3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。
- (4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる。

【カリキュラムポリシー】

養成する人材像、ディプロマポリシーの見直しを踏まえ、カリキュラムポリシーについても次のとおり修正する。

- (1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成
- (2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成
- (3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる能力の育成
- (4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる能力の育成

カリキュラムポリシーの(1)に対応するため、看護学の基本的な知識を理解するために必要となる教養、看護の対象である人や人が置かれている社会環境を理解するための教養、現代社会における医療との関連が深い分野の教養をはじめ、医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を養成する観点から学部共通科目を配置している。また、今回の審査意見を受け、1年次に「看護倫理学」を必修として配置した。これに加えて1年次には「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」においても、倫理観や道徳心を涵養することとする。

カリキュラムポリシーの(2)に対応するため、看護に必要な科学的な知識を体系的に理解するために、専門基礎科目において人体の構造や機能、病態生理とその治療や看護の方法などに関する科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けた科目を配置する。専門科目としては、最新の知見に基づき、看護を實踐し得る専門知識と技術を身につけるための科目を配置する。

今回の審査意見をうけ、「チーム医療論」を、看護を展開する上で早期に必要な知識であるため、1年次に配置した。

カリキュラムポリシーの(3)に対応するため、本学科では、学部共通科目から参加型授業を導入し、論理的に判断する能力を養う。また、看護実践の場における判断能力の習得に向けた科目を配置し、臨地実習において体験的に学修するよう、授業科目を配置した。臨地実習までの学修を統合して、看護の実践力を養成するため、事例に対して解決策を論理的に思考し問題を発

見・解決する能力を身につけるため、主体的に考えることを目的とした演習科目を配置する。

カリキュラムポリシーの(4)に対応するため、自己のキャリア開発やより良い看護提供に資する課題を探究し学び続けるための基礎能力を育成するための科目を配置する。また、学生が持つ課題や興味に従って学修が深められるよう、選択科目を配置する。

これらに加えて、実習を組み立てる内容で、現場に出て看護を実践する上で、責任ある看護を展開するために、自分の不十分な点を見直したり、より深めたい点について実習を行う。

本学科では、卒業研究に関する科目を必修科目として4年次に配置し、学生個々が自ら研究の一連の過程を体験することで研究の素養を身につけ、生涯にわたって看護を探究し、自己研鑽を行うための基礎的能力を養うこととする。

【アドミッションポリシー】

本学科の養成する人材像、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの修正を踏まえて、これらとの関連について点検を行った。アドミッションポリシーは、各ポリシーの複数の要素に関連するが、特に関連が強いと考えられる項目について点検し、入学者選抜時から卒業時に身につけることが期待できる能力について整理した。

アドミッションポリシーの(1)「看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人」については、看護学への関心、意欲的な姿勢から、看護師としての教養を身につけると共に、倫理観・道徳心を身につけることにつながると期待できる。

アドミッションポリシーの(2)「思いやりと優しさを備え、協調性に富む人」については、傾聴する能力や、協働して物事にあたることが出来る能力であると考えられることから、看護師として求められる態度を身につけることが期待できる。

アドミッションポリシーの(3)「看護職として社会に貢献したい人」については、看護師としての社会貢献の意思が強いと考えられることから、看護師としての自身のキャリアについて考えるとともに、看護師として生涯にわたって看護を探究し、自己点検出来る能力につながると期待できる。

アドミッションポリシーの(4)「看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人」については、自ら学ぶ姿勢を持ち、人とのつながりから幅広く学ぶ能力があると考えられることから、幅広い教養と、高い倫理観・道徳心を身につけることが出来ると期待できる。

アドミッションポリシーの(5)「自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人」については、積極的に学びながら、自らの学びを発展させるための課題を見いだす能力があると考えられることから、論理的思考力、問題発見・解決の能力を身につけることが期待できる。

アドミッションポリシーの(6)「学力の3要素につながる基礎的な学力を備えている人」については、高等学校までの学びで一定の学力を有していると考えられ、学修習慣が身につけていると予想されることから、看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけることが期待できる。

【3つのポリシーが設置の趣旨に合致しそれぞれ整合したものであることについて】

今回の審査意見を真摯に受け止め、養成する人材像及び3つのポリシーを点検、検討した。

本学科の設置の趣旨と養成する人材像の対応については、上記のとおり本学の建学の精神の下に合致していることを明確にするために修正する。養成する人材像と3つのポリシーの関連については、それぞれ複数の項目に関連している部分があるが、特に関連性の強い項目については、次のとおりである。

養成する人材像	特に関連性の強いポリシー		
	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー	アドミッションポリシー
幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材	幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている	幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成	・看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人 ・看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人
質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材	質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている	質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成	・思いやりと優しさを備え、協調性に富む人 ・学力の3要素につながる基礎的学力を備えている人
論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる人材	論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる	論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる能力の育成	自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人
看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる人材	看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる	看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる能力の育成	看護師として社会に貢献したい人

上記のとおり、養成する人材像と3つのポリシーが明確な一貫性をもつよう、修正する。

また、これらの修正に関連して、設置の趣旨を記載した書類の添付書類「宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・人材養成像・3つのポリシー」【資料1】、「宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・3つのポリシー関連図」【資料2】についても修正する。

これらの点検、修正を受け、設置の趣旨を記載した書類については、下記のとおり修正する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(1～10ページ)

新	旧
<p>1-1 和歌山保健医療学部看護学科設置の経緯(2ページ)</p> <p>この度、和歌山県内での看護職が不足している現状と将来的な看護師の必要性が高まること、看護師養成の主流が3年制専門学校から4年制大学に移行しつつあることから、新たに4年生大学で看護師養成を行うべく「看護学科(以下「本学科」という。)」の設置を計画した。</p> <p>設置計画に当たっては、既存の和歌山保健医療学部の校舎及び令和3年で募集を停止し、令和6年度で廃校を予定している「和歌山看護専門学校」の校舎及び施設設備を活用しながら、新たに教育研究のための施設、設備を整備する。また、学士力を裏付ける豊かな教養と看護師としての専門知識、技術を有し、生涯にわたり自律して自己研鑽を重ねていく能力を養うための教育課程を設ける。本学科の設置をとおして、我が国、特に地域における医療、保健、福祉の向上に貢献することを目指す。</p>	<p>1-1 和歌山保健医療学部看護学科設置の経緯(2ページ)</p> <p>本学では、大学の目的を「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」と位置付けている。</p> <p>大学の目的に則り、本学科の目的は、人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性、論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意思と能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて、医療チームの一員として他職と協働しながら、医療・保健・健康・福祉の向上及び地域医療への貢献に資することとする。</p>
<p>1-4 人材養成の目的(5ページ)</p> <p>現在の医療現場においては、医療技術は高度に複雑化し、日々進歩している。看護師として現場の医療に携わるためには、3年間の看護教育では、在学中に相当過密なカリキュラムで知識・技術を身につけることが必要となってきた。修得しなければならない知識や技術は膨大であり、3年間の教育課程では、学生が学習できる内容に限界があると考えられる。</p> <p>医療は、日々進歩することに加えて、予測不能な災害や新型の感染症など、これまでの</p>	<p>1-4 人材養成の目的(5ページ)</p> <p>本学では、大学の目的を「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」と位置付けている。</p> <p>大学の目的に則り、本学科の目的は、人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性、論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意思と能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じ</p>

<p>知識・技術をそのままあてはめたのでは解決できない事態への対応も求められる。看護師として基礎的な知識と技術を持ち、それを確実に実践できることを前提とした上で、現場で起こる様々な事象や状況において適切な対応ができるように、それまでに身につけた基礎的知識・技術を応用していく力が必要である。</p> <p>さらに、今後の医療技術等の進歩に応じて自らが新しい知識・技術を積極的に学び、吸収していく力、加えて看護を探究する姿勢とそれを実践できる力を備えなければならない。単に現行の知識・技術を教育するのみではなく、看護を探究し、継続的に自己研鑽していく力を身につけさせる必要がある。高度な知識・技術及び自律して自己研鑽を重ねていく能力を育成するためには、4年制大学における一層高度な教育内容と学修期間が必要と考える。</p> <p>このような人材を養成するためには、看護の知識・技術を教授するだけでなく、高い倫理観と豊かな人間力を涵養する教育が必要である。</p> <p>本学では、大学の建学の精神を「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」としている。まさしく、高度な専門的知識・技術の修得と併せて、こうした高い人間力の涵養を重視した教育は、本学の目的とするところである。</p> <p>大学の見学の精神に則り、本学科の目的は、人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性、論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意思と能力を持った看護職者を養成すること、またその養成を通じて、医療チームの一員として他職と協働</p>	<p>て、医療チームの一員として他職と協働しながら、医療・保健・健康・福祉の向上及び地域医療への貢献に資することとする。</p> <p>本学科の目的に基づき、本学科における人材養成の目的を次のとおり定める。</p>
---	---

<p>しながら、医療・保健・健康・福祉の向上及び地域医療への貢献に資することとする。</p> <p>大学における4年間の学びを経て身につけるべき能力である学士力について、中央教育審議会報告書「学士課程教育の構築に向けて(中央教育審議会大学分科会制度・教育部会、平成20年3月25日)」にその内容が明記されている。それによると「学士力」とは、学士課程の各専攻分野を通じて培う力であり、教養を身につけた市民として行動できる能力である。具体的には、「1. 知識・理解」、「2. 汎用的技能」、「3. 態度・志向性」、「4. 統合的な学習経験と創造的思考力」の4つがあげられている。「1. 知識・理解」には、いわゆる一般教養科目群と専攻する特定の学問分野における基本的な知識が、「2. 汎用的技能」には、コミュニケーション技術、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力が、「3. 態度・志向性」には、倫理観、社会的責任、生涯学習力が含まれている。「4. 統合的な学習経験と創造的思考力」は、これまでに獲得した知識・技能・態度などを総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力」であるとされている。</p> <p>学士力はどのような学士課程の専攻分野であっても身につけることが求められる能力であることから、学士力をふまえて、本学科の目的に基づき、本学科における人材養成の目的を次のとおり定める。</p> <p>(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材</p> <p>看護の対象となる者は、様々な社会、文化を背景としている。こうした対象者やその家族と接するために、人文、自然、社会に関する一般教養をはじめ、外国語、情報処理能力、保</p>	<p>(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材</p> <p>看護の対象となる者は、様々な社会、文化を背景としている。こうした対象者やその家族と接するために、人文、自然、社会に関する一般教養をはじめ、外国語、情報処理能力、保</p>
--	--

<p>健体育及び総合的な基礎教育等を重視し、幅広い教養を有した豊かな人間性を身につけさせるとともに、保健、医療及び福祉に関する知識を教授する。更に、対象者との十分な信頼関係を築き、生命の尊厳を守る高い倫理観、法令を遵守し、社会的規範に従いながら、対象者や家族の視点に立つことができる看護師を養成する。</p> <p>(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材</p> <p>看護師はチーム医療の一員として活躍することが期待されている。医療、保健、福祉の現場において、看護に関する科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できることが前提となる。科学的な知識とは体系的に整理された知識、原理・原則等で、この知識によって看護実践をより広い視野で総合的に判断し応用することができる。技術とは、知識を行動に変えるための方法であり、看護では知識に加えて実践できる技術が求められる。さらに、対象者との信頼関係が築けるような態度が加わって、看護実践は展開される。基本的ではあるが、この3要素を踏まえて、看護を実践できることが看護師として必要である。質の高い看護をシームレスに提供できる、科学的な看護の知識・技術・態度を十分に身につけた看護師を養成する。</p> <p>(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる人材</p> <p>看護の方法を科学的根拠に基づいて、論理的に思考した上で実践できる看護師を養成する。対象者の状況を正しく判断し、多様化する医療の中で何が対象者のために効果的で有効なのか、論理的に判断できる人材を養成</p>	<p>健体育及び総合的な基礎教育等を重視し、幅広い教養を有した豊かな人間性を身につけさせるとともに、保健、医療及び福祉に関する知識を教授する。更に、対象者との十分な信頼関係を築き、生命の尊厳を守る高い倫理観、法令を遵守し、社会的規範に従いながら、対象者や家族の視点に立つことができる看護師を養成する。</p> <p>(2) 社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術を身につけた人材</p> <p>看護師はチーム医療の一員として活躍することが期待されている。医療、保健、福祉の現場において、看護に関する基礎的知識は最も重要な知識となる。質の高い看護をシームレスに提供できる、看護の知識・技術・態度を十分に身につけた看護師を養成する。</p> <p>(3) 論理的思考力を持ち看護を実践できる人材</p> <p>看護の方法を科学的根拠に基づいて理解した上で実践できる看護師を養成する。</p> <p>医療は日々高度に進歩している。また、人々の行動様式や習慣も社会の中で変化し、看護技術も最適な方法が模索されながら実践</p>
--	--

<p>する。</p> <p>医療は日々高度に進歩している。また、人々の行動様式や習慣も社会の中で変化し、看護技術も最適な方法が模索されながら実践されている。常に、科学的に最善の方法を追求しながら看護を实践できる人材を養成する。対象者に興味を持ち、多角的に理解し、総合的に考察することによって対象者に寄り添った看護を考えて実践できる能力を持った人材を養成する。対象者の QOL を高めるために、何が必要なのか問題を分析し、創造性と新しい発想で解決策を見出せる基礎的な能力を持つ人材を養成する。</p> <p>(4)看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる人材</p> <p>看護に誇りを持ち、使命感と責任感を有し、看護を探求し創造するために必要な主体的な学修能力を持つ人材を養成する。自分自身のキャリアを描き自己研鑽を行い、生涯にわたって地域医療へ貢献するための基礎的な能力を持つ人材を養成する。</p>	<p>されている。常に、科学的に最善の方法を追求しながら看護を实践できる人材を養成する。また、対象者の状況を正しく判断し、多様化する医療の中で何が対象者のために効果的で有効なのか、論理的に判断できる人材を養成する。</p> <p>(4)高い創造性と問題発見・解決できる基礎的な能力を有し、自己研鑽できる人材</p> <p>対象者に興味を持ち、多角的に理解し、総合的に考察することによって対象者に寄り添った看護を考えて実践できる能力を持った人材を養成する。対象者の QOL を高めるために、何が必要なのか、問題を分析し、創造性と新しい発想で解決策を見出せる基礎的な能力を持つ人材を養成する。</p> <p>さらに、自分自身のキャリアを描き自己研鑽を行行い、生涯にわたって地域医療へ貢献するための基礎的な能力を持つ人材を養成する。</p>
<p>1-5 学位授与の方針(7ページ)</p> <p>必要な単位を修得し、次の能力を有すると認められた者に、学士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。</p> <p>(2)質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。</p> <p>(3)論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる。</p>	<p>1-5 学位授与の方針(6ページ)</p> <p>必要な単位を修得し、次の能力を有すると認められた者に、学士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。</p> <p>(2)社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術を身につけている。</p> <p>(3)修得した看護学の知識・技術をもとに、論理的判断に基づいて看護実践ができる。</p>

<p>(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。</p>	<p>(4) 地域医療貢献に資する高い創造性と問題発見・解決できる基礎的能力を有し、自己研鑽ができる。</p>
<p>4-1 カリキュラムポリシー (10ページ)</p> <p>(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護学の基本的な知識を理解するためには、その知識の意味を人文科学、社会科学、自然科学および多文化・異文化に関する知識と関連付けて理解することが必要となる。看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解するために、「心理学」「日本国憲法」「社会福祉学」を、医療との関連も深く現代の社会における教養として求められている「統計学」「情報処理演習Ⅰ」を、医療に必要な「コミュニケーション演習」「医学英語Ⅰ・Ⅱ」を、学生の健康作りのために「体育実技Ⅰ」の科目を必修として設置している。医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教育科目を配置している。また、看護専門職として必要な倫理観や道徳心を初年度から育成するため、1年次に「看護倫理学」を必修として配置した。1年次には「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」においても、倫理観や道徳心を涵養する。1年次に倫理観をしっかり養っておくことによって、2年次以降の専門科目の演習・実習を通して倫理観や道徳心を深められるよう教育を行う。</p> <p>(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成</p> <p>看護に必要な科学的な知識を体系的に理解するために、人体の構造や機能、病態生理</p>	<p>4-1 カリキュラムポリシー (9ページ)</p> <p>(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解し、医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、「日本国憲法」「社会福祉学」「統計学」「医学英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」「体育実技Ⅰ」「コミュニケーション演習」「心理学」の科目を必修として設置している。その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教養科目を配置している。また、看護専門職として必要な倫理観や道徳心を初年度から卒業まで継続的に育成するため、1年次から「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」を行う。2年次以降の専門科目の演習・実習で倫理観や道徳心を養い、4年次後期には「看護倫理学」を必修とし、実習体験に基づいて倫理観・道徳心が深められるように授業科目を配置している。</p> <p>(2) 社会の要請に応える看護師としての知識と技術の育成</p> <p>人体の構造や機能、病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基</p>

<p>とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。</p> <p>専門科目では、最新の知見に基づき、看護を実践し得る専門知識と技術を教授するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護専門職として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する。「チーム医療論」は、看護を展開する上で早期に必要な知識であるため、1年次に配置した。現代の医療において、看護を実践するにはチーム医療は不可欠な考え方であり、常にチームでどう展開するかを考えて実践に結び付けることができるように組み立てた。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術・態度を修得する。「感染看護学」はどの領域においても共通して重要であり、かつ感染予防に関する知識は看護実践に不可欠であることから、基礎看護学実習Ⅱ・領域別の実習が開始される前の2年生後期に必修として配置した。</p> <p>(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を</p>	<p>基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。</p> <p>専門科目では、最新の知見に基づき、社会の要請に応えうる看護を実践し得る専門知識と技術を養成するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。看護専門職として必要な知識と技術は、「看護の基礎科目」において実践に向けた基礎的な知識と技術を修得する。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術を修得する。</p> <p>(3) 修得した看護学の知識・技術をもとに、論</p>
--	--

<p>持ち看護を実践できる能力の育成</p> <p>看護実践において不可欠な論理的に判断する能力は、学部共通科目、専門基礎科目から、専門科目へと学生の参加型授業を通じ育成する。看護実践の場における基礎的な判断能力の修得に向け、「看護の基礎科目」に「ヘルスアセスメント」を配置している。「看護の展開科目」では、「成人・高齢者看護学実習」「小児看護学実習」「母性看護学実習」「精神看護学実習」「地域・在宅看護学実習」において、質の高い安全で安心な看護を提供するために、論理的判断に基づいて実践が計画・実施できるように臨地実習で体験的に学修する。</p> <p>臨地において、対象者の状況をアセスメントし、問題点を明確にし、解決もしくは改善するための看護計画を立案し実施できる能力を養うため、「看護の展開科目」では、さまざまな臨地において、さまざまな健康・障害レベルにある対象者に対して、論理的思考に基づく判断のもと、適切な看護が提供できるように、看護過程を展開する。看護過程の展開にあたっては、チーム医療、保健・医療・福祉との連携が不可欠であり、「健康支援と制度」における学修と結びつけながら、創造性をもって実践を行う。</p> <p>「看護の統合Ⅰ（演習）」「看護の統合Ⅱ（演習）」では、これまでの学修を統合して、医療現場で起こりうる事例（多重課題など）に対応できるように、看護実践力を育成する。事例に対する看護実践方法は学生が課題や問題状況に対して、解決策を論理的に思考し、主体的に考えることを基本として学修を展開する。</p> <p>(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を採</p>	<p>理的判断に基づいて看護実践ができる能力の育成</p> <p>看護実践において不可欠な論理的に判断する能力は、学部共通科目、専門基礎科目から、専門科目へと学生の参加型授業を通じ育成する。看護実践の場における基礎的な判断能力の修得に向け、「看護の基礎科目」にヘルスアセスメントを配置している。「看護の展開科目」では、質の高い安全で安心な看護を提供するために、論理的判断に基づいて実践が計画・実施できるように臨地実習で体験的に学修する。</p> <p>(4) 看護を探究し続ける高い創造性と問題発見・解決できる基礎的能力の育成</p>
---	---

<p>求し自己研鑽できる能力の育成</p> <p>専門職業人として、自己のキャリア開発やより良い看護提供に資する課題を探求し学び続けるための基礎能力を育成するために「看護理論と実践」「緩和ケア」「災害看護論」「看護管理学」「看護教育学」「国際看護論」「看護の統合Ⅰ（実習）」「看護の統合Ⅱ（実習）」と「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を設置する。</p> <p>「看護理論と実践」は、学生の看護理論への興味を高め、看護理論の概要と理論が実践でどのように応用されているのかを理解するため領域別実習の前に配置した。臨地実習において、看護理論に興味を持った学生が主体に学修することを意図している。</p> <p>「緩和ケア」「看護教育学」「国際看護論」「地域精神保健学」は、学生が自己の将来像や興味に従って、学修が深められるように4年次に選択として配置した。「災害看護論」「看護管理学」「看護の統合Ⅰ（演習）」は、将来看護師として、社会に貢献するために必要な科目であり、必修として4年次に配置した。</p> <p>「看護の統合Ⅱ（実習）」は、学生が持つ課題や興味に従って、実習を組み立てる内容で、現場に出て看護を実践する上で、責任ある看護を展開するために、自分の不十分な点を見直したり、より深めたい点について実習を行う。就職目前であり、学生ではあるが専門職業人として、主体的に実習を計画・調整し、社会人となる使命感と責任感を養う。</p> <p>卒業研究として、4年次に「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を配置する。学生個々が研究課題を発見し、研究に取り組むことによって、論理的な思考力を養い、研究の一連の過程を体験する。看護の探求に必要な基本的な能力を養う。</p>	<p>看護実践において、対象者の状況を判断し、解決もしくは改善するための看護を展開できる能力を養うため、「看護の展開科目」では、さまざまな臨地において、さまざまな健康・障害レベルにある対象者に対して、適切な判断のもと、適切な看護が提供できるように、看護過程を展開する。看護過程の展開にあたっては、チーム医療、保健・医療・福祉との連携が不可欠であり、「健康支援と制度」における学修と結びつけながら、創造性をもって実践を行う。専門職業人として、自己のキャリア開発やより良い看護提供に資する課題を探求し学び続けるための基礎能力を育成するために「緩和ケア」「災害看護論」「看護管理学」「感染看護学」「看護教育学」「国際看護論」「看護の統合Ⅰ（演習）」「看護の統合Ⅱ（演習）」「看護の統合Ⅰ（実習）」「看護の統合Ⅱ（実習）」と「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を設置する。</p>
---	--

成績評価にあたっては、科目ごとに到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、定期試験、課題レポート、実技試験、授業への参加度など、評価の割合も示して、公正さと透明性を確保する。	成績評価にあたっては、科目ごとに到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、定期試験、課題レポート、実技試験、授業への参加度など、評価の割合も示して、公正さと透明性を確保する。
---	---

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

2. 審査意見1のとおり、設置の趣旨や養成する人材像、3つのポリシーの整合性に疑義があるため、その妥当性を判断することができないものの、カリキュラム・ポリシーについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- (1)カリキュラム・ポリシー(1)において一般教養科目を配置する趣旨等に関する記載が希薄であり、どのような趣旨で当該科目を配置するのかが判然としない。
- (2)カリキュラム・ポリシー(2)に「社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術の育成」を掲げているものの、当該ポリシーに対応する授業科目として挙げられている科目との関係性が明確ではない。
- (3)カリキュラム・ポリシー(1)及びディプロマ・ポリシー(1)において「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心」の育成が掲げられているものの、カリキュラムマップでは「看護倫理学」が対応していない。

(対応)

- (1)「カリキュラム・ポリシー(1)において一般教養科目を配置する趣旨等に関する記載が希薄であり、どのような趣旨で当該科目を配置するのかが判然としない。」との指摘に対しては、以下のとおりアドミッションポリシー(1)の記載を改める。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
<p>4-1 カリキュラムポリシー(10ページ)</p> <p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護学の基本的な知識を理解するためには、その知識の意味を人文科学、社会科学、自然科学および多文化・異文化に関する知識と関連付けて理解することが必要となる。看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解するために、「心理学」「日本国憲法」「社会福祉学」を、医療との関連も深く現代の社会における教養として求められている「統計学」「情報処理演習Ⅰ」を、医療に必要な「コミュニケーション演習」「医学英語Ⅰ・Ⅱ」を、学生の健康作りのために「体育実技Ⅰ」の科目を必修として設置している。医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、その他に</p>	<p>4-1 カリキュラムポリシー(9ページ)</p> <p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解し、医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、「日本国憲法」「社会福祉学」「統計学」「医学英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」「体育実技Ⅰ」「コミュニケーション演習」「心理学」の科目を必修として設置している。その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教養科目を配置している。</p>

も、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教育科目を配置している。	
--	--

(2)「カリキュラム・ポリシー(2)」に「社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術の育成」を掲げているものの、当該ポリシーに対応する授業科目として挙げられている科目との関係性が明確ではない。」との指摘に対しては、審査意見1に基づき、カリキュラムポリシーの見直しを行う。これによりカリキュラムポリシー(2)及びこれに対応する授業科目の内容について、以下のとおり修正する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
<p>4-1 カリキュラムポリシー(10ページ)</p> <p>(2)質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成</p> <p>看護に必要な科学的な知識を体系的に理解するために、人体の構造や機能、病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。</p> <p>専門科目では、最新の知見に基づき、看護を実践し得る専門知識と技術を教授するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護専門職として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する。「チーム医療論」は、看護を展開する上で早期に必要な</p>	<p>4-1 カリキュラムポリシー(9ページ)</p> <p>(2)社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術の育成</p> <p>人体の構造や機能、病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。</p> <p>専門科目では、最新の知見に基づき、社会の要請に応えうる看護を実践し得る専門知識と技術を養成するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。看護専門職として必要な知識と技術は、「看護の基礎科目」において実践に向けた基礎的な知識と技術を修得する。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術を修得する。</p>

<p>な知識であるため、1年次に配置した。現代の医療において、看護を実践するにはチーム医療は不可欠な考え方であり、常にチームでどう展開するかを考えて実践に結び付けることができるように組み立てた。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術・態度を修得する。「感染看護学」はどの領域においても共通して重要であり、かつ感染予防に関する知識は看護実践に不可欠であることから、基礎看護学実習Ⅱ・領域別の実習が開始される前の2年生後期に必修として配置した。</p>	
--	--

(3)「カリキュラム・ポリシー(1)及びディプロマ・ポリシー(1)において「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心」の育成が掲げられているものの、カリキュラムマップでは「看護倫理学」が対応していない。」との指摘に対しては、「看護倫理学」(必修)の配当年次を1年生後期に変更する。この変更に合わせて、カリキュラムマップ【資料3】上の対応についても修正し、ディプロマポリシーの「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている」に対応していることを明示する。

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

3. ディプロマ・ポリシーで「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心」を掲げるなど、倫理観を重要な能力として捉えていると見受けられる一方で、対応する授業科目として説明されている「看護倫理学」は「実習体験に基づいて倫理観・道徳心が深められる」ように4年次に履修する授業科目とされているものの、その内容は看護倫理の基礎知識を扱うものに過ぎず、実習後に履修する趣旨・妥当性が明確ではない。加えて、例えばチーム医療の基礎知識を修得する「チーム医療論」等の看護学において重要かつ基礎的な内容を取り扱う授業科目について、4年次に履修するものが散見されるなど、教育課程の体系性・妥当性が全般的に不明確である。審査意見1及び2への対応も踏まえつつ、これらの基礎的かつ重要な知識の修得を目的とした授業科目の配当年次の趣旨や妥当性を含めて、教育課程の体系性・妥当性を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を受け、「チーム医療論」については1年生前期に、「看護倫理学」については1年生後期にそれぞれ必修科目として配置するよう改める。

これに伴い、カリキュラムポリシーの内容についても、下記のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
<p>4-1 カリキュラムポリシー(10ページ)</p> <p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護学の基本的な知識を理解するためには、その知識の意味を人文科学、社会科学、自然科学および多文化・異文化に関する知識と関連付けて理解することが必要となる。看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解するために、「心理学」「日本国憲法」「社会福祉学」を、医療との関連も深く現代の社会における教養として求められている「統計学」「情報処理演習Ⅰ」を、医療に必要な「コミュニケーション演習」「医学英語Ⅰ・Ⅱ」を、学生の健康作りのために「体育実技Ⅰ」の科目を必修として設置している。医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人</p>	<p>4-1 カリキュラムポリシー(9ページ)</p> <p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解し、医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、「日本国憲法」「社会福祉学」「統計学」「医学英語Ⅰ・Ⅱ」「情報処理演習Ⅰ」「体育実技Ⅰ」「コミュニケーション演習」「心理学」の科目を必修として設置している。その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教養科目を配置している。また、看護専門職として必要な倫理観や道徳心を初年度から卒業まで継続的に育成するため、1年次から「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」を行う。2年次以降の専門科目の演習・実習で倫理観や道徳心</p>

<p>文・社会・自然の分野から選択できるように一般教育科目を配置している。また、<u>看護専門職として必要な倫理観や道德心を初年度から育成するため、1年次に「看護倫理学」を必修として配置した。1年次には「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」においても、倫理観や道德心を涵養する。1年次に倫理観をしっかりと養っておくことによって、2年次以降の専門科目の演習・実習を通して倫理観や道德心を深められるよう教育を行う。</u></p> <p>(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成</p> <p>看護に必要な科学的な知識を体系的に理解するために、人体の構造や機能、病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。</p> <p>専門科目では、最新の知見に基づき、看護を実践し得る専門知識と技術を教授するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護専門職として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する。「<u>チーム医療論</u>」は、看護を展開する上で早期に必要な知識であるため、1年次に配置した。現代の</p>	<p>を養い、4年次後期には「看護倫理学」を必修とし、実習体験に基づいて倫理観・道德心が深められるように授業科目を配置している。</p> <p>(2) 社会の要請に応えうる看護師としての知識と技術の育成</p> <p>人体の構造や機能、病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。専門科目では、最新の知見に基づき、社会の要請に応えうる看護を実践し得る専門知識と技術を養成するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。看護専門職として必要な知識と技術は、「看護の基礎科目」において実践に向けた基礎的な知識と技術を修得する。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術を修得する。</p>
---	--

<p>医療において、看護を実践するにはチーム医療は不可欠な考え方であり、常にチームでどう展開するかを考えて実践に結び付けることができるように組み立てた。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術・態度を修得する。「感染看護学」はどの領域においても共通して重要であり、かつ感染予防に関する知識は看護実践に不可欠であることから、基礎看護学実習Ⅱ・領域別の実習が開始される前の2年生後期に必修として配置した。</p>	
---	--

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

4. アドミッション・ポリシーに「看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人」が掲げられている一方で、教育課程にも基礎的なコミュニケーションを学ぶ科目が配置されており、入学者選抜段階でコミュニケーション能力を担保した上で、入学後に改めて当該能力の涵養(かんよう)を目的とした科目が配置されていることの趣旨が判然としない。このため、審査意見1への対応を踏まえ、コミュニケーション能力に係る教育について、アドミッション・ポリシーや入学者選抜との関係を明らかにした上で、その妥当性を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

本学の入学者選抜において アドミッションポリシーに定める「看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人」に係る要素は、主に面接試験において判断する。

面接試験は、学力の 3 要素のうち、主に「思考力・判断力・表現力」及び「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」と強い関係があると判断している(入学者選抜の評価方法と学力の3要素との関係【資料4】のとおり。)ため、主に面接における「聞く」、「意見をまとめる」、「話す」といったコミュニケーションスキルで得点化し、評価を行う。

入学試験時に確認したコミュニケーション能力は、試験時における評価であり、将来看護師として業務を行うために求められる体系的な能力まで修得しているとは判断することは難しい。また、一般入試では面接試験を実施しないことから、当該受験生のコミュニケーションに関する能力を確認することが困難である。

そのため入学後早い段階でコミュニケーション能力に関して基礎的な内容から学び、臨床での活用につなげる必要があると考える。このことから、本学科で開講する「コミュニケーション演習」は、単なる知識(ハウツー)の獲得ではなく、演習として朗読、音楽、グループワーク、ロールプレイなどを導入しコミュニケーションをとることの本質的な意味を体験学習することとしている。この授業をとおして医療従事者として必要な実践的なコミュニケーション能力の獲得を目指すこととしている。

これらのことから本学におけるアドミッションポリシーから、入学者選抜、授業科目の実施は一貫した関係があり、「コミュニケーション演習」を1年次後期に必修科目として配置することは妥当であると考え。

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

5. シラバスについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。また、シラバス全体を改めて網羅的に点検した上で、同様の個所を適切に改めること。

- (1) 例えば、「基礎看護技術学Ⅰ」について、到達目標の記載が抽象的であり、授業計画や成績評価方法等との整合性を判断することができない。
- (2) 例えば、「看護の統合Ⅰ(演習)」及び「看護の統合Ⅱ(演習)」について、具体的なシミュレーション教育の内容が不明確であったり、「看護の統合Ⅰ(実習)」の3日目の授業内容が「病棟看護師長への随行実習」という抽象的な記載であったりするなど、授業計画で示された各回の授業内容の記載が抽象的で、学修到達目標に合致した授業計画になっているか判然としない。
- (3) 担当教員の氏名を明示することに加えて、ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、概要欄及び到達目標欄の内容について、当該授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性が明確になるよう具体的な記載に改めること。
- (4) 「成績評価方法及び基準」欄について、評価方法の記載はあるが、評価基準に係る記載が見受けられない。
- (5) 「基礎ゼミナール」の「成績評価方法及び基準」欄にある「グループワークへの参加度」は抽象的なため、より客観的かつ具体的な記載に改めること。

(対応)

今回の指摘を受け、シラバスについて、網羅的に点検し、修正する。【資料5】

今回指摘があった5点について、以下のとおり修正する。

- (1) 例えば、「基礎看護技術学Ⅰ」について、到達目標の記載が抽象的であり、授業計画や成績評価方法等との整合性を判断することができない。

(対応) 到達目標の記載を以下のとおり改める。これに基づき、各授業計画についても修正する。

なお、当該授業科目以外にも全ての授業科目において点検・見直しを行い、授業計画や成績評価方法等との整合性を持つよう到達目標を改めた。

新	旧
1. コミュニケーション技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。	1. 病院の持つ設備、機能と療養環境について説明できる。
2. 教育指導技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。	2. 患者が受けている看護援助の実際について説明できる。
3. 感染予防に関して感染源への対策、感染経路への対策について説明できる。	3. 看護師間・他職種間の連携の実際について説明できる。
4. 感染予防の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。	4. 患者の気持ちや入院生活におけるニーズについて理解できる。
	5. 実習から自己の学習課題を明確にする。

<p>5. 感染予防の技術(手洗い、防護用具、滅菌物の取り扱い)が演習で実施できる。</p> <p>6. 安全管理、安楽確保の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。</p> <p>7. 安楽な体位の保持と安全確保の技術が演習で実施できる。</p> <p>8. 環境を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。</p> <p>9. 環境を整える技術(ベッドメイキング)が演習で実施できる。</p> <p>10. 活動・休息の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。</p> <p>11. 活動・休息の援助技術(体位変換、移動、移送)が演習で実施できる。</p>	
--	--

(2)例えば、「看護の統合Ⅰ(演習)」及び「看護の統合Ⅱ(演習)」について、具体的なシミュレーション教育の内容が不明確であったり、「看護の統合Ⅰ(実習)」の3日目の授業内容が「病棟看護師長への随行実習」という抽象的な記載であったりするなど、授業計画で示された各回の授業内容の記載が抽象的で、学修到達目標に合致した授業計画になっているか判然としない。(対応)シラバスにおいて、当該授業科目の到達目標及び授業のテーマ、内容について見直しを行い、修正する。

(3)担当教員の氏名を明示することに加えて、ディプロマ・ポリシーの達成に向けて、概要欄及び到達目標欄の内容について、当該授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性が明確になるよう具体的な記載に改めること。

(対応)担当教員の氏名について、全てのシラバスにおいて、フルネームで記載するよう改める。また、概要及び到達目標欄において、ディプロマポリシーとの関連性について記載する。

(4)「成績評価方法及び基準」欄について、評価方法の記載はあるが、評価基準に係る記載が見受けられない。

(対応)「成績評価方法及び基準」欄の記載方法を改め、評価基準に関する記載を加える。また、評価基準について、網羅的に見直しを行い、より客観的な表現となるよう改める。

(5)「基礎ゼミナール」の「成績評価方法及び基準」欄にある「グループワークへの参加度」は抽象的なため、より客観的かつ具体的な記載に改めること。

(対応)当該授業科目の「成績評価方法及び基準」欄の記載内容を以下のとおり改める。

新	旧
<p>自己の学修課題についての個人レポート(50%)、倫理観についての個人レポート(50%)の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>いずれのレポートも、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>	<p>グループワークへの参加度と発表内容(60%)、最終課題レポート(40%)</p>

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

6. 必修科目として「看護倫理学」を4年後期に配置しているが、看護実践における倫理の重要性等に鑑みれば、看護倫理の基礎知識を学ぶ本授業科目は、教育課程の履修上、早期に配当することが必要と考えられるため、適切な配当年次に改めること。

(対応)

今回の指摘を受け、「看護倫理学」を1年後期に必修科目として配置することとする。

合わせてディプロマポリシーの「幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている」に対応するよう、カリキュラムマップ【資料3】を修正する。

7. 各実習科目や「看護研究Ⅱ」の成績評価について、「評価表」を用いて評価を行う旨の記載があるが、評価に用いる「評価表」が示されておらず、具体的な評価方法等が不明確であるから、それぞれの「評価表」を示した上で、明確に説明すること。

(対応)

評価表(案)を資料として添付すると共に、当該授業科目のシラバスにおいて、具体的な評価方法となるよう改める。

評価表は、当該実習等において到達すべき目標を項目毎に示し、得点化する。これによって客観的指標に基づいた評価を行い、的確な学生へのフィードバックを行うこととする。

各実習においては、評価表 80%、実習の学びをまとめた総合レポート 20%、合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定することとし、実習における到達状況とそれをまとめる能力の双方を評価する。

「看護研究Ⅱ」においては、「看護研究Ⅰ」で学んだ、研究を行う一連の流れを基に、個人またはグループで卒業研究を実施しその成果を卒業論文として作成する。その上で大学内において発表を行う。これらの体験をとおして今後看護を探究していくために必要な基礎的研究能力を獲得することを目指す。このような科目の特徴から、評価表は実技科目の評価表とは異なり、研究のプロセス、卒業研究論文に対する評価、発表会のそれぞれについて評価項目を定め得点化する。

卒業研究に関する一連の流れを評価することから、「看護研究Ⅱ」は評価表において60%以上の評価で単位を認定することとする。

(改善事項) 和歌山保健医療学部 看護学科

8. 「GPA1.0 未満の学生に対しては、本人に対する退学勧告を行うとともに保護者との面談を行うことがある。」との記載があるが、学則にはそのような記載は見当たらない。記載根拠を明確に説明すること。

(対応)

GPAに基づく学生指導及び保護者との面談については、「宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 看護学科 学習成果の評価に関する方針(アセスメントポリシー)」において定めている。

審査意見を受け、アセスメントポリシーの記載内容について点検し、退学の勧告は GPA のみで学生に通達するものではなく、平素の担任・副担任による学生指導、オフィスアワーでの学生相談などを経た指導をもとに、本人の学修意欲、環境等を確認した上で慎重に行うものである。このことから、アセスメントポリシーについて、以下のとおり記載内容を改める。【資料6】

アセスメントポリシーは、毎年学生に配布する「学生便覧」に記載し、学生に周知すると共に、学生向けのオリエンテーションなどの機会を利用し、説明を行う。

新	旧
各科目の評価をもとに GPA を算出する。 GPA は学内の奨学生選考に利用されるほか、 GPA が 1.5 以下の学生に対しては教育指導を 行い、GPA が 1.0 未満の学生に対しては、本 人に対する進路選択を含めた教育指導を行う とともに保護者との面談を行うことがある。	各科目の評価をもとに GPA を算出する。 GPA は学内の奨学生選考に利用されるほか、 GPA が 1.5 以下の学生に対しては教育指導を 行い、GPA が 1.0 未満の学生に対しては、本 人に対する退学勧告を行うとともに保護者との 面談を行うことがある。

(是正事項) 和歌山保健医療学部 看護学科

9. 審査意見1のとおり、設置の趣旨や養成する人材像、3つのポリシーの整合性・妥当性に疑義があるため、入学者選抜の妥当性を判断することはできないが、審査意見1への対応を踏まえ、アドミッション・ポリシーと各選抜方法が整合することを明らかにした上で、入学者選抜に係る以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- (1) 総合型選抜について、「オープンキャンパス等での総合型選抜事前説明会の受講」を出願要件としているが、その趣旨等が不明確である。
- (2) 総合型選抜における3つの選抜方法について、日程等の違いが不明確であり、その設定趣旨が判然としない。
- (3) 社会人入学試験において、学力試験を設けておらず、アドミッション・ポリシーに掲げる学力等を適切に測ることができるのか不明確である。
- (4) 各選抜方法における、試験内容ごとの点数配分が不明確である。

(対応)

審査意見1への対応を踏まえ、本学の入学者選抜においては、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、アドミッションポリシーに基づき、「学力の3要素」(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」)を多面的・総合的に評価するため、多様な選抜方法により入学試験を行うこととし、その関連性及び内容について点検した。

入学者選抜に関する記載を修正すると共に、各選抜に関する評価方法手等について明確にするため、修正する。合わせて【資料4】入学者選抜の評価方法と学力の3要素との関係についても修正する。

また、指摘があった項目以外にも全体的な見直しを行い、各入学者選抜方法における得点配分の考え方等を明確にするため、修正する。

(1)「総合型選抜について、「オープンキャンパス等での総合型選抜事前説明会の受講」を出願要件としているが、その趣旨等が不明確である。」ことに関して、総合型選抜事前説明会は、受験生が本学の教育の特色や教育課程及びアドミッションポリシーについて充分説明を受ける機会としてオープンキャンパスを想定しており、オープンキャンパスと同時に開催することを意図しているため、このような記載をしていた。今回の指摘を受け、総合選抜事前説明会はオープンキャンパスに付随するものではなく、入学者選抜に係る手続きであること、オープンキャンパス以外でも総合選抜事前説明会を行う可能性があることから、その内容を明確にするると共に、記載内容を以下のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(27 ページ)

新	旧
9-2 入学者選抜について(27ページ) ① 総合型選抜 総合型選抜事前説明会の受講を出願要件	9-2 入学者選抜について(25ページ) ① 総合型選抜 オープンキャンパス等での総合型選抜事前

<p>とする。これは、入学後のいわゆるミスマッチによる問題の発生を防ぎ、退学者等の減少を目的とする。当該説明会において本学科の特色、教育内容及びアドミッションポリシー等を十分に説明し、受験生からの質疑にも応じる。これによって本学側では受験生の本学への進学の意味を確認する。受験生側は本学科への理解を深める。その上で基礎能力試験により主として「知識・技能」、面接・書類審査により「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。</p>	<p>説明会の受講を出願要件とする。当該説明会においてアドミッションポリシーを十分に周知させ、基礎能力試験により主として「知識・技能」、面接・書類審査により「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。</p>
--	--

(2)「総合選抜における3つの選抜方法について、日程等の違いが不明確であり、その設定趣旨が判然としない」。ことに関して、以下のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(27 ページ)

新	旧
<p>9-2 入学者選抜について(27ページ)</p> <p>① 総合型選抜</p> <p>総合型選抜事前説明会の受講を出願要件とする。これは、入学後のいわゆるミスマッチによる問題の発生を防ぎ、退学者等の減少を目的とする。当該説明会において本学科の特色、教育内容及びアドミッションポリシー等を十分に説明し、受験生からの質疑に応じる。これによって本学側では受験生の本学への進学の意味を確認する。受験生側は本学科への理解を深める。その上で基礎能力試験により主として「知識・技能」、面接・書類審査により「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。</p> <p><u>総合選抜型は A・B・C の3つの日程を設定する。試験の日程は A・B・C の順に別日程で実施する。3つの日程を設けることで、受験生によって、課外活動や、学外活動などにより、当該選抜の受験が困難になることを避け、受</u></p>	<p>9-2 入学者選抜について(25ページ)</p> <p>① 総合型選抜</p> <p>オープンキャンパス等での総合型選抜事前説明会の受講を出願要件とする。当該説明会においてアドミッションポリシーを十分に周知させ、基礎能力試験により主として「知識・技能」、面接・書類審査により「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。</p>

験機会の多様化に対応する。	
---------------	--

(3)「社会人入学試験において、学力試験を設けておらず、アドミッション・ポリシーに掲げる学力等を適切に図ることが出来るのか不明確である」ことに関して、以下のとおり改める。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(29 ページ)

新	旧
<p>9-2 入学者受入れの方針 (29 ページ)</p> <p>④ 社会人入学試験</p> <p>オープンキャンパス及び学生募集要項等においてアドミッションポリシーを周知徹底する。</p> <p>小論文及び面接により合否を判定する。</p> <p>学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)の内、①と②を評価するために小論文(100点)と面接(100点)に重点を置く。特に小論文では「語彙力」「論旨の正確さと一貫性」「内容の獨創性」等の基礎的な能力を評価する。③はこれまでの社会人経験の中で一定程度修得しているものと想定している。</p>	<p>9-2 入学者受入れの方針 (26 ページ)</p> <p>④ 社会人入学試験</p> <p>オープンキャンパス及び学生募集要項等においてアドミッションポリシーを周知徹底し、小論文と面接により「知識・技能」のほか「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について評価する。</p>

(4)「各選抜方法における、試験内容ごとの点数配分が不明確である」ことに関して、下表のとおり配点を追加する。

入学試験区分	募集定員	出願要件等	選抜方法
総合型選抜 (AO 基礎能力試験 A・専願型)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・本学を専願とし、高等学校・中等教育学校を令和4年3月に卒業見込みの者 ・本学が規定する「大学入学資格」を有する者 ・総合型選抜事前説明会を受講した者 	<p>総合型選抜事前説明会を受講した者を対象に、1次試験では基礎能力試験・面接・書類審査(調査書・本人が記述した志望理由書・活動報告書等)により、2次試験では課題レポートを審査することにより、2段階選抜を行う。</p> <p>【配点】</p>

			<p>基礎能力試験 100点 面接 100点 書類審査 50点 課題レポート A～Dの4段階で評価</p>
総合型選抜 (AO 基礎能力試験 B・専願型)			<p>総合型選抜事前説明会を受講した者を対象に、本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、基礎能力試験・面接・書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】 基礎能力試験 100点 面接 100点 書類審査 50点</p>
総合型選抜 (AO 基礎能力試験 C・併願型)		<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校・中等教育学校を令和4年3月に卒業見込みの者 ・本学が規定する「大学入学資格」を有する者 ・総合型選抜事前説明会を受講した者 	<p>総合型選抜事前説明会を受講した者を対象に、本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、基礎能力試験・面接・書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】 基礎能力試験 100点 面接 100点 書類審査 50点</p>
学校推薦型選抜(指定校推薦入試)	15	<ul style="list-style-type: none"> ・本学を専願とし、高等学校・中等教育学校を令和4年3月に卒業見込みの者 ・学校長の推薦を受けられるもの 	<p>本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、小論文・面接・書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】 小論文 100点 面接 100点 書類審査 50点</p>

<p>一般選抜 (一般入試)</p>	<p>15</p>	<p>本学が規定する「大学入学資格」を有する者</p>	<p>調査書・本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、学科試験(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、国語総合、数学ⅠA、化学基礎、生物基礎から2科目選択 *化学基礎と生物基礎の組み合わせは不可)と書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】 学科試験 100点×2 書類審査 50点</p>
<p>一般選抜 (大学入学共通テスト利用入試)</p>	<p>5</p>	<p>本学が規定する「大学入学資格」を有する者</p>	<p>調査書・本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、大学入学共通テスト 英・国・数(Ⅰ or ⅠA)・理(物基・化基・生基・物・化・生から2科目)から高得点2教科2(3)科目選出の成績により選抜を行う。</p> <p>【配点】 学力試験 100点×2 *全ての科目を100点に換算する。 書類審査 50点</p>
<p>社会人入学試験</p>	<p>若干</p>	<p>・令和4年4月2日時点で満20歳に達しており、本学が規定する「大学入学資格」を有する者 ・概ね2年以上の就業経験があること(主婦・家事従事者・アルバイト等を含む)</p>	<p>小論文・面接の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】 小論文 100点 面接 100点</p>

(改善事項) 和歌山保健医療学部 看護学科

10. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

現在計画している和歌山保健医療学部看護学科の専任教員の年齢構成は、下表のとおりである。

専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、開設後から計画的な若手教員の昇任・公募・採用活動を行う。

具体的には、採用した若手教員の学位取得を推奨し、学部内での業務分担を行い、大学院への通学、研究活動を推進する。完成年度の令和7年を目処に昇任が出来るよう、支援する。

また、教授を中心に若手教員の研究活動に対するアドバイスをを行い、研究の充実を図る。

これにより教員組織の継続的な若返りを図る。

また、計画的に定年により退職する教員の後任者の公募を行い、教育研究活動に支障を来さないよう対応すると共に、積極的に若手教員の採用を行う。合わせて昇任する助手の後任者についても公募・採用を行う。

和歌山保健医療学部看護学科年齢構成表

(単位:人)

年齢	令和4年4月1日 現在	令和5年4月1日 現在	令和6年4月1日 現在	令和7年4月1日 現在
70歳以上	2	3	3	4
60～69	6	5	6	6
50～59	8	8	8	7
40～49	4	4	3	3
30～39	1	1	1	1
計	21	21	21	21

審査意見への対応を記載した書類（6月）別添資料 目次

資料 1	宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・人材養成像・ 3つのポリシー	P2
資料 2	宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・人材養成像・ 3つのポリシー関連図	P4
資料 3	履修系統図（カリキュラムマップ）	P5
資料 4	入学者選抜の評価方法と学力の3要素との関係	P6
資料 5	シラバス	P7
資料 6	アセスメントポリシー	P201

【資料 1】

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・人材養成像・3つのポリシー

【建学の精神】

徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもち有徳の人材を育成する

【和歌山保健医療学部看護学科の教育理念】

人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意志と能力を持った看護職者を養成することおよびそれを通じて、医療チームの一員として他職と協同しながら、医療・保健・健康・福祉の向上および地域医療への貢献に資することを目的とする

【養成する人材像】

1. 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材
2. 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材
3. 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる人材
4. 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる人材

【学位授与の方針】ディプロマポリシー

本学科では大学の目的、学科の教育理念、養成する人材像を踏まえ、必要な単位を取得し以下の能力を有すると認められた者に学位を授与する

1. 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。
2. 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。
3. 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる。
4. 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。

【教育課程の編成方針】カリキュラムポリシー

教育課程は授業科目を学部共通科目、専門基礎科目、専門科目の3区分に分け体系的に配置する。本学の理念である「徳義の涵養と人間性尊厳の実践」を基盤に看護専門職として総合的な能力を有し、社会に貢献できる人材を育成するために、

- ・ 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成
- ・ 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成
- ・ 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる能力の育成
- ・ 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる能力の育成

の4つの方針に従って策定し、カリキュラム全体をとおして看護専門職にふさわしい人間性と倫理観を持ち、社会の要請に応えられる社会人を育成する。

1. 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成
学部共通科目は、地域への理解、幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身につけることを目的とした科目で構成され、主に1年次から2年次において開講する。
2. 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成
専門基礎科目は、看護専門職として必要な人体構造・機能、疾病論、保健・福祉・情報関係の基礎を学び、看護師として必要な基盤となる知識を身につけることを目的として配置する。
専門科目は、社会の要請に応えるとともに看護専門職として必要な知識及び技術・態度を身につけることを目的とし、1年次から3年次前期において段階的に開講する。
3. 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる能力の育成
看護師として必要な基盤となる知識、看護学の専門領域の知識と技術・態度をもとに論理的判断に基づいて看護実践ができる能力の育成を目的として、3年次後期から4年次前期に臨地実習科目を配置する。卒業前に実践能力を強化するため統合科目として演習を開講する。
4. 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる能力の育成
専門科目のうち、4年次後期開講科目・看護の統合科目（実習）・看護研究は、発展的・統合的な科目群であり、より良い看護を实践する使命感と責任感を持って、看護を探究し自己研鑽できる能力を育成することを目的に配置する。

【入学者受入の方針】アドミッションポリシー

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、以下の適性・意欲・能力を有する学生を受け入れることとする。

1. 看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人。
2. 思いやりと優しさを備え、協調性に富む人。
3. 看護職として社会に貢献したい人。
4. 学力の3要素につながる基礎的学力を備えている人
5. 看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人。
6. 自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人。

【資料2】

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・3つのポリシー関連図

【建学の精神】

徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する

【和歌山保健医療学部看護学科の教育理念】

人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意志と能力を持った看護職者を養成することおよびそれを通じて、医療チームの一員として他職と協同しながら、医療・保健・健康・福祉の向上および地域医療への貢献に資することを目的とする

ディプロマポリシー

幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている

質の高い看護実践に必要な知識・技術・態度を身につけている

論理的思考力、問題発見・解決の能力をも持ち、看護を実践出来る

看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる

カリキュラムポリシー

学部共通科目は、地域への理解、幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身につけることを目的とした科目で構成され、主に1年次から2年次において開講する。

専門基礎科目は、看護専門職として必要な人体構造・機能、疾病論、保健・福祉・情報関係の基礎を学び、看護師として必要な基盤となる知識を身につけることを目的として配置する。
専門科目は、社会の要請に応えるとともに看護専門職として必要な知識及び技術・態度を身につけることを目的とし、1年次から3年次前期において段階的に開講する。

看護師として必要な基盤となる知識、看護学の専門領域の知識と技術・態度をもとに論理的判断に基づいて看護実践ができる能力の育成を目的として、3年次後期から4年次前期に臨地実習科目を配置する。卒業前に実践能力を強化するため統合科目として演習を開講する。

専門科目のうち、4年次後期開講科目・看護の統合科目（実習）・看護研究は、発展的・統合的な科目群であり、より良い看護を実践する使命感と責任感を持って、看護を探究し自己研鑽できる能力を育成することを目的に配置する。

アドミッションポリシー

看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人

思いやりと優しさを備え、協調性に富む人

看護職として社会に貢献したい人

学力の3要素につながる基礎的学力を備えている人

看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人

自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考力を持つ人

履修系統図(カリキュラムマップ)

科目群	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位		
学部共通科目	一般教育科目	人文	東洋思想論	2	日本の文化	2												
			哲学	2	文化人類学	2												
		社会	日本国憲法	2	社会と法	2												
			社会福祉学	2	わかやま未来学	2												
	自然	統計学	2	物理学	2													
		数学	2	生物学	1													
		化学	2															
	外国語科目	英語	1	医学英語Ⅰ	1			医学英語Ⅱ	1									
	情報処理	情報処理演習Ⅰ	1	情報処理演習Ⅱ	1													
	スポーツ・健康科学			体育実技Ⅰ	1	健康と体づくり	2	健康トレーニング演習	1	スポーツトレーニング学	2							
総合教養科目	基礎ゼミナール	1	コミュニケーション演習	1	メディカルツーリズム論	2	心理学	2							医療経営学	2		
			伝統医療論	2														
専門基礎科目	人体の構造と機能および疾病と回復	解剖学Ⅰ	1	薬理学	1	病態生理・治療学Ⅰ (成人急性期)	2	看護物理学	1									
				解剖学Ⅱ	1	病態生理・治療学Ⅱ (成人慢性期)	2	病態生理・治療学Ⅲ (老年)	1									
				生理学	1			病態生理・治療学Ⅳ (小児)	1									
				生化学	1			病態生理・治療学Ⅴ (母性)	1									
				臨床栄養学	1			病態生理・治療学Ⅵ (精神)	1									
				病理学	1			病態生理・治療学Ⅶ (リハビリテーション)	1									
				微生物学	1													
	健康支援と制度	人間関係論	1	関係法規	1	社会保障制度	2			カウンセリング論	1							
				医療情報学	1					公衆衛生学	1							
										疫学	1							
専門科目	看護の基礎科目	看護学概論	2	基礎看護技術学Ⅱ	2	基礎看護技術学Ⅲ	2	基礎看護技術学Ⅳ	1									
		基礎看護技術学Ⅰ	2	基礎看護学実習Ⅰ	1	ヘルスアセスメント	1	看護過程論	1									
		チーム医療論	1	看護倫理学	1			基礎看護学実習Ⅱ	2									
	看護の展開科目					成人看護学概論	2	成人看護学各論ⅠA (急性期・周手術期)	1	成人看護学各論ⅠB (急性期・救急看護・クリティカルケア)	1	成人・高齢者看護学実習Ⅰ (急性期)	2	緩和ケア	1			
						高齢者看護学概論	2	成人看護学各論ⅠB (慢性期)	1	リハビリテーション看護学	1	成人・高齢者看護学実習Ⅱ (慢性期)	2	災害看護論	1			
						小児看護学概論	2	高齢者看護学各論Ⅰ	1	高齢者看護学各論Ⅱ	1	成人・高齢者看護学実習Ⅲ (リハビリ期)	2	看護教育学	1			
						母性看護学概論	2	小児看護学各論Ⅰ	1	小児看護学各論Ⅱ	1	成人・高齢者看護学実習Ⅳ (生活支援)	2	地域精神保健学	1			
						精神看護学概論	2	母性看護学各論Ⅰ	1	母性看護学各論Ⅱ	1	成人・高齢者看護学実習Ⅴ (地域連携)	1	国際看護論	1			
						地域・在宅看護学概論	2	精神看護学各論Ⅰ	1	精神看護学各論Ⅱ	1	小児看護学実習	2	看護の統合Ⅱ (演習)	2			
								地域・在宅看護学各論Ⅰ	2	地域・在宅看護学各論Ⅱ	2	母性看護学実習	2	看護研究Ⅱ	2			
						感染看護学	1	看護理論と実践	1	精神看護学実習	2							
										地域・在宅看護学実習	2							
										看護の統合Ⅰ (演習)	2							
										看護の統合Ⅰ (実習)	1							
										看護の統合Ⅱ (実習)	2							
										看護研究Ⅰ	2							
										看護管理学	1							
必修計		16	15		21	20			11				25			5		
合計		24	31		26	23			14				25			11		

【履修系統図について】

- ・開講科目がどのような分野に配置されているかがわかります。
- ・各科目が学年進行のどこに位置しているかがわかります。
- ・4年間で開講する全ての授業科目が記載されています。
- ・下線のある授業科目は必修科目を表します。
- ・科目毎のディプロマポリシーとの関係は色で示しています。

【看護学科 ディプロマポリシー】

- 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理感・道徳心を身に付けている。
- 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。
- 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。
- 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。

*それぞれの項目に対応授業科目が同じ色で示されています。

【資料4】

入学者選抜の評価方法と学力の3要素及びアドミッションポリシーとの関係

◎：強い関係がある

○：関係がある

入試種別	入試区分	評価方法	学力の3要素		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
			学力の3要素に対応するアドミッションポリシー・学力の3要素につながる基礎的な学力を備えている人 ・看護職として社会に貢献したい人	学力の3要素に対応するアドミッションポリシー・看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人 ・思いやりと優しさを備え、協調性に富む人	学力の3要素に対応するアドミッションポリシー ・自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人 ・看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人
総合型選抜	AO基礎能力試験A・専願型	基礎能力試験	◎	◎	
		面接		◎	◎
		書類審査※	○	◎	○
		課題レポート		○	◎
	AO基礎能力試験B・専願型	基礎能力試験	◎	◎	
		面接		◎	◎
		書類審査※	○	◎	○
	AO基礎能力試験C・併願型	基礎能力試験	◎	◎	
面接			◎	◎	
書類審査※		○	◎	○	
学校推薦型選抜	指定校推薦入試	小論文	○	◎	○
		面接		◎	◎
		書類審査※	○	◎	○
一般選抜	一般入試	学科試験	◎	◎	
		書類審査※	○	◎	○
	共通テスト利用入試	学科試験	◎	◎	
		書類審査※	○	◎	○
社会人入学試験	-	小論文	○	◎	○
		面接		◎	◎

※書類審査：調査書・志望理由書・活動報告書による

宝塚医療大学宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎ゼミナール		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	關戸啓子、堤かおり、高田美子、那須さとみ、 大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 大学における学習方法やライフスタイルについて述べられる。
2. 自己評価を行い、自分の課題と改善方法について述べられる。
3. 看護を目指す学生として倫理観を身に付ける。
4. 看護を目指す学生として将来展望をもつ。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」
「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」が達成できるように、4年間に渡る学習への導入教育として、基本的な倫理観の育成、主体的な目標を持った学習方法を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

大学で学ぶための基礎及び学習内容について、課題の理解、調査、レポート作成、文献検索、過去の歴史的転換点となった論文抄読などを通して、大学で学ぶための学習方法や知識、ライフスタイルに気づかせる。それと同時に、総合的に自分の考えをまとめ、伝える能力を培う。そして、国際および情報社会に対応できる基本的な能力について、自己評価し、自分に必要なことを踏まえて、様々な問題や課題を自ら発見し、発展させられる能力を身に付ける。これらをとおして、科学的・論理的思考を育てて主体的な判断、行動する能力を培う。看護を目指す学生としての自覚と倫理観、将来展望を持ち、今後大学で目標をもって学べるように、職業観を育む。
この授業をとおして、看護を学ぶ大学生としての自覚を身に付け、大学での学びの具体的な実践能力を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：大学における学び方 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
2	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：大学における学び方 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
3	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：大学における学び方 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
4	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：望ましい大学生活 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
5	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：望ましい大学生活 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
6	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：望ましい大学生活 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
7	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：自己の学修課題 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
8	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：自己の学修課題 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
9	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：自己の学修課題 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理

10	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：倫理観について 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
11	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：倫理観について 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
12	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：倫理観について 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
13	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：将来展望 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
14	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：将来展望 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
15	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：将来展望 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理

成績評価方法及び基準

自己の学修課題についての個人レポート（50%）、倫理観についての個人レポート（50%）の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

いずれのレポートも、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

なし。適宜プリントを配布する。

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

グループで十分意見交換して、お互いに知り合う機会にもなると思います。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	臨床栄養学		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	關戸啓子			授業形態	講義

到達目標

1. 5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義について説明できる。
2. 日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法について説明できる。
3. 栄養アセスメントの意義と方法について説明できる。
4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活について説明できる。
5. 疾病回復のための食事療法について説明できる。
6. 食事指導および食育の方法について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、対象者の健康支援・疾病の回復に寄与する栄養学の基礎的な知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護の対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を提供するために必要な栄養学の基本知識について修得する。5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義、日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法、栄養アセスメントの意義と方法、健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活、疾病回復のための食事療法についての根拠と方法、疾病予防・健康増進のための食事指導および食育の留意点と方法を学ぶ。

この授業をとおして、対象者の健康支援・疾病の回復に寄与する栄養学の基礎的な知識を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：5大栄養素 内 容：体内における役割と栄養学的意義	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	關戸啓子	テーマ：5大栄養素 内 容：体内における役割と栄養学的意義	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	關戸啓子	テーマ：日本人の食事摂取基準 内 容：考え方と利用方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	關戸啓子	テーマ：栄養アセスメント 内 容：意義と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	關戸啓子	テーマ：健康生活を支える栄養 内 容：意義と望ましい食生活	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	關戸啓子	テーマ：疾病回復のための食事療法 内 容：根拠と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	關戸啓子	テーマ：疾病回復のための食事療法 内 容：根拠と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	關戸啓子	テーマ：食事指導および食育 内 容：留意点と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験（100％）で評価し、60％以上の評価で単位を認定する。

教科書

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(4)：臨床栄養学 第5版 （メディカ出版）

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

自分の食生活の振り返りにもなります。興味を持って学修してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	社会保障制度		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○岡本加奈子(兼任)、赤星誠、吉村牧子			授業形態	講義

到達目標

1. 社会保障制度の4つの柱について説明できる。
2. 社会保障制度の現状と課題について説明できる。
3. 障害者福祉制度について説明できる。
4. 障害者福祉制度の現状と課題について説明できる。
5. 介護保険制度について説明できる。
6. 介護保険制度の現状と課題について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、我が国の社会保障制度について基礎的な知識を得ると共に、各制度の現状及び課題についての理解を目指す科目である。

授業概要

この授業では、我が国の社会保障制度の4つの柱である「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、「保健医療・公衆衛生」について概説し、劇的に変化する社会において最新のニュースやトピックスを紹介しながら、社会保障制度の現状と課題を考える。とりわけ医療、介護の制度に関して、学生自身やその家族がどのような関わりがあるのか、具体的な例を元に我が国の状況と将来の課題について自ら考え、理解を深めることを目指す。

この授業をとおして、我が国の社会保障制度について基礎的な知識を得ると共に、客観的視点で各制度の現状及び課題について説明する能力の獲得を目指す。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度とは 内 容：「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、 「保健医療・公衆衛生」について	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度とは 内 容：「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、 「保健医療・公衆衛生」について	予習：テキストの該 当ページを読む 復習：授業内容を ノートにまとめる
3	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「社会保険」について	予習：関連資料を探 して読む 復習：現状と課題を まとめる
4	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「公的扶助」について	予習：関連資料を探 して読む 復習：現状と課題を まとめる
5	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「社会福祉」について	予習：関連資料を探 して読む 復習：現状と課題を まとめる
6	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「保健医療・公衆衛生」について	予習：関連資料を探 して読む 復習：現状と課題を まとめる
7	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：まとめ	予習：現状と課題を 整理する 復習：授業内容を ノートにまとめる
8	岡本加奈子	テーマ：現代社会の変化と社会保障 内 容：現状の分析	予習：関連資料を探 して読む 復習：授業内容を ノートにまとめる
9	岡本加奈子	テーマ：現代社会の変化と社会保障 内 容：今後の動向	予習：関連資料を探 して読む 復習：授業内容を ノートにまとめる
10	岡本加奈子	テーマ：現代社会の変化と社会保障 内 容：まとめ	予習：関連資料を探 して読む 復習：授業内容を ノートにまとめる

11	赤星誠	テーマ：障害者福祉制度 内 容：障害者福祉制度の変遷とその背景	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	赤星誠	テーマ：障害者福祉制度 内 容：現在の制度の概要と課題	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	吉村牧子	テーマ：介護保障 内 容：介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	吉村牧子	テーマ：介護保障 内 容：介護保険制度の概要	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	吉村牧子	テーマ：介護保障 内 容：介護保険制度の課題と展望	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>定期試験 60%、社会保障制度の現状と課題のレポート 40%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは現状を適確にとらえ、その現状分析から課題が矛盾なく導き出されていることを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>社会保障制度の現状と課題について、学生のみなさんと意見交換しながら考えていきます。日ごろから、興味をもってテレビや新聞などを見ておいてください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	人間関係論		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠			授業形態	講義

到達目標

1. 人間関係構築の基礎的方法について説明できる。
2. 地域を作る人間関係について説明できる。
3. 人間関係を作る理論と技法について説明できる。
4. 保健医療における人間関係について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、人間関係構築に関連する知識と技術、コミュニティーにおける人間関係のあり方、成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方についての基本的知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、人間関係構築に関連する知識と技術、コミュニティーにおける人間関係のあり方、成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方についての基本的知識を習得する。

その上で、実際の人間関係の構築に寄与できるよう、また、将来看護師として倫理的な諸問題に対して適切な対応が出来るように、講義を通じて対人関係能力の向上を目指す。合わせて基礎的なコミュニケーションスキルについて紹介し、自己表現能力を涵養する。

この授業をとおして、自らの考えや思いを正確に伝えながら看護師として望まれる誠実な傾聴する態度を身につけるための基礎的な素養を学ぶ。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	赤星誠	テーマ：人間関係構築の基礎 内 容：人間関係の中の自己と他者	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	赤星誠	テーマ：人間関係構築の基礎 内 容：対人関係と役割、対人行動	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	赤星誠	テーマ：地域を作る人間関係 内 容：コミュニティにおける人間関係のあり方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	赤星誠	テーマ：地域を作る人間関係 内 容：成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	赤星誠	テーマ：人間関係を作る理論と技法 内 容：コミュニケーションの技法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	赤星誠	テーマ：人間関係を作る理論と技法 内 容：コーチング	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	赤星誠	テーマ：保健医療における人間関係 内 容：保健医療チームの人間関係	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	赤星誠	テーマ：保健医療における人間関係 内 容：患者を支える人間関係	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、「人間関係の構築に必要なこと」に関する課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

シリーズ 系統看護学講座-基礎分野 人間関係論 (医学書院)

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

看護師になって役に立つ内容です。これまでの自分のコミュニケーションを振り返りながら学修しましょう。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	カウンセリング論		
講義開講時期	前期	学年	3	必修/選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠			授業形態	講義

到達目標

1. カウンセリングの基本的な姿勢や技法について説明できる。
2. 発達段階における感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化について説明できる。
3. 看護における心理的援助のあり方について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、カウンセリングの基本的な理論及び各発達段階における心理的特性について理解すると共に、看護師として必要な援助的態度の理解の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、カウンセリングの諸理論について教授する。合わせてカウンセリング場面の基本的な姿勢や技法を学ぶ。カウンセリングの基礎知識に基づき、自己理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図ると共に、看護における心理的援助のあり方についても理解する。また、各発達段階における感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化についての基本的な知識についても学ぶ。

この授業をとおして、カウンセリングの基本的な理論及び各発達段階における心理的特性について理解すると共に、看護師として必要な援助的態度を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	赤星誠	テーマ：カウンセリングとは 内 容：定義、重要な構成概念、基本的なコミュニケーション	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	赤星誠	テーマ：カウンセリングの基礎 内 容：技法とプロセス	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	赤星誠	テーマ：カウンセリングの基礎 内 容：自己理解と他者理解	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	赤星誠	テーマ：カウンセリングの基礎 内 容：感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 患者の問題を共有する	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 メンタルヘルスを支援する	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 援助関係を築く	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 行動変容への支援	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、「カウンセリングを看護に生かす必要性」課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

簡単なロールプレイングも取り入れながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○ <u>關戸啓子</u>			授業形態	講義

到達目標

1. 専門職としての看護の役割が説明できる。
2. 看護の責務と独自性、看護を实践する場と社会的機能が説明できる。
3. 看護の理論と実践について説明できる。
4. 災害看護・国際看護について概要が説明できる。
5. 看護の課題と展望について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、専門職としての看護の役割、責務と独自性、看護の理論と実践、看護を实践する場と社会的機能の理解を目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護の歴史や看護理論から、看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「生活（看護）」を捉えたうえで、専門職としての看護とは何かを学ぶ。対象者を理解し、医療・看護倫理、医療保健福祉に関する法・制度、社会福祉システムとの関係などから、看護の責務と独自性、看護を实践する場と社会的機能としての看護について学び、看護職に必要なとされる役割や機能について学修する。災害看護・国際看護についても概要を学ぶ。看護の歴史の変遷から現代までの分析をとおして、看護の課題と将来の展望についても考察を行う。

この授業をとおして、適切な看護実践のあり方、継続看護、有効な看護過程の進め方まで、実践活動の基盤となる知識を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>關戸啓子</u>	テーマ：専門職としての看護 内 容：看護とはなにか、看護の概念、看護の定義	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	<u>關戸啓子</u>	テーマ：専門職としての看護 内 容：人間と健康、健康の概念、健康関連行動	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	關戸啓子	テーマ：看護ケア（看護援助）の基本的役割 内 容：看護の対象とその理解	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護ケア（看護援助）の基本的役割 内 容：看護の提供者、看護提供のしくみ	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：看護の変遷	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：近代看護の基盤を作った看護理論	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：萌芽期における理論家の業績	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：開発期における理論家の業績	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：発展期における理論家の業績	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	關戸啓子	テーマ：社会的機能としての看護 内 容：保健・医療・福祉システム	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	關戸啓子	テーマ：社会的機能としての看護 内 容：看護管理、医療安全、看護の倫理	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	關戸啓子	テーマ：社会的機能としての看護 内 容：災害看護・国際看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

13	關戸啓子	テーマ：ライフサイクルと健康 内 容：健康を守る制度（1）	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	關戸啓子	テーマ：ライフサイクルと健康 内 容：健康を守る制度（2）	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	關戸啓子	テーマ： 看護の統合と今後の展望 内 容：これからの看護の課題と展望	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論（メディカ出版） 社会・環境と健康 健康管理概論 第3版（講談社サイエンティフィク）</p>			
<p>オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅰ		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨			授業形態	演習
到達目標					
1. コミュニケーション技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
2. 教育指導技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
3. 感染予防に関して感染源への対策、感染経路への対策について説明できる。					
4. 感染予防の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
5. 感染予防の技術（手洗い、防護用具、滅菌物の取り扱い）が演習で実施できる。					
6. 安全管理、安楽確保の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
7. 安楽な体位の保持と安全確保の技術が演習で実施できる。					
8. 環境を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
9. 環境を整える技術（ベッドメイキング）が演習で実施できる。					
10. 活動・休息の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
11. 活動・休息の援助技術（体位変換、移動、移送）が演習で実施できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、コミュニケーション技術、教育指導技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術、環境を整える技術、活動・休息の援助技術について、技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点を理解し、演習で実施できることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、生活援助に関する基礎看護技術の中でも、コミュニケーション技術、教育指導技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術、環境を整える技術、活動・休息の援助技術について学ぶ。講義において、看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立に向けた生活援助の方法について学び、演習において実践を行うことによって基礎的技術の方法を学修する。					
この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立に向けた生活援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：コミュニケーション技術 内 容： <u>コミュニケーション技術の必要性・実施方法と その根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3 ・ 4	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：教育指導技術 内 容：看護の教育機能と指導技術の基本 <u>教育指導技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
5 ・ 6	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：感染予防の技術 内 容：感染と感染予防策の基礎知識、 <u>感染源への対策、 感染経路への対策</u> <u>感染予防の必要性・実施方法とその根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
7 ・ 8	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：感染予防の技術 内 容：感染予防の技術演習（ <u>手洗い、防護用具、滅菌物の取り扱い</u> ）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
9 ・ 10	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ： <u>安全管理と安楽確保の技術</u> 内 容： <u>看護事故の構造と防止の視点</u> <u>安全管理と安楽確保の必要性・実施方法とその 根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

11 ・ 12	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ： <u>安全管理と安楽確保の技術</u> 内 容： <u>安楽な体位の保持と安全確保の技術演習</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13 ・ 14	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ： <u>環境を整える技術</u> 内 容： <u>環境の諸要素とその調整 病室と病床の環境調整</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15 ・ 16	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ： <u>環境を整える技術</u> 内 容： <u>環境を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
17 ・ 18	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ： <u>環境を整える技術</u> 内 容： <u>ベッドメイキングの演習</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
19 ・ 20	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ： <u>環境を整える技術</u> 内 容： <u>ベッドメイキングの演習</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

21 ・ 22	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：活動のアセスメント <u>活動・休息の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・ 留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
23 ・ 24	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：体位変換の演習	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
25 ・ 26	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：移送の演習 <u>（車いす）</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
27 ・ 28	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：移送の演習 <u>（ストレッチャー）</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
29 ・ 30	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：基礎看護技術を学修して 内 容：まとめ	予習：これまでの学びをまとめる 復習：授業で理解したことを学びに追記する。

成績評価方法及び基準

演習での到達状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

臨床で実際に実施する生活援助技術を学修します。原理原則をふまえて理解してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅱ		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○那須さとみ、關戸啓子、大内由梨			授業形態	演習
到達目標					
1. バイタルサインの測定の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
2. バイタルサインの測定の基本が演習で実施できる。					
3. 食生活の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
4. 食生活の援助技術の基本が演習で実施できる。					
5. 排泄の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
6. 排泄の援助技術の基本が演習で実施できる。					
7. 清潔・衣生活の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
8. 清潔・衣生活の援助技術の基本が演習で実施できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、バイタルサインの測定、食生活の援助技術、排泄の援助技術、清潔・衣生活の援助技術について、技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点を理解し、演習で実施できることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、生活援助に関する基礎看護技術の中でも、バイタルサインの測定、食生活の援助技術、排泄の援助技術、清潔・衣生活の援助技術について学ぶ。講義において、看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立に向けた生活援助の方法について学び、演習において実践を行うことによって基礎的技術の方法を学修する。					
この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立に向けた生活援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：バイタルサインの測定技術 内 容：バイタルサインの測定の必要性・実施方法とそ の根拠・留意点方法	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3 ・ 4	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：バイタルサインの測定技術 内 容：バイタルサインの測定の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
5 ・ 6	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：食生活と栄養摂取の援助技術 内 容：援助の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
7 ・ 8	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：食生活と栄養摂取の援助技術 内 容：援助の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
9 ・ 10	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：排泄の援助技術 内 容：援助の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

11 ・ 12	<u>那須さとみ、關戸啓子、大内由梨</u>	テーマ： <u>排泄の援助技術</u> 内 容： <u>援助の実際（演習）</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13 ・ 14	<u>那須さとみ、關戸啓子、大内由梨</u>	テーマ： <u>清潔・衣生活の援助技術</u> 内 容： <u>清拭の必要性・実施方法とその根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15 ・ 16	<u>那須さとみ、關戸啓子、大内由梨</u>	テーマ： <u>清潔・衣生活の援助技術</u> 内 容： <u>清拭の実際（演習）</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
17 ・ 18	<u>那須さとみ、關戸啓子、大内由梨</u>	テーマ： <u>清潔・衣生活の援助技術</u> 内 容： <u>洗髪の必要性・実施方法とその根拠・留意点</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
19 ・ 20	<u>那須さとみ、關戸啓子、大内由梨</u>	テーマ： <u>清潔・衣生活の援助技術</u> 内 容： <u>洗髪の実際（演習）</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

21 ・ 22	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：手浴・足浴の必要性・実施方法とその根拠・留 意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
23 ・ 24	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：手浴・足浴の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
25 ・ 26	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：シーツ交換・寝衣交換の必要性・実施方法とそ の根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
27 ・ 28	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：シーツ交換の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
29 ・ 30	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：寝衣交換の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

成績評価方法及び基準

演習での到達状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。

教科書

新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

臨床で実際に実施する生活援助技術を学修します。原理原則をふまえて理解してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅲ		
講義開講時期	前期	学年	2	必修/選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨			授業形態	演習
到達目標					
1. 呼吸・循環を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
2. 呼吸・循環を整える技術の基本が演習で実施できる。					
3. 創傷管理の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
4. 創傷管理技術の基本が演習で実施できる。					
5. 与薬・輸血の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
6. 与薬・輸血の技術の基本が演習で実施できる。					
7. 検査に伴う看護技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
8. 検査に伴う看護技術の基本が演習で実施できる。					
9. 救命救急処置の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。					
10. 救命救急処置技術の基本が演習で実施できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術、救命救急処置技術について、技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点を理解し、演習で実施できることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、治療援助に関する基礎看護技術を学修する。呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術、救命救急処置技術について学ぶ。講義において、看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立を考えた治療援助の方法について学び、演習において実践やシミュレーションを行うことによって基礎的技術の方法を学修する。					
この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立を考慮した治療援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨	テーマ：呼吸・循環を整える技術 内 容： <u>呼吸・循環を整える技術の必要性・実施方法と その根拠・留意点方法</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3 ・ 4	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨	テーマ：呼吸・循環を整える技術 内 容：酸素吸入療法、体位ドレナージ（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追
5 ・ 6	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨	テーマ：創傷管理技術 内 容： <u>創傷管理の必要性・実施方法とその根拠・留意 点方法</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
7 ・ 8	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨	テーマ：創傷管理技術 内 容：包帯、創傷処置（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
9 ・ 10	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容： <u>与薬・輸血の必要性・実施方法とその根拠・留 意点方法</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

11 ・ 12	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：経口与薬・外用薬（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13 ・ 14	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：皮内・皮下・筋肉注射（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15 ・ 16	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：静脈注射（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
17 ・ 18	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：点滴・輸血（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
19 ・ 20	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：検査に伴う看護技術 内 容： <u>検査に伴う看護の必要性・実施方法とその根拠・留意点方法</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

21 ・ 22	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：検査に伴う看護技術 内 容：排泄物の検査（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
23 ・ 24	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：検査に伴う看護技術 内 容：採血（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
25 ・ 26	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：救命救急処置技術 内 容： <u>救命救急処置の必要性・実施方法とその根拠・ 留意点方法</u>	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
27 ・ 28	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：救命救急処置技術 内 容：救急蘇生法（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
29 ・ 30	<u>關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨</u>	テーマ：治療援助に関する基礎看護技術を学修して 内 容：まとめ	予習：これまでの学びをまとめる 復習：授業で理解したことを学びに追記する。

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>	
教科書	<p>新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p> <p>新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）</p>
オフィスアワー	毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>臨床で実際に実施する治療援助に関する技術を学修します。原理原則をふまえて理解してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅳ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○那須さとみ、關戸啓子、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 健康障害の経過からみた看護の特徴が説明できる。
2. 日常生活に及ぼす障害と看護について説明できる。
3. 治療方法とそれを受ける患者の看護の概要が説明できる。
4. 事例の状況に合わせて、生活援助や治療援助を組み合わせる援助計画を立て、演習で実施することができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、基礎看護技術で学修した生活援助技術や治療援助技術を事例の必要性に合わせて、組み合わせる用いることができる能力を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、学修した基礎看護技術が対象者の事例に合わせて、どのように実施されるのか検討して、生活援助や治療援助を組み合わせる実施する演習を行う。事例ごとに「患者の経過」「有する障害とその程度」「治療方法」を示し、学生が必要な援助を検討した上で、援助を計画し、実施する演習を行う。

この授業をとおして、対象者を看護する上で必要な「臨床推論」の力を養い、この対象者には今、何が必要かを考えて援助を実践する能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	那須さとみ、關戸啓子、大内由梨	テーマ：健康障害の経過からみた看護 内 容：健康障害のレベルとしての「経過」とは	予習：関連資料を読んでおく 復習：授業内容をノートにまとめる
2	那須さとみ、關戸啓子、大内由梨	テーマ：日常生活に影響を及ぼす障害と看護 内 容：日常生活が障害されるとはどのようなことか	予習：関連資料を読んでおく 復習：授業内容をノートにまとめる

3	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：治療方法とそれを受ける患者の看護 内 容：治療法の多様化とインフォームドコンセント	予習：関連資料を読んでおく 復習：授業内容をノートにまとめる
4	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助計画を立てる	予習：事例を理解する 復習：グループの意見を整理する
5	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助を実施してみる	予習：援助技術の方法を確認する 復習：実施した内容を振り返る
6	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：援助を各グループが行い意見交換する	予習：事例の理解を深める 復習：他グループの方法を整理する
7	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：まとめ	予習：他グループの方法を理解する 復習：演習での学びをまとめておく
8	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助計画を立てる	予習：事例を理解する 復習：グループの意見を整理する
9	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助を実施してみる	予習：援助技術の方法を確認する 復習：実施した内容を振り返る
10	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：援助を各グループが行い意見交換する	予習：事例の理解を深める 復習：他グループの方法を整理する
11	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：まとめ	予習：他グループの方法を理解する 復習：演習での学びをまとめておく
12	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助計画を立てる	予習：事例を理解する 復習：グループの意見を整理する

13	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助を実施してみる	予習：援助技術の方法を確認する 復習：実施した内容を振り返る
14	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：援助を各グループが行い意見交換する	予習：事例の理解を深める 復習：他グループの方法を整理する
15	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：まとめ	予習：他グループの方法を理解する 復習：演習での学びをまとめておく
成績評価方法及び基準 演習での到達参加状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。			
教科書 新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）			
オフィスアワー		毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 臨床により近い事例設定で、生活援助や治療援助を組み合わせる技術を学修します。積極的に演習を行ってください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護過程論		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○那須さとみ、關戸啓子、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 看護過程の概念と意義について説明できる。
2. 看護過程のプロセスと構成要素について説明できる。
3. 看護記録の法的位置づけと記載方法の基本が説明できる。
4. 事例の看護過程の展開が演習によって実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、看護過程の概念と意義、そのプロセスについて、講義と紙上事例による演習で理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、様々な健康状態にある対象者に対して、効果的な看護を提供するための科学的な思考過程である看護過程の基礎を学修する。看護過程の概念と意義、そのプロセス、対象者の全体像の把握の仕方、アセスメントの視点、事実に基づいた合理的な判断の仕方、問題解決または目標達成に向けて個別性に合わせた看護を実施するための看護計画立案と実践、評価方法について、講義と紙上事例による演習で体験的に理解する。

この授業をとおして、看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養い、問題解決能力や批判的思考能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	那須さとみ、 關戸啓子、 大内由梨	テーマ：看護過程の基になる考え方と理論 内 容：看護過程の概念と意義	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。

2	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護過程の基になる考え方と理論 内 容：看護過程の変遷	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
3	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：プロセスと対象者の把握	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
4	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：アセスメント	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
5	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：看護上の問題	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
6	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：看護計画	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
7	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：実施・評価	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。

8	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護記録 内 容：看護記録に関する法的規定	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
9	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：看護記録 内 容：看護記録の記載方法	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
10	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：情報の整理	予習：事例を理解する 復習：情報の整理を見直す
11	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：アセスメント	予習：アセスメントしておく 復習：アセスメントをみなおす
12	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：看護上の問題	予習：看護上の問題を抽出しておく 復習：看護上の問題を見直す
13	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：看護計画	予習：看護計画を立てておく 復習：看護計画をみなおす
14	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：グループ発表	予習：発表の準備をする 復習：他グループの意見を整理する
15	那須さと み、關戸啓 子、大内由 梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：グループ発表	予習：事例の理解を深める 復習：演習からの学びをまとめる

成績評価方法及び基準	
演習での到達参加状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。	
教科書	
新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社） 新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）	
オフィスアワー	毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）	
臨床により近い事例設定で、看護過程の展開を演習します。積極的に演習を行ってください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	ヘルスアセスメント		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○ <u>關戸啓子</u>			授業形態	演習
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントの基本テクニックを実施できる。 2. 面接による情報収集の基本ができる。 3. 系統的な全身のフィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づく実際の方法について説明できる。 4. フィジカルアセスメントの基本的な方法を演習で実施できる。 5. 心理・社会的側面のアセスメント方法を説明できる。 					
【 <u>ディプロマポリシーとの関連</u> 】					
<p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、対象者のデータを情報収集しアセスメントする方法として、身体的・生理学的な情報および心理・社会的な情報を系統的かつ客観的に収集するヘルスアセスメントの方法と態度を身につけることを目指す科目である。</p>					
授業概要					
<p>この授業では、患者に個別的で適切な看護を実施するために、対象者のデータを情報収集しアセスメントする方法として、身体的・生理学的な情報および心理・社会的な情報を系統的かつ客観的に収集するヘルスアセスメントの方法と態度を学ぶ。フィジカルアセスメントは、全身・外観、鼻・耳・眼、乳房・リンパ系、筋・骨格系、神経系、呼吸・心臓・血管系、腹部と系統的に講義と演習を行う。加えて、心理的・社会的側面のアセスメント方法を学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術、心理的・社会的側面のアセスメント方法を身に付ける。</p>					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：ヘルスアセスメントとは 内 容：アセスメントの基本テクニック	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
2	關戸啓子	テーマ：入院時の情報収集の方法 内 容：面接による情報の聞き方	予習：情報収集の方法をみておく
3	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：全身・外観のアセスメントの方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
4	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：鼻・耳・眼のアセスメントの方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
5	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：鼻・耳・眼のアセスメントの方法（ <u>目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際</u> ）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
6	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：全身・外観のアセスメントの方法（ <u>目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際</u> ）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
7	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：乳房・リンパ系のアセスメントの方法（ <u>目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際</u> ）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
8	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：筋・骨格系、神経系のアセスメントの方法（ <u>目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際</u> ）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
9	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：筋・骨格系、神経系のアセスメントの方法（ <u>目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際</u> ）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる

10	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：呼吸・心臓・血管系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
11	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：呼吸・心臓・血管系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
12	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：腹部のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
13	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：腹部のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
14	關戸啓子	テーマ：心理・社会的な情報 内 容：心理的・社会的側面のアセスメント方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
15	關戸啓子	テーマ：認知－知覚のアセスメント 内 容：疼痛・意識障害のアセスメントの方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
成績評価方法及び基準			
演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする			
教科書			
新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）			
オフィスアワー		毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）			
臨床でも用いる技術です。正しいデータがとれるように、演習には積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護学実習Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨、川村小千代、講師以下教員			授業形態	実習

到達目標

1. 病院の持つ設備、機能と療養環境について説明できる。
2. 患者が受けている看護援助の実際について説明できる。
3. 看護師間・他職種間の連携の実際について説明できる。
4. 患者の気持ちや入院生活におけるニーズについて理解できる。
5. 実習から自己の学習課題を明確にする。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、はじめての臨地実習をとおして、病院の機能、患者の療養環境と生活、看護師の役割、チーム医療の実際を知ることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病院で実習を行い、入院患者とのコミュニケーションや看護師との関わりを通して、病院の設備施設、患者の療養環境、看護活動について学修する。病院・病棟・病室内の環境やシステムが、患者の療養生活の安全・安楽・自立に向けて、どのように整えられているのかを学ぶ。看護師と同行実習することによって、患者が受けている看護援助の実際、看護師および他の職種との連携について知る。患者とのコミュニケーションによって、患者の健康障害に対する気持ちや、入院生活における患者の持つニーズについて理解する。

この授業をとおして、患者の療養生活や看護師の役割を知り、看護師を目指す自己の課題に対して研鑽する態度を身に付ける。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	關戸啓子、那須さとみ、大内由梨、川村小千代、講師以下教員	初日は、オリエンテーションと施設見学 外来、薬剤部、検査室、栄養給食部など (各部署で役割について説明を受ける)	予習：見学する部門の役割を調べておく 復習：見学で学んだ内容を記録する

2 日 目		病棟で看護師へシャドウイングを行う <u>(実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。)</u> <u>実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ)</u>	予習：病棟の療養環境について調べておく 復習：シャドウイング実習で学んだ内容
3 日 目	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨、川村小	病棟で看護師へシャドウイングを行う <u>(実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。)</u> <u>実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ)</u>	予習：看護師の一日の看護の流れについて調べておく 復習：シャドウイング実習で学んだ内容を記録する
4 日 目	千代、講師 以下教員	病棟で看護師へシャドウイングを行う <u>(実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。)</u> <u>実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ)</u>	予習：医療チームの連携について調べておく 復習：シャドウイング実習で学んだ内容を記録する
5 日 目		カンファレンスとまとめの発表会	予習：看護師の役割について調べておく 復習：実習で学んだ内容をまとめておく
成績評価方法及び基準			
評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書			
なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）			
体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護学実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○ <u>關戸啓子、那須さとみ、大内由梨、川村小千代、講師以下教員</u>			授業形態	実習

到達目標

1. 病態が複雑ではない患者を一人受け持ち看護過程の展開を体験する。
 - ・受け持ち患者の病態を理解し、看護に必要な情報収集が助言のもとできる。
 - ・受け持ち患者の情報の分析・アセスメントが助言のもとできる。
 - ・受け持ち患者の看護上の問題の明確化が助言のもとできる。
 - ・受け持ち患者の看護計画の立案が助言のもとできる。
 - ・受け持ち患者の看護計画の実施・評価が助言のもとできる。
2. 患者の状態にあった日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施することを体験的に学ぶ。
3. 臨地実習での学修に必要な基本的態度を身に付ける。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、はじめて受け持ち患者を持つ臨地実習をとおして、看護過程の展開、安全・安楽かつ自立に向けた日常生活援助を実施する能力を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟において1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、看護上の問題の明確化、援助計画の立案、実施という看護過程を展開することによって、患者の状態にあった日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施することを体験的に学修する。看護学生として、個人情報の取り扱い、看護師への報告・相談、受け持ち患者との援助関係の構築など、実習に必要な基本的態度についても学ぶ。

この授業をとおして、病棟で治療をうけている患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、個別性に合わせた、安全・安楽かつ自立に向けた日常生活援助を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	關戸啓子、 那須さと み、大内由 梨、川村小 千代、講師 以下教員	初日は、全体オリエンテーション <u>(実習目的・目標、実習の展開方法、実習の留意事項、健康管理、個人情報の取り扱い)</u>	予習：実習の目的・目標をみて、自分の課題について調べておく 復習：オリエンテーションで学んだ内容を記録する
2 日 目		病棟オリエンテーション <u>(病棟の機能、患者の特徴、看護体制)</u> 受け持ち患者紹介、情報収集	予習：病棟の主な疾患について調べておく 復習：実習で学んだ内容を整理し記録する
3 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ <u>シャドウイングを行う</u> <u>実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。</u> 受け持ち患者の疾患の理解	予習：受け持ち患者の疾患について調べておく 復習： <u>シャドウイング</u> 実習で学んだ内容を記録する
4 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ、 <u>実習目標、本日の実習計画を述べてアドバイスを受けた後に、援助は看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。</u> 受け持ち患者の生活援助を中心に実習情報の整理とアセスメント	予習：受け持ち患者に実施予定のケア方法について調べておく。 <u>患者の情報を整理してアセスメントしておく</u> 復習：実習で学んだ内容を整理し記録する

5 日 目		<p><u>受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、本日の実習計画を述べてアドバイスを受けた後に、援助は看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。</u></p> <p>受け持ち患者の生活援助を中心に実習 中間カンファレンス 看護上の問題を抽出</p>	<p>予習：中間カンファレンスの準備を行っておく。看護上の問題点を抽出しておく</p> <p>復習：実習で学んだ内容を整理し記録する</p>
6 日 目		<p><u>受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、自分が立案した受け持ち患者の看護計画について説明しアドバイスをもらう。計画した看護ケアは看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。</u></p> <p>情報収集、計画の見直し</p>	<p>予習：患者の看護計画をたてる</p> <p>復習：実施したケア内容の振り返りを行う</p>
7 日 目	<p><u>關戸啓子、那須さとみ、大内由梨、川村小千代、講師以下教員</u></p>	<p><u>受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、自分が立案した受け持ち患者の看護計画について説明しアドバイスをもらう。計画した看護ケアは看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。</u></p> <p>情報収集、計画の見直し</p>	<p>予習：看護計画を見直す</p> <p>復習：実施したケア内容の振り返りを行う</p>
8 日 目		<p><u>受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、自分が立案した受け持ち患者の看護計画について説明しアドバイスをもらう。計画した看護ケアは看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。</u></p> <p>実施の評価</p>	<p>予習：より良いケア方法を模索する。実施したケアの評価を行う。</p> <p>復習：実習で学んだ内容を整理し記録する</p>
9 日 目		<p>最終カンファレンス</p>	<p>予習：最終カンファレンスの準備</p> <p>復習：カンファレンスでの学びをまとめる</p>
10 日 目		<p>学びの共有 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う</p>	<p>予習：学びの発表の準備</p> <p>復習：発表会での学びをまとめる</p>

成績評価方法及び基準	
評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。	
教科書	なし 適宜参考図書を紹介する
オフィスアワー	毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）	
体調を整えて、実習に臨んでください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	チーム医療論		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○ <u>關戸啓子</u>			授業形態	講義

到達目標

1. チーム医療の目的・意義について説明できる。
2. 保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護の役割について説明できる。
3. 多職種連携・協働と看護職の役割について説明できる。
4. 地域における関連職種・関係機関の連携・協働について説明できる。
5. チームを組む専門職種の役割を説明できる。
6. 多職種連携に求められる専門能力について説明できる。
7. 多職種連携における看護職の役割について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、チーム医療について必要性を理解し、チーム医療における看護の役割に関する知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、チーム医療について基礎的知識とチーム医療において果たす看護の専門性と役割について理解する。チーム医療の基礎的知識として、チーム医療の目的・意義、保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護、多職種連携・協働と看護職の役割、連携と協働、地域における関連職種・関係機関の連携・協働について学ぶ。チームを組む専門職種の役割を知り、多職種連携に求められる専門能力と多職種連携における看護職の役割について理解する。

この授業をとおして、チーム医療が必須の現代において、専門職としてチームの中で看護の役割を果たすことができる素地を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>關戸啓子</u>	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：チーム医療の目的・意義	予習：資料を読んでおく
2	<u>關戸啓子</u>	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

3	關戸啓子	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：多職種連携・協働と看護職の役割、連携と協働	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：地域における関連職種・関係機関の連携・協働	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容： <u>チームを組む専門職種の役割</u>	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容：多職種連携に求められる専門能力	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容：多職種連携における看護職の役割	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容： <u>事例で学ぶ</u> 多職種連携における看護職の役割	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー		毎週木曜日 13:00~14:30	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 実例も紹介しながら授業を実施します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護倫理学		
講義開講時期	後期	学年	1	必修/選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸			授業形態	講義

到達目標

1. 看護における倫理の重要性について説明できる。
2. 倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移について説明できる。
3. 道徳的感受性と道徳的レジリエンスについて説明できる。
4. 看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳について説明できる。
5. アドボカシー、レスポンシビリティとアカウンタビリティについて説明できる。
6. 倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセントについて説明できる。
7. 情報プライバシーと守秘義務について説明できる。
8. 倫理的意思決定のステップについて説明できる。
9. 倫理的課題を含む事例を用いて、倫理的意思決定の過程を演習によって学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」に基づき、看護における倫理の重要性を理解し、看護倫理について知識を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護倫理の基礎的知識と倫理的葛藤場面での意思決定方法について理解する。看護倫理の基礎知識として、倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移、道徳的感受性と道徳的レジリエンス、看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳、アドボカシー、レスポンシビリティとアカウンタビリティ、倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセント、情報プライバシーと守秘義務について学ぶ。倫理的意思決定のステップを理解し、倫理的課題を含む事例を用いて、意思決定の過程を学ぶ。

この授業をとおして、看護倫理の基礎知識を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容： <u>看護における倫理の重要性</u> 倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：道徳的感性性と道徳的レジリエンス	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：アドボカシー、レスポンスビリティとアカウントビリティ	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセント	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：情報プライバシーと守秘義務	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	貞岡美伸	テーマ： <u>倫理的な課題を含んだ事例</u> 内 容：倫理的な意思決定のステップを用いて <u>検討する</u>	予習：事例を理解しておく 復習：学びをまとめる
8	貞岡美伸	テーマ： <u>倫理的な課題を含んだ事例</u> 内 容：倫理的な意思決定のステップを用いて <u>検討する</u>	予習：倫理的な意思決定のステップを振り返る 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験 50%、課題レポート 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書 なし 適宜プリントを配布する	
オフィスアワー	<u>毎週月曜日 10:40~12:10</u>
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) 意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	堤かおり			授業形態	講義
到達目標					
1. 成人期にある人の身体的成長発達・身体機能の特徴について説明できる。					
2. 成人期にある人の生活・健康観・学習に関する特徴について説明できる。					
3. 成人期にある人の生活習慣に関連する健康障害について説明できる。					
4. 成人期にある人の職業に関連する健康障害について説明できる。					
5. 成人期にある人の生活ストレスに関連する健康障害について説明できる。					
6. 成人期にある人のセクシュアリティに関連する健康障害について説明できる。					
7. 成人期にある人の余暇活動に伴う健康障害について説明できる。					
8. 成人期にある人の更年期にみられる健康障害について説明できる。					
9. 成人看護に有用な概念（セルフケア、ストレス、危機、適応、自己効力、ヘルスプロモーション）について説明できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、成人期にある人の身体的心理的社会的特徴、生活と健康課題について理解することを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、成人期にある人の身体的心理的社会的特徴、生活と健康課題について理解する。成人期にある人の特徴として、成長発達、身体機能、生活、健康観、学習について学ぶ。成人期における生活習慣、ワーク・ライフ・バランス、更年期などの特徴と健康障害との関連について学修する。成人看護に有用な概念として、セルフケア、ストレス、危機、適応、自己効力、ヘルスプロモーションについて学ぶ。					
この授業をとおして、成人期にある人を多面的な視点からアセスメントし、成人期の健康課題の特徴および様々な健康レベルにある成人に対する看護のあり方を理解する。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の理解 内 容：成人期とは	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴 内 容：成長発達、身体機能	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴 内 容：生活、健康観、学習	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：生活習慣に関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：職業に関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：生活ストレスに関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：セクシュアリティに関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

8	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：余暇活動に伴う健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：更年期にみられる健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：セルフケア	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
11	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：ストレス	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
12	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：危機	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
13	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：適応	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
14	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：自己効力	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

15	<u>堤かおり</u>	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：ヘルスプロモーション	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
成績評価方法及び基準 定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 ナーシング・グラフィカ 成人看護学(1)：成人看護学概論 (メディカ出版)			
オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 成人の理解は、他の領域の基礎になりますから、そのつもりでしっかり学修してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美			授業形態	演習

到達目標

1. 周手術期の生体の変化・生活機能への影響が説明できる。
2. 手術前の患者に対する看護について説明できる。
3. 手術中の看護について説明できる。
4. 手術後の感染予防、合併症の予防・早期発見に関する看護について説明できる。
5. 手術後の回復過程を理解し、回復過程にそった看護について説明できる。
6. 手術時の看護について、シミュレーションを用いて看護過程の展開を実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、成人期にある人に対する周手術期における生体の変化、手術過程に応じた看護支援について理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、成人期に疾患や外傷のために手術という侵襲的治療を受けた人に生じる身体機能の障害、生活機能におよぼす影響、ボディイメージの変化について理解し、周手術期にある患者に対する看護を学ぶ。手術療法を受ける患者の特徴と様々な術後合併症をしり、予防的な介入方法、患者の感染予防の看護について理解する。演習として、呼吸器・循環器・消化器・脳神経系・運動器に障害がある人の主要な手術を取り上げ、看護についてシミュレーションを用いて看護過程を展開することによって、周術期の看護を学修する。

この授業をとおして、成人期にある人に対する周手術期の基礎的知識と生体の変化、手術過程に応じた看護支援について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり、 温井由美	テーマ：周術期の基礎知識と生体の変化 内 容：周術期に関連する基礎知識	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

2	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：周術期の基礎知識と生体の変化 内 容：外科的侵襲から回復期の生体反応	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術前の看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術中の看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる
5	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術中の看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術後合併症予防と発症時の援助	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術後合併症予防と発症時の援助	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
8	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術後の継続看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

9	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：シミュレーション学修のための準備	予習：手術をうける患者の看護過程について自己学修 復習：シミュレーション学修に向けて学習内容をまとめておく
10	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：呼吸器系に障害のある人の手術	予習：呼吸器系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
11	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：循環器系に障害のある人の手術	予習：循環器系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
12	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：消化代謝系に障害のある人の手術	予習：消化代謝系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
13	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：脳神経系に障害のある人の手術	予習：脳神経系に障害のある人の手術について事前学習 復習：本日の学修内容をまとめておく
14	<u>堤かおり、</u> <u>温井由美</u>	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：運動器系に障害のある人の手術	予習：運動器系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく

15	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：シミュレーション学修のまとめ	予習：シミュレーション学修の学びをまとめておく 復習：本日の学修内容をまとめておく
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナースング・グラフィカ 成人看護学(4)：周術期看護 (メディカ出版)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週木曜日 16:20~17:50</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学各論ⅠB (急性期：救急看護・クリティカルケア)		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美			授業形態	演習

到達目標

1. 救急医療の歴史と動向、救急医療体制について説明できる。
2. プレホスピタルケア、救急医療と関連法令について説明できる。
3. 集中治療の歴史・種類と場の特徴について説明できる。
4. 救急医療・集中治療下の患者の特徴について説明できる。
5. 救急医療・集中治療下の患者の家族の特徴について説明できる。
6. 救急医療・集中治療における看護と倫理的な課題について説明できる。
7. 救急患者に対するアセスメント、緊急度と重症度の判断について説明できる。
8. 心肺蘇生と救命処置の方法について説明できる。
9. 救急時のアセスメント・緊急度と重症度の判断・心肺蘇生と救命処置について、演習で実施することができる。
10. クリティカルケアの特徴と基本について、事例を通して理解できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、成人期における緊急を要する危機的状況にある人への看護として、救急看護、クリティカルケアについて理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、成人期における緊急を要する危機的状況にある人への看護として、救急看護、クリティカルケアについて学修する。救急看護の基礎知識として、救急医療の歴史と動向、救急医療体制、プレホスピタルケア、救急医療と関連法令、集中治療の現状を学んだ上で、救急医療・集中治療における看護として、救急医療・集中治療下の患者の特徴、救急医療・集中治療下の患者の家族の特徴、救急医療・集中治療における看護について学修する。演習では、救急看護の実際として、救急患者に対するアセスメント、緊急度と重症度の判断、心肺蘇生と救命処置について、シミュレーションで実施する。クリティカルケアとして、脳死状態に陥った患者と臓器移植、急性心筋梗塞、くも膜下出血、急性大動脈解離、意識障害、広範囲熱傷などの事例をとおして、病態・診断・治療を理解し、看護方法をシミュレーションする。

この授業をとおして、成人期の救急看護、クリティカルケアを必要とする人への看護について基礎的な能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急医療の現状 内 容：救急医療の歴史と動向・救急医療体制	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急医療の現状 内 容：プレホスピタル・救急医療と関連法令	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：集中治療の現状 内 容：集中治療の歴史・種類と場の特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急医療・集中治療における看護 内 容：患者・家族の特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急医療・集中治療における看護 内 容：看護の概要と倫理	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急看護の実際 内 容：アセスメント・緊急度と重症度の判断	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

7	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急看護の実際 内 容：アセスメント・緊急度と重症度の判断	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
8	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急看護の実際 内 容：心肺蘇生と救命処置	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：救急看護の実際 内 容：心肺蘇生と救命処置	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：脳死状態に陥った患者と臓器移植	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
11	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：急性心筋梗塞	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
12	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：くも膜下出血	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
13	<u>堤かおり</u> 、 <u>温井由美</u>	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：急性大動脈解離	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる

14	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：意識障害	予習：事例について 事前学修をする 復習：授業の内容を まとめる
15	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：広範囲熱傷	予習：事例について 事前学修をする 復習：授業の内容を まとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護II 救急看護・クリティカルケア (南江堂)</p>			
オフィスアワー		毎週月曜 13:00~14:30	
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学各論Ⅱ（慢性期）		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	堤かおり			授業形態	演習

到達目標

1. 慢性疾患を有する成人期にある人とその家族が抱えている問題について説明できる。
2. 慢性疾患を有する成人期にある人の身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
3. 慢性疾患を有する成人期にある人への看護の役割、チーム医療について説明できる。
4. 慢性疾患を有する成人期にある人の治療・療養行動にかかわる主な理論・概念について説明できる。
5. 慢性疾患を有する成人期にある人に対する社会資源の活用について説明できる。
6. 主な治療法（インスリン療法・人工透析・ペースメーカー・ステロイド療法・化学療法・放射線療法・内分泌療法・肝動脈塞栓療法）と看護が説明できる。
7. 事例をとおして慢性疾患患者の看護の方法が理解できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、この授業では、慢性疾患を有する成人期にある人の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、慢性期看護に必要な知識・技術・態度を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、慢性疾患を有する成人期にある人とその家族が抱えている問題を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、慢性期看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。成人期の発達課題、慢性疾患を有する成人期の人に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や生活習慣病など日本が抱える課題について学ぶ。成人期にある人を取り巻く環境を含め幅広く社会の現状をとらえながら、慢性疾患を有する成人期にある人への看護のあり方を修得する。

この授業をとおして、慢性疾患を有する成人期にある人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	<u>堤かおり</u>	テーマ：慢性期看護とは 内 容：疾患・治療・療養環境の特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	<u>堤かおり</u>	テーマ：慢性期看護とは 内 容：看護の役割・専門職とチーム医療	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	<u>堤かおり</u>	テーマ：慢性疾患を有する人とその家族の理解 内 容：身体的・心理社会的特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	<u>堤かおり</u>	テーマ：慢性疾患を有する人への援助・支援の基本 内 容：治療・療養行動にかかわる主な理論・概念	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	<u>堤かおり</u>	テーマ：慢性疾患を有する人への援助・支援の基本 内 容：治療・療養を促進する支援	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	<u>堤かおり</u>	テーマ：慢性疾患を有する人への援助・支援の基本 内 容：社会資源の活用	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	<u>堤かおり</u>	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：.インスリン療法・人工透析	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

8	<u>堤かおり</u>	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：ペースメーカー・ステロイド療法	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	<u>堤かおり</u>	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：化学療法・放射線療法	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	<u>堤かおり</u>	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：内分泌療法・肝動脈塞栓療法	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
11	<u>堤かおり</u>	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：呼吸器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
12	<u>堤かおり</u>	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：循環器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
13	<u>堤かおり</u>	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：消化器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
14	<u>堤かおり</u>	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：代謝・内分泌系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
15	<u>堤かおり</u>	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：腎・泌尿器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>	
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える（南江堂）</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週木曜日 16:20~17:50</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	リハビリテーション看護学		
講義開講時期	前期	学年	3	必修/選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、高田美子			授業形態	演習
到達目標					
1. <u>リハビリテーションの定義・目的・歴史について説明できる。</u>					
2. <u>国際生活機能分類について説明できる。</u>					
3. <u>ノーマライゼーション・エンパワメントの考え方について説明できる。</u>					
4. <u>術後のリハビリテーションにおける身体機能のメカニズムとアセスメント方法について説明できる。</u>					
5. <u>手術後の早期リハビリテーションの意義と方法について説明できる。</u>					
6. <u>術後リハビリテーションを受ける患者の看護について説明できる。</u>					
7. <u>高齢者のリハビリテーションにおける身体機能のメカニズムとアセスメント方法について説明できる。</u>					
8. <u>高齢者のリハビリテーションにおけるチームアプローチと看護の役割について説明できる。</u>					
9. <u>地域で取り組む高齢者のリハビリテーションについて説明できる。</u>					
10. <u>高齢者のリハビリテーション実施時の留意点について説明できる。</u>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) <u>質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。</u> 」に基づき、 <u>リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。</u>					
授業概要					
この授業では、リハビリテーションを受ける対象に必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。対象者の障害の構造を国際生活機能分類（ICF）に基づいて把握し、障害のある人の特徴をふまえた安全・安楽の確保、機能回復を支えるリハビリテーション看護の実際を学ぶ。チーム医療における看護職の役割、他職種との連携の方法と必要性について理解する。					
この授業をとおして、リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>堤かおり</u>	テーマ：リハビリテーションとは 内 容：定義・目的・歴史・領域分類	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	<u>堤かおり</u>	テーマ：リハビリテーションに用いられる主要な概念 内 容：国際生活機能分類・セルフケア・QOL	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	<u>堤かおり</u>	テーマ：リハビリテーションに用いられる主要な概念 内 容：ノーマライゼーション・エンパワメント	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	<u>堤かおり</u>	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：身体機能のメカニズムとアセスメント	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	<u>堤かおり</u>	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：早期リハビリテーションの意義と方法	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	<u>堤かおり</u>	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：術後リハビリテーションを受ける患者の看護	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	<u>堤かおり</u>	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：術後リハビリテーションを受ける患者の看護	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	<u>高田美子</u>	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：身体機能のメカニズムとアセスメント	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

9	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：チームアプローチと看護の役割	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：地域におけるリハビリテーション	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：加齢とリハビリテーション	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：リハビリテーション開始前の注意	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：経過別リハビリテーションの特徴	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：転倒予防	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：生活リハビリテーション	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書	なし プリントを配布します
オフィスアワー	<u>毎週月曜日 14:40~16:10</u>
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） リハビリテーション看護について、実習もあります。実習で生かされるように積極的に学修してください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	高齢者看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、高田美子			授業形態	講義

到達目標

1. 高齢者の身体的・心理社会的特徴と生活の変化について説明できる。
2. 高齢者の看護に活用できる理論・アプローチについて説明できる。
3. 高齢者の生きがい作り・健康生活の維持に対する支援方法について説明できる。
4. 治療を受ける高齢者への看護について説明できる。
5. 認知症の高齢者への看護について説明できる。
6. 高齢者の看取りと家族への支援について説明できる。
7. 高齢者に対する保健医療福祉に関する制度について説明できる。
8. 高齢者看護の展望と課題について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、高齢者看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者看護のために必要な基本概念を学び、加齢による身体的、心理的、社会的特徴とそれに伴う生活の変化について理解し、高齢者看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。高齢者の発達課題、高齢者に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や超高齢社会の日本が抱える課題について学ぶ。高齢者を取り巻く環境を含め幅広く超高齢社会の現状をとらえながら、健康長寿社会を目指す日本における、高齢者看護のあり方を修得する。

この授業をとおして、高齢者看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	藤本由美子	テーマ：高齢者看護学を理解するための基盤 内 容：.“老い”の意味と高齢者の理解	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	藤本由美子	テーマ：高齢者の特徴 内 容：身体機能と心理社会的特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	藤本由美子	テーマ：看護に活用できる理論・アプローチ 内 容：.健康の概念・セルフケア・サクセスフルエイジング・ウェルネスアプローチ	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	藤本由美子	テーマ：看護に活用できる理論・アプローチ 内 容：コンフォート・ライフストーリー・レジリエンス・.エンパワメント・.スピリチュアリティ	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	藤本由美子	テーマ：高齢者の健康生活の支援 内 容：.高齢者の健康生活の維持と支援	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	藤本由美子	テーマ：高齢者の療養生活の支援 内 容：治療を受ける高齢者への看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

7	<u>藤本由美子</u>	テーマ：認知症の高齢者の支援 内 容：認知症の高齢者への看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
8	<u>藤本由美子</u>	テーマ：高齢者の尊厳を支える看護 内 容：看取りと家族への支援	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	<u>高田美子</u>	テーマ：高齢者の発達課題 内 容：暮らしと生きがい	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	<u>高田美子</u>	テーマ：保健医療福祉の歴史 内 容：高齢者人口の推移	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	<u>高田美子</u>	テーマ：保健医療福祉の歴史 内 容：高齢者の療養生活と医療制度	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	<u>高田美子</u>	テーマ：保健医療福祉の歴史 内 容：高齢者の介護・福祉施策	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	<u>高田美子</u>	テーマ：高齢者看護の展望 内 容：生かし生かされる地域づくり	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	<u>高田美子</u>	テーマ：高齢者看護の課題 内 容：求められる高齢者ケア	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	<u>高田美子</u>	テーマ：高齢者看護の課題 内 容：高齢者ケアの方向性	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

看護学テキストNiCE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは (南江堂)

オフィスアワー

毎週金曜日 13:00~14:30

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

看護師は高齢者を対象とすることが多くなっています。予習復習を行い、学びを深めてください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	高齢者看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、川村小千代、市後昌代、吉村牧子			授業形態	演習

到達目標

1. 加齢変化をとらえるフィジカルアセスメントの技術を演習で実施できる。
 2. 高齢者に特徴的な症状について、高齢者の身体・精神機能をふまえた発生のメカニズムについて説明できる。
 3. 高齢者に特徴的な症状について、予防方法と発症時の看護方法について説明できる。
- 特徴的な症状（1）起立・歩行障害、（2）感覚機能障害、（3）摂食・嚥下障害、（4）脱水、（5）低栄養、（6）皮膚トラブル、（7）褥瘡、（8）尿失禁、（9）うつ、（10）寝たきり、（11）せん妄、（12）転倒・骨折

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「（2）質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、高齢者に対するフィジカルアセスメントの技術、高齢者に特徴的な症状に対する予防と看護方法を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者に対して必要な看護技術について学ぶ。加齢変化をとらえるフィジカルアセスメントの技術を修得する。高齢者に特徴的な症状として、起立・歩行障害、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、低栄養、皮膚トラブル、褥瘡、尿失禁、うつ、寝たきり、せん妄、転倒・骨折について、基礎知識を学び、予防と看護方法について演習を行いながら修得する。この授業をとおして、高齢者の健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者の生活と看護 内 容：加齢変化とフィジカルアセスメントの技術	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

2	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者の生活と看護 内 容：加齢変化とフィジカルアセスメントの技術	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者の生活と看護 内 容：加齢変化とフィジカルアセスメントの技術	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：起立・歩行障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：感覚機能障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：摂食・嚥下障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：脱水	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
8	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：低栄養	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

9	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：皮膚トラブル	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：褥瘡	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
11	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：尿失禁	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
12	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：うつ	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
13	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：寝たきり	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
14	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：せん妄	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

15	<u>藤本由美子、</u> <u>川村小千代、</u> <u>市後昌代、</u> <u>吉村牧子</u>	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：転倒・骨折	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>看護学テキスト NiCE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する（南江堂）</p>			
<p>オフィスアワー <u>毎週金曜日 10:40~12:10</u></p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	高齢者看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○高田美子、川村小千代、市後昌代、吉村牧子			授業形態	演習

到達目標

1. 高齢者に特徴的な疾患の紙上事例について、生活機能に関する加齢変化や、高齢者に特徴的な老年症候群が、高齢者の生活にどのような影響を与えるのかを考慮しながら看護過程の展開ができる。

(1) 事例の病態生理が説明できる。

(2) 事例についてアセスメントを実施できる。

(3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。

(4) 援助をシミュレーションによって実施する。

(5) 実施した援助の評価を行う。

2. 高齢者看護に関する動向と課題について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、高齢者の紙上事例を用いて、高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。生活機能に関する加齢変化や、高齢者に特徴的な老年症候群が、高齢者の生活にどのような影響をもたらすのかという視点で看護過程を展開し、高齢者の状況や健康レベルに応じたケア計画を具体的に実施することによって、看護技術を修得する。この授業をとおして、高齢者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：急性期の看護（胃がん）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
2	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：急性期の看護（胃がん）	予習：事例について看護計画を立てる 復習：授業の学びを生かして看護計画を修正する
3	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：リハビリテーション看護（大腿骨頸部骨折）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
4	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：リハビリテーション看護（大腿骨頸部骨折）	予習：事例について看護計画を立てる 復習：授業の学びを生かして看護計画を修正する
5	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：慢性期の看護（慢性閉塞性肺疾患）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
6	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：慢性期の看護（慢性閉塞性肺疾患）	予習：事例について看護計画を立てる 復習：授業の学びを生かして看護計画を修正する
7	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：認知機能障害の看護（アルツハイマー病）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる

8	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：認知機能障害の看護（アルツハイマー病）	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
9	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：緩和ケア（大腸がん）	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
10	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：緩和ケア（大腸がん）	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
11	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：パーキンソン病の看護	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
12	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：パーキンソン病の看護	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
13	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：薬物療法を受ける高齢者の看護	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
14	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：薬物療法を受ける高齢者の看護	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
15	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：新たな動向と課題 内 容：感染症をめぐる新たな動向と課題	予習：関係する資料 を読む 復習：授業内容をま とめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>	
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する（南江堂）</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週火曜日 10:40~12:10</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美、助手			授業形態	実習
到達目標					
1. 周手術期の患者1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。					
（1）手術を控えた患者に対する情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。					
（2）手術前の患者への説明や患者の準備について説明できる。					
（3）手術後の療養生活の準備が実施できる。					
（4）手術後の患者に対する情報のアセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。					
（5）手術後の患者の状態変化に合わせて、情報のアセスメントを行い、計画を修正することができる。					
2. 受け持ち患者の手術にあわせて、手術室・ICUにも同行し、手術前、手術中、手術後の患者への援助の概要を説明できる。					
3. 急性期にある患者に対して、適切にアセスメントし、日々変化する患者への看護ケアが指導をうけながら実施できる。					
5. 急性期にある患者に対して、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、病棟で周手術期にある患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の手術前後における看護問題を抽出し、計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、病棟で周手術期にある患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、周手術期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。周手術期にある受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の手術前後における看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。					
この授業をとおして、手術後という急性期にある患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、急性期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	堤かおり、 温井由美、 助手	病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：「成人看護学 各論ⅠA（急性期：周 手術期）」の授業 ノートを読んでおく 復習：受け持ち患者 の病態生理を調べて まとめる
2 日 目		受け持ち患者担当の看護師へシャドウイング実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 のアセスメントを見 直す
3 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護問題を抽出し 看護計画を立てる 復習：看護計画を見 直しておく
4 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した看護 ケアを振り返り、記 録する
5 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 中間カンファレンス、計画の見直し	予習：中間カンファ レンスの準備を行っ ておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく

6 日 目		受け持ち患者の手術見学、ICUにて見学実習 情報収集、術後の看護計画立案	予習：受け持ち患者の手術と看護について調べておく 復習：見学実習からの学びを記録する
7 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 情報収集、計画の見直し	予習：術後の看護計画を立てる 復習：実施したケア内容の振り返りを行い、看護計画を見直す
8 日 目	堤かおり、 温井由美、 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 退院に向けた指導を計画・実施	予習：患者指導計画を立案し準備する 復習：実施した指導の振り返りを行う
9 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 実施の評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：看護計画実施の評価を行い、最終カンファレンスの準備 復習：カンファレンスでの学びをまとめる
10 日 目		学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：学びの発表の準備 復習：発表会での学びをまとめる

成績評価方法及び基準

評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜参考図書を紹介する

オフィスアワー

実習記録及びカンファレンスにて対応する

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

体調を整えて、実習に臨んでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○川村小千代、助手			授業形態	実習

到達目標

1. 慢性期にある患者1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。
 - (1) 慢性期にある患者に対する情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。
 - (2) 退院後の生活を見越した援助計画の必要性について説明できる。
 - (3) 受け持ち患者の状況に合わせて、退院後の生活に必要な指導を計画し、指導を受けて実施できる。
 - (4) 慢性期にある患者へのチームアプローチの実際を見学する。
2. 慢性期にある患者に対して、適切にアセスメントし、患者への看護ケアが指導をうけながら実施できる。
3. 慢性期にある患者に対して、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、病棟で慢性期にある患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、退院後の生活をふまえて看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で慢性疾患を有する患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、慢性期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。慢性疾患を有する受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。

この授業をとおして、慢性疾患を有する患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、慢性期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	川村小千 代、助手	病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：「成人看護学 各論Ⅱ（慢性期）」 の授業ノートを読ん でおく 復習：受け持ち患者 の病態生理を調べて まとめる
2 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ随行実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 のアセスメントを見 直す
3 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護問題を抽出し 看護計画を立てる 復習：看護計画を見 直しておく
4 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した看護 ケアを振り返り、記 録する
5 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 中間カンファレンス、計画の見直し	予習：中間カンファ レンスの準備を行っ ておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく

6 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者への退院後の生活に必要な指導計画について、指導看護師・教員へ相談し助言をもらう</p>	<p>予習：受け持ち患者の退院後の生活に必要な指導計画を立てる</p> <p>復習：実施したケアの振り返りを行い記録する</p>
7 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者への指導を実施</p>	<p>予習：受け持ち患者に必要な指導計画を助言に従って見直す</p> <p>復習：実施した指導の振り返りを行い記録する</p>
8 日 目	川村小千代、助手	<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>指導内容の評価</p>	<p>予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく</p> <p>復習：実施した指導の評価を行い記録する</p>
9 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>実施の評価</p> <p>最終カンファレンス（まとめ）</p>	<p>予習：看護計画実施の評価を行い、最終カンファレンスの準備</p> <p>復習：カンファレンスでの学びをまとめる</p>
10 日 目		<p>学びの発表会</p> <p>実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う</p>	<p>予習：学びの発表の準備</p> <p>復習：発表会での学びをまとめる</p>

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p style="text-align: center;">実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○高田美子、市後昌代、林史子、吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

1. リハビリテーションを実施している高齢者の患者1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。

（1）リハビリテーションを実施している患者に対する情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。

（2）リハビリテーションの目的を理解し、病棟での援助もリハビリテーションの状況をふまえて自立を促すように支援する。

（3）高齢者に特徴的な課題（例えば残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など）を取り上げて、援助を計画する。

（4）受け持ち患者の状況に合わせて、退院後の生活に必要な指導を計画し、指導を受けて実施できる。

2. リハビリテーション専門職とのチームアプローチの実際を見学し、連携の重要性について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、病棟でリハビリテーションを実施している高齢患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、退院後の生活をふまえて自立を支援する看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病院でリハビリテーションを必要としている高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、リハビリテーション期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。リハビリテーションを必要とする高齢受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者のリハビリテーションにおける看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など、高齢者の特徴をふまえてリハビリテーションを支える看護を体験する。

この授業をとおして、リハビリテーションを必要とする高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、回復期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	高田美子、 市後昌代、 林史子、 吉村牧子	病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：「リハビリ テーション看護学」 の授業ノートを読んで おく 復習：受け持ち患者 の病態生理を調べて まとめる
2 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 のリハビリテーショ ンの目的・目標をア セスメントから理解 する
3 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護問題を抽出し 看護計画を立てる 復習：リハビリテー ションに関連した看 護計画を見直してお く
4 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した看護 ケアを振り返り、記 録する
5 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行 中間カンファレンス、計画の見直し	予習：中間カンファ レンスの準備を行っ ておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく

6 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>受け持ち患者への看護計画で高齢者に特徴的な支援（例えば残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など）を取り上げて、指導看護師・教員へ相談し、支援方法について助言をもらう</p>	<p>予習：受け持ち患者の高齢者に特徴的な支援について実施計画を立てる</p> <p>復習：実施したケアの振り返りを行い記録する</p>
7 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>助言をもらった支援について、看護師の指導のもと実施</p>	<p>予習：高齢期にある受け持ち患者に必要な看護計画を助言に従って見直す</p> <p>復習：実施した指導の振り返りを行い記録する</p>
8 日 目	<p>高田美子、 市後昌代、 林史子、 吉村牧子</p>	<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>支援内容の評価</p>	<p>予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく</p> <p>復習：実施した指導の評価を行い記録する</p>
9 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>実施の評価</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>最終カンファレンス（まとめ）</p>	<p>予習：看護計画実施の評価を行い、最終カンファレンスの準備</p> <p>復習：カンファレンスでの学びをまとめる</p>
10 日 目		<p>学びの発表会</p> <p>実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う</p>	<p>予習：学びの発表の準備</p> <p>復習：発表会での学びをまとめる</p>

成績評価方法及び基準	評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。
教科書	なし 適宜参考図書を紹介する
オフィスアワー	実習記録及びカンファレンスにて対応する
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）	体調を整えて、実習に臨んでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、市後昌代、林史子、吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

1. 施設に入所している高齢者を1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。

(1) 高齢者に対する情報収集・アセスメント・生活上の問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。

(2) 認知症のある高齢者への対応、残存機能の維持・増進、転倒予防、誤嚥予防、いきがい作りなど、入所高齢者の特徴をふまえて、対象者の生活を支える支援を実施する。

2. 高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションを図ることができる。

3. 施設利用者の家族状況について説明できる。

4. 看護職の役割について説明できる。

5. 介護職の役割について説明できる。

6. 施設の環境面での配慮について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、施設に入所している高齢者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の生活上の問題を抽出し、高齢者の生活を支える安全・安楽で、自立に向けた援助を實踐する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者入所施設において、高齢者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、高齢者とその家族について理解し、状況に応じた適切な生活支援を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。入所高齢者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち高齢者における生活上の問題を抽出し、計画を立案・実践する。認知症のある高齢者への対応、残存機能の維持・増進、転倒予防、誤嚥予防、いきがい作りなど、入所高齢者の特徴をふまえて、対象者を支える支援を体験する。

この授業をとおして、入所高齢者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、高齢者における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を實施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	藤本由美 子、 市後昌代、 林史子、 吉村牧子	【介護老人保健施設】 施設オリエンテーション 施設見学 担当する高齢者の紹介・高齢者の情報収集	予習：介護老人保健施設について調べる 復習：担当高齢者の情報を整理しておく
2 日 目		高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 リハビリテーションの見学 担当高齢者の情報整理・アセスメント	予習：担当高齢者の情報を整理して、アセスメントする 復習：担当高齢者への援助方法を振り返る
3 日 目		高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 リハビリテーションの見学・施設の行事への参加 担当高齢者の生活上の問題の明確化・援助計画の立案	予習：担当高齢者の生活上の問題を抽出し援助計画を立てる 復習：担当高齢者の個別性に合わせた計画になっているか援助計画を見直しておく
4 日 目		高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 リハビリテーションの見学 自分が立案した援助計画について、指導のもと実施	予習：担当高齢者に必要な援助技術を見直しておく 復習：実施した援助を振り返り、記録する
5 日 目		高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 自分が立案した援助計画について、指導のもと実施・評価 まとめのカンファレンス	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく

6 日 目		<p>【介護老人福祉施設】</p> <p>施設オリエンテーション</p> <p>施設見学</p> <p>担当する高齢者の紹介・高齢者の情報収集</p>	<p>予習：介護老人福祉施設について調べる</p> <p>復習：担当高齢者の情報を整理しておく</p>
7 日 目		<p>高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助（入浴、排泄、食事等の介護や、機能訓練、健康管理および療養上の世話）を実施</p> <p>担当高齢者の情報整理・アセスメント</p>	<p>予習：担当高齢者の情報を整理して、アセスメントする</p> <p>復習：担当高齢者への援助方法を振り返る</p>
8 日 目	<p>藤本由美子、 市後昌代、 林史子、 吉村牧子</p>	<p>高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施</p> <p>担当高齢者の生活上の問題の明確化・援助計画の立案</p>	<p>予習：担当高齢者の生活上の問題を抽出し援助計画を立てる</p> <p>復習：担当高齢者の個別性に合わせた計画になっているか援助計画を見直しておく</p>
9 日 目		<p>高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施</p> <p>自分が立案した援助計画について、指導のもと実施</p>	<p>予習：担当高齢者に必要な援助技術を見直しておく</p> <p>復習：実施した援助を振り返り、記録する</p>
10 日 目		<p>高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施</p> <p>自分が立案した援助計画について、指導のもと実施・評価</p> <p>まとめのカンファレンス</p>	<p>予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく</p> <p>復習：カンファレンスからの学びを整理しておく</p>

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p style="text-align: center;">実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○高田美子、池西和哉、鷺野貴子			授業形態	実習
到達目標					
<p>1. 退院支援を必要としている高齢患者を1人を受け持ち、指導を受けながら退院支援に関する看護過程の展開を実施できる。</p> <p>2. 受け持ち患者に対して、適切にアセスメントし、必要な退院支援が指導をうけながら実施できる。</p> <p>3. 退院支援センターの必要性・機能・役割について説明できる。</p> <p>4. 退院調整看護師や福祉の専門職による退院支援に対するチームアプローチや地域連携の実際を体験的に理解する。</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
<p>学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、退院支援を必要とする高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することと、退院支援・地域連携に関わるスタッフの役割を知ることによって、退院支援・地域連携を行うために必要な看護実践能力を修得することを旨とする科目である。</p> <p>—</p>					
授業概要					
<p>この授業では、入院中で退院支援を必要とする高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、退院支援を必要としている高齢患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な退院支援を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。入院時から退院後を想定した援助方法の工夫、退院後を意識した指導、高齢者・家族の意思確認、地域で支える専門職とのミーティングなど、退院支援について受け持ち患者をとおして学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、退院支援を必要とする高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、退院後に向けた、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。</p>					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	高田美子、 池西和哉、 鷺野貴子	【見学実習】 和歌山県立医科大学附属病院患者支援センターの見学実習	予習：患者支援センターの役割について調べる 復習：見学からの学びを整理しておく
2 日 目		【病棟実習】 病棟オリエンテーション 退院支援を必要としている高齢の患者を1人受け持ち、 情報収集を行う 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：退院調整看護師について調べておく 復習：受け持ち患者の情報を整理して、アセスメントする
3 日 目		受け持ち患者の看護ケアを看護師の指導のもと行う 受け持ち患者の退院支援に関わる問題の明確化・支援計画の立案 退院調整看護師、ソーシャルワーカーによる退院支援・ 地域連携活動に同行して見学する	予習：受け持ち患者の退院支援に関わる問題を抽出し支援計画を立てる 復習：退院調整について見学した学びをまとめる
4 日 目		受け持ち患者の支援計画を看護師の指導のもと実施する 退院調整看護師、ソーシャルワーカーによる退院支援・ 地域連携活動に同行して見学する	予習：受け持ち患者への支援計画に必要な援助技術を見直ししておく 復習：実施した支援を振り返り、記録する
5 日 目		自分が立案した支援計画について、指導のもと実施・評価 退院調整看護師、ソーシャルワーカーによる退院支援・ 地域連携活動に同行して見学する まとめのカンファレンス	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく

成績評価方法及び基準	
評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。	
教科書	なし 適宜参考図書を紹介する
オフィスアワー	実習記録及びカンファレンスにて対応する
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）	
体調を整えて、実習に臨んでください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	下村明子			授業形態	講義
到達目標					
1. <u>小児に関する基本的な法律・施策、権利擁護の原則について説明できる。</u>					
2. <u>小児の成長・発達に応じた看護の基本について説明できる。</u>					
3. <u>小児に多い症状に対するアセスメントと看護方法の基本について説明できる。</u>					
4. <u>小児の状況に応じた、小児と家族への看護の原則について説明できる。</u>					
(1) 外来における小児と家族の看護 (2) 入院における小児と家族の看護					
(3) 在宅療養している小児と家族の看護 (4) 検査・処置を受ける小児と家族の看護					
(5) 手術を受ける小児と家族の看護 (6) 救急における小児と家族の看護					
5. <u>特別な支援を必要とする小児と家族への、基本的な看護方法を説明できる。</u>					
(1) 先天性障害をもつ小児と家族の看護 (2) がんの小児と家族の看護					
(3) 身体障害のある小児と家族の看護 (4) 発達障害のある小児と家族の看護					
(5) 感染症をもつ小児と家族の看護 (6) 児童虐待を受けた小児と家族の看護					
5. <u>小児看護の展望について説明できる。</u>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
<u>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児看護の対象である子どもと家族の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。</u>					
授業概要					
この授業では、小児看護の対象である子どもと家族の特徴ならびに子どもを取り巻く社会・医療・家族・環境状況について学び、小児看護の役割について理解する。小児看護の対象者を理解し、小児に関する法律や政策、子どもの権利擁護について学ぶ。健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について知り、健康障害や小児各期に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。					
この授業をとおして、小児看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>下村明子</u>	テーマ：小児看護を実践するための基礎知識 内 容：小児看護とは 小児看護の移り変わり－歴史の変遷と課題 小児の人権	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	<u>下村明子</u>	テーマ：小児看護を実践するための基礎知識 内 容：小児看護における理論 小児看護における法律 遊びと教育 小児と家族	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	<u>下村明子</u>	テーマ：小児の病気・事故の予防と健康増進 内 容：健康増進に向けた政策	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	<u>下村明子</u>	テーマ：小児の病気・事故の予防と健康増進 内 容：健康増進のための社会制度－社会資源の活用	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	<u>下村明子</u>	テーマ：小児の成長・発達と看護 内 容：成長・発達の基礎知識 新生児期の看護 乳児期の看護 幼児期の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	<u>下村明子</u>	テーマ：小児の成長・発達と看護 内 容：学童期の看護 思春期の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	<u>下村明子</u>	テーマ：症状別にみる小児の看護 内 容：痛み、発熱、脱水、嘔吐	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	<u>下村明子</u>	テーマ：症状別にみる小児の看護 内 容：下痢、発疹、呼吸困難、けいれん	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

9	下村明子	テーマ：状況別にみる小児と家族の看護 内 容：外来における小児と家族の看護 入院における小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	下村明子	テーマ：状況別にみる小児と家族の看護 内 容：在宅療養している小児と家族の看護 検査・処置を受ける小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	下村明子	テーマ：状況別にみる小児と家族の看護 内 容：手術を受ける小児と家族の看護 救急における小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	下村明子	テーマ：特別な支援を必要とする小児と家族の看護 内 容：先天性障害をもつ小児と家族の看護 がんの小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	下村明子	テーマ：特別な支援を必要とする小児と家族の看護 内 容：身体障害のある小児と家族の看護 発達障害のある小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	下村明子	テーマ：特別な支援を必要とする小児と家族の看護 内 容：感染症をもつ小児と家族の看護 児童虐待を受けた小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	下村明子	テーマ：これからの小児看護 内 容：小児看護と専門看護師、研究、海外における小児看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上

教科書

看護学テキスト NiCE 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 (南江堂)

オフィスアワー

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

小児看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○下村明子、羽畑正孝			授業形態	演習
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児に対するアセスメント技術の基本が演習で実施できる。 2. 小児に対するコミュニケーション技術（プレパレーション）の基本が演習で実施できる。 3. 小児に対する検査・処置技術の基本が演習で実施できる。 4. 小児に対する日常生活援助技術の基本が演習で実施できる。 5. 小児の救急救命処置技術について、基本が演習で実施できる。 					
【ディプロマポリシーとの関連】					
<p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児の患者に対して必要な看護技術について学び、小児の発達段階と特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得することを目指す科目である。</p>					
授業概要					
<p>この授業では、小児の患者に対して必要な看護技術について学ぶ。アセスメント技術として、健康歴の聴取、小児のバイタルサイン測定、身体計測、コミュニケーション技術（プレパレーション）、検査・処置技術、日常生活援助技術（食事、清潔・衣生活、排泄、呼吸、移動、環境調整）、救急救命処置技術について、基礎知識を学び、小児の発達段階と特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、小児の障害や健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。</p>					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：アセスメント技術 内 容：健康歴の聴取	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。

2	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：：アセスメント技術 内 容：全身状態の把握	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
3	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：：アセスメント技術 内 容：身体計測	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
4	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：コミュニケーション技術 内 容：プレパレーション	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
5	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：検査・処置技術 内 容：採血、採尿・導尿	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
6	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：検査・処置技術 内 容：骨髄穿刺・腰椎穿刺	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

7	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：検査・処置技術 内 容：与薬・注射・点滴	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
8	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：検査・処置技術 内 容：与薬・注射・点滴	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
9	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：検査・処置技術 内 容：与薬・注射・点滴	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
10	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：検査・処置技術 内 容：吸入・酸素療法・抑制	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
11	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：日常生活援助技術 内 容：食事の援助技術	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

12	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：清潔・衣生活の援助技術	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
13	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：排泄の援助技術	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
14	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：移動の援助技術、 環境調整の技術	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
15	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：救急救命処置技術 内 容：一次救命処置、 二次救命処置	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
<p>成績評価方法及び基準 <u>演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</u> <u>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</u></p>			
<p>教科書 看護学テキスト NiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技 (南江堂)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週木曜日 10:40~12:10</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) 実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○下村明子、羽畑正孝			授業形態	演習

到達目標

1. 小児患者の紙上事例について、小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。

(1) 事例の病態生理が説明できる。

(2) 事例についてアセスメントを実施できる。

(3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。

(4) 援助をシミュレーションによって実施する。

(5) 実施した援助の評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児の紙上事例を用いて、小児とその家族の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、小児の患者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を、小児期に罹患することが多い疾病を事例にあげ看護過程を展開することによって修得する。

この授業をとおして、成長発達をふまえて小児の患者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：熱傷で入院している1歳6ヵ月の男児への看護	予習：事例について 病態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる

2	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：熱傷で入院している1歳6ヵ月の男児への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
3	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：熱傷で入院している1歳6ヵ月の男児への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
4	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：先天性心疾患をもつ乳児と家族への看護	予習：事例について 病態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
5	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：先天性心疾患をもつ乳児と家族への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
6	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：先天性心疾患をもつ乳児と家族への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
7	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：小児1型糖尿病で教育入院となった学童への看護	予習：事例につい病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
8	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：小児1型糖尿病で教育入院となった学童への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
9	<u>下村明子、</u> <u>羽畑正孝</u>	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：小児1型糖尿病で教育入院となった学童への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる

10	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：化学療法を受ける小児と罪悪感をもつ家族への看護	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
11	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：化学療法を受ける小児と罪悪感をもつ家族への看護	予習：事例について情報を整理する 復習：授業内容をまとめる
12	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：化学療法を受ける小児と罪悪感をもつ家族への看護	予習：事例について介入方法を考えてまとめる 復習：授業内容をまとめる
13	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：発達障害の小学生と家族への看護	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
14	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：発達障害の小学生と家族への看護	予習：事例について情報を整理する 復習：授業内容をまとめる
15	下村明子、 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：発達障害の小学生と家族への看護	予習：事例について介入方法を考えてまとめる 復習：授業内容をまとめる

成績評価方法及び基準

演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

看護学テキスト NiCE 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助（南江堂）

看護学テキスト NiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技（南江堂）

オフィスアワー

毎週木曜日4限 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○下村明子、羽畑正孝			授業形態	実習

到達目標

1. 小児患者の紙上事例について、小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。

(1) 事例の病態生理が説明できる。

(2) 事例についてアセスメントを実施できる。

(3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。

(4) 援助をシミュレーションによって実施する。

(5) 実施した援助の評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児の紙上事例を用いて、小児とその家族の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で小児の患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって小児期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。小児の受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。健康な小児と接し、小児の健康な成長発達の状況を学ぶ。支援学校へ通う子どもたちと接し、障害を持ちながら地域で通学する子どもへの支援のあり方を知る。

この授業をとおして、小児の患者や家族のニーズを知り、看護過程の展開を通して、小児期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	下村明子、 羽畑正孝	【幼稚園・保育所】 施設オリエンテーション 施設見学	予習：幼稚園・保育所について調べる 復習：オリエンテーション内容を整理しておく

2 日 目	下村明子、 羽畑正孝	幼稚園・保育所のスケジュールにあわせて、指導のもと 幼児と接する	予習：健康な小児の 何をみたいのか、実 習の視点をまとめる 復習：実習での学び を振り返る
3 日 目		幼稚園・保育所のスケジュールにあわせて、指導のもと 幼児と接する	予習：健康な小児へ の関わり方をみてお く 復習：実施した関わ りを振り返り、記録 する
4 日 目		幼稚園・保育所のスケジュールにあわせて、指導のもと 幼児と接する スタッフの方参加のもと、まとめの会（実習での学びや 反省点を発表し助言をもらう）	予習：実習での学び をまとめておく 復習：まとめの会か ら学んだことを整理 する
5 日 目		【支援学校】 支援学校のオリエンテーション 施設および授業の見学	予習：支援学校につ いて調べておく 復習：見学実習によ る学びを整理してお く
6 日 目		【小児病棟】 病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：小児病棟の特 徴について調べる 復習：受け持ち患者 の病態生理を整理し ておく
7 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ随実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 への援助方法を振り 返る

8 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者の看護上の問題を抽出し看護計画を立てる 復習：受け持ち患者が小児であることに合わせた計画になっているか看護計画を見直しておく
9 日 目	下村明子、 羽畑正孝	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施	予習：小児に合わせた援助技術を見直しておく 復習：実施した援助を振り返り、記録する
10 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施・評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する 演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	貞岡美伸			授業形態	講義

到達目標

1. 母性看護における理論・概念について概要を説明できる。
2. 母子保健統計と社会資源について概要が説明できる。
3. 生殖に関する形態機能とライフサイクルについて説明できる。
4. 性と生殖をめぐる健康支援の方法について基本を説明できる。
5. 性と生殖をめぐる倫理的課題について概要を説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、母性看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、母性看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、母性看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。母性看護からみた親子・家族関係、親役割獲得、家族移行のプロセス、出産をめぐる歴史、倫理的問題、母子をとりまく文化・社会、ヘルスプロモーションについて学び、母性看護をとりまく現状と課題について学ぶ。対象者の健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。

この授業をとおして、母性看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸	テーマ：母性看護学の概念 内 容：母性看護学の基盤となる理論と概念	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	貞岡美伸	テーマ：親になること 内 容：親子・家族関係、親役割の獲得	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	貞岡美伸	テーマ：親になること 内 容：家族移行のプロセス、出産の歴史	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	貞岡美伸	テーマ：母子保健統計と社会資源 内 容：母子保健統計、母子をとりまく文化・社会	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	貞岡美伸	テーマ：母子保健統計と社会資源 内 容：母子にかかわる法律と社会資源	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	貞岡美伸	テーマ：生殖に関する形態機能とライフサイクル 内 容：発生・遺伝・性分化のメカニズム	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	貞岡美伸	テーマ：生殖に関する形態機能とライフサイクル 内 容：生殖器の形態と機能、社会心理的特性	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	貞岡美伸	テーマ：性と生殖をめぐる倫理的課題 内 容：性と生殖をめぐる倫理的課題の特徴	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	貞岡美伸	テーマ：性と生殖をめぐる倫理的課題 内 容：倫理的課題にアプローチする	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：女性のライフサイクルの全体像	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

11	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：思春期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：成熟期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：更年期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：老年期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	貞岡美伸	テーマ：母性看護学をとりまく現状と課題 内 容：母性看護学領域の活動の発展、国際化	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
成績評価方法及び基準 演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上を合格とする。			
教科書 看護学テキストNiCE 母性看護学I 概論・ライフサイクル 生涯を通じた性と生殖の健康を支える (南江堂)			
オフィスアワー		毎週金曜日2限 10:40~12:10	
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) 母性看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸、北出千春、木野寛子			授業形態	演習
到達目標					
<p>1. 妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態に関するアセスメントと看護の方法が演習で実施できる。</p> <p>2. 正常分娩のアセスメント、正常経過からの逸脱のアセスメントと看護の方法が演習で実施できる。</p> <p>3. 産褥期のアセスメント、正常経過からの逸脱のアセスメントと看護の方法が演習で実施できる。</p> <p>4. 新生児のアセスメント看護の方法が演習で実施できる。</p>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
<p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護の方法を身に付けることを目指す科目である。</p>					
授業概要					
<p>この授業では、周産期の対象者に対して必要な看護技術について学ぶ。妊娠期の看護技術として、妊娠に伴う生理的変化と胎児の健康状態に関するアセスメント、ハイリスク妊婦への支援、分娩期の看護技術として、正常分娩の経過とアセスメント、正常経過からの逸脱とアセスメント、出生直後の新生児のアセスメント、褥婦の正常経過からの逸脱とアセスメント、新生児のアセスメントと支援方法について、基礎知識を学び、周産期の各期の特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。</p>					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠期の看護 内 容：妊娠に伴う生理的変化と胎児の健康状態に関するアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
2	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠期の看護 内 容：親になっていく過程のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠期の看護 内 容：ハイリスク妊婦への看護の実際	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
4	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：分娩期の看護 内 容：正常分娩の経過とアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
5	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：分娩期の看護 内 容：分娩期の正常経過からの逸脱と看護	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

6	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：分娩期の看護 内 容：出生直後の新生児・家族のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
7	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：産褥期の看護 内 容：産褥期の身体状態のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
8	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：産褥期の看護 内 容：親になっていく過程のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
9	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：産褥期の看護 内 容：褥婦の正常経過からの逸脱と援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
10	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：産褥期の看護 内 容：生まれた子どもが障害をもつ家族の援助，子どもを亡くした家族の援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

11	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：帝王切開を受ける妊産褥婦への看護 内 容：帝王切開時の看護	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
12	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の発達状況のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
14	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の健康問題と看護	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の事故防止と安全	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

成績評価方法及び基準

演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

看護学テキストNiCE 母性看護学II マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実践（南江堂）

オフィスアワー

毎週金曜日4限 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学各論II		
講義開講時期	前期	学年	3	必修/選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸、北出千春、木野寛子			授業形態	演習

到達目標

1. 周産期にある対象者の紙上事例について、周産期の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、周産期の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。

- (1) 事例の病態生理が説明できる。
- (2) 事例についてアセスメントを実施できる。
- (3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。
- (4) 援助をシミュレーションによって実施する。
- (5) 実施した援助の評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、周産期にある対象者の紙上事例を用いて、対象者の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、周産期の対象者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。ハイリスク妊婦、分娩の正常経過からの逸脱、褥婦の正常経過からの逸脱など、周産期の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、周産期の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。

この授業をとおして、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸、 北出千春、 木野寛子	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：事例展開①病態生理の理解、情報の整理・アセスメント	予習：事例について情報を整理しておく 復習：授業内容をまとめる

2	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：事例展開②看護上の問題の明確	予習：事例について看護上の問題を抽出しておく 復習：授業内容をまとめる
3	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：事例展開③看護計画の立案・評価	予習：事例について介入方法を考えてまとめる 復習：授業内容をまとめる
4	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：看護過程の展開の発表	予習：事例について看護を発表できるように準備をする 復習：授業内容をまとめる
5	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：看護過程の展開について意見交換・検討会	予習：事例展開に対する自分の意見をまとめる 復習：授業内容をまとめる
6	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：事例展開①病態生理の理解、情報の整理・アセスメント	予習：事例について情報を整理しておく 復習：授業内容をまとめる
7	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：事例展開②看護上の問題の明確	予習：事例について看護上の問題を抽出しておく 復習：授業内容をまとめる
8	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：事例展開③看護計画の立案・評価	予習：事例について介入方法を考えてまとめる 復習：授業内容をまとめる

9	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：看護過程の展開の発表	予習：事例について看護を発表できるように準備をする 復習：授業内容をまとめる
10	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：看護過程の展開について意見交換・検討会	予習：事例展開に対する自分の意見をまとめる 復習：授業内容をまとめる
11	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：事例展開①情報の整理・アセスメント	予習：事例について情報を整理しておく 復習：授業内容をまとめる
12	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：事例展開②看護上の問題の明確	予習：事例について看護上の問題を抽出しておく 復習：授業内容をまとめる
13	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：事例展開③看護計画の立案・評価	予習：事例について介入方法を考えてまとめる 復習：授業内容をまとめる
14	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：看護過程の展開の発表	予習：事例について看護を発表できるように準備をする 復習：授業内容をまとめる

15	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：看護過程の展開について意見交換・検討会	予習：事例展開に対する自分の意見をまとめる 復習：授業内容をまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>事例で学ぶ看護学 事例で学ぶ母性看護学（メヂカルフレンド社）</p>			
<p>オフィスアワー 毎週火曜日3限 13:00~14:30</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸、北出千春、木野寛子			授業形態	実習

到達目標

1. 妊娠期・分娩期・産褥期にある対象者を1人受け持ち、アセスメントを行い、看護過程を展開する。

(1) 情報の分析から、ケアニーズを抽出できる。

(2) ウェルネスの視点を適切に取り入れることができる。

(3) 周産期にある人の特徴と家族を含めた援助の方法を理解する。

2. 生命の尊厳に触れて、生命の大切さを涵養する。

3. 産婦人科外来の実習をとおして、通院する対象者へのケアについて知る。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、周産期にある対象者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、ウェルネスの視点を適切に取り入れてケアニーズを抽出し、新生児も含めて退院後の生活を考慮した看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で周産期にある対象者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって周産期にある人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。周産期にある対象者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、周産期を安全・安楽に経過するための支援方法を計画し、実践する。

この授業をとおして、周産期にある対象者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、周産期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	貞岡美伸、 北出千春、 木野寛子	【病棟】 病棟オリエンテーション 受け持ちする対象者の紹介・患者の情報収集	予習：「母性看護学 各論Ⅱ」の授業ノ ートを読んでおく 復習：オリエンテ ーションの内容をまと める

2 日 目		受け持ち対象者担当の助産師/看護師へ随行実習 受け持ち対象者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち対象者の情報を整理して、アセスメントする 復習：受け持ち対象者のアセスメントを見直す
3 日 目		受け持ち対象者のケアを助産師/看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち対象者の看護問題を抽出し看護計画を立てる 復習：看護計画を見直しておく
4 日 目	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施	予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく 復習：実施した看護ケアを振り返り、記録する
5 日 目		自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施 中間カンファレンス、計画の見直し ※出産に伴って、産後の計画立案を行う	予習：中間カンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
6 日 目		自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施 授乳・沐浴など新生児へのケアについて計画し、指導助産師/看護師・教員へ相談し助言をもらう	予習：出産に伴い必要となってくる新生児ケアについて看護計画を立てる 復習：実施したケアの振り返りを行い記録する

7 日 目		自分が立案した受け持ち対象者・新生児の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施 新生児への看護ケアを助産師/看護師とともに実施	予習：受け持ち患者と新生児に必要な看護計画を助言に従って見直す 復習：実施した指導の振り返りを行い記録する
8 日 目	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 指導内容の評価	予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく 復習：実施した指導の評価を行い記録する
9 日 目		自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 実施の評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：看護計画実施の評価を行い、最終カンファレンスの準備 復習：カンファレンスでの学びをまとめる
10 日 目		学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：学びの発表の準備 復習：発表会での学びをまとめる
	<u>貞岡美伸、</u> <u>北出千春、</u> <u>木野寛子</u>	【産婦人科外来】 対象者を受け持ち、支援を受けながら看護過程を展開するが、受け持ちの状況をみながら、実習中に順次、産婦人科外来2日間を計画する。	予習：外来の役割を調べておき 復習：学びをまとめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>	
<p>教科書</p> <p>なし 適宜参考図書を紹介する</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	山本明弘			授業形態	講義

到達目標

1. ライフサイクルにおける対象者個人及び家族の精神発達やメンタルヘルス上の課題について説明できる。
2. 精神医療の歴史と看護について概要を説明できる。
3. 精神看護における看護の倫理と人権擁護について説明できる。
4. 精神保健医療に関わる法制度の変遷と現在の法制度について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、精神看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、精神看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、精神看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や日本が抱える課題、精神看護からみたライフサイクルにおける対象者個人及び家族の精神発達やメンタルヘルス上の課題について理解する。患者の人権と安全を守りながら、心の健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。

この授業をとおして、精神看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘	テーマ：精神障害についての基本的な考え方 内 容：障害のとらえ方 社会の変化とメンタルヘルス	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	山本明弘	テーマ：人間のこころと行動 内 容：こころと環境	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	<u>山本明弘</u>	テーマ：人格の発達と情緒体験 内 容：対象関係論の立場から	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	<u>山本明弘</u>	テーマ：人生各期の発達課題 内 容：ライフサイクルとメンタルヘルス	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	<u>山本明弘</u>	テーマ：現代社会とこころ 内 容：現代社会の特徴	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	<u>山本明弘</u>	テーマ：ストレスに対する身体的反応 内 容：心身症とは	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	<u>山本明弘</u>	テーマ：家族とその支援 内 容：精神疾患と家族	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	<u>山本明弘</u>	テーマ：嗜癖と依存 内 容：依存のとらえ方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護の倫理と人権擁護 内 容：精神科医療におけるアドボカシー	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護の倫理と人権擁護 内 容：精神科医療における権利擁護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

11	<u>山本明弘</u>	テーマ：精神医療の歴史と看護 内 容：近代までの精神医療	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	<u>山本明弘</u>	テーマ：精神医療の歴史と看護 内 容：近代の精神医療	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	<u>山本明弘</u>	テーマ：精神医療の歴史と看護 内 容：20世紀の精神医療	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	<u>山本明弘</u>	テーマ：精神保健医療福祉をめぐる法律 内 容：精神保健医療に関わる法制度の変遷	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	<u>山本明弘</u>	テーマ：精神保健医療福祉をめぐる法律 内 容：精神保健医療福祉に関わる現在の法制度	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版)			
オフィスアワー		毎週木曜日4限 14：40～16：10	
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) 精神看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	演習
到達目標					
1. 主な精神疾患について、症状・検査・治療・看護の方法について概要が説明できる。					
2. 精神疾患患者に用いられる医学的検査と心理検査について説明できる。					
3. 精神疾患に特徴的な治療方法について理解し、患者への看護の留意点が説明できる。					
4. 精神科での援助におけるアセスメントの視点が説明できる。					
5. 精神看護に求められるコミュニケーション技術について説明ができる。					
6. 精神科リハビリテーションの考え方について説明できる。					
7. 精神疾患患者の社会復帰・社会参加への支援方法の概要が説明できる。					
8. 救急医療現場における患者支援について説明できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、精神疾患患者の健康レベルに応じた看護の支援を身に付けることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、精神疾患患者に対して必要な看護の支援方法について学ぶ。精神症状をとらえるための観察方法、アセスメントに用いられる主な理論、精神看護におけるコミュニケーション技法、生理学的側面からアプローチする検査、心理学的側面からアプローチする検査、社会機能を知る尺度、心理学的側面からアプローチするケア・支援、社会復帰・社会参加の基本と働きかけについて、基礎知識を学び、精神疾患患者の特徴に合わせた看護の支援方法について演習を行いながら修得する。					
この授業をとおして、精神疾患患者に対して、精神の健康レベルに応じた看護の支援技術を身に付ける。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：精神疾患総論 自閉症スペクトラム障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
2	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：統合失調症 抑うつ障害と双極性障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：不安障害、強迫性障害 解離性障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
4	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：ストレス因関連障害 身体症状症および関連症 パーソナリティ障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

5	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：摂食障害 睡眠－覚醒障害	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
6	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：医学的検査と心理検査 内 容：医学的検査	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
7	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：医学的検査と心理検査 内 容：心理検査	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
8	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神科での治療 内 容：薬物療法	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
9	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神科での治療 内 容：精神療法	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

10	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神科での治療 内 容：社会療法	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
11	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神科看護における対象の理解 内 容：精神科での援助におけるアセスメントの視点	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
12	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神科看護におけるケアの方法 内 容：「治療的関わり」の考え方 看護師に求められるコミュニケーション技術 日常生活行動の援助	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：入院環境と治療的アプローチ 内 容：治療の場としての精神科病棟	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
14	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：精神保健活動とリハビリテーション 内 容：精神科リハビリテーションの考え方 社会復帰・社会参加	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

15	山本明弘、 横谷知也	テーマ：救急医療現場における患者支援 自殺未遂者・急性薬物中毒	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践 (メディカ出版)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週金曜日5限 16:20~17:50</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修/選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	演習
到達目標					
1. 精神疾患患者の紙上事例について、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。					
(1) 事例の病態生理が説明できる。					
(2) 事例についてアセスメントを実施できる。					
(3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。					
(4) 援助をシミュレーションによって実施する。					
(5) 実施した援助の評価を行う。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、精神疾患患者の紙上事例を用いて、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、精神疾患患者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護の支援技術をシミュレーションで実施する。急性期の統合失調症、在宅における慢性期の統合失調症、うつ病、双極性障害、パニック障害、アルコール使用障害など、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。					
この授業をとおして、精神疾患患者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。					
授業計画					

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘、 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（急性期）患者 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく

2	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：統合失調症（急性期）患者 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
3	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：統合失調症（急性期）患者 内 容：学びの発表・意見交換	予習：発表の準備 復習：学びをまとめる
4	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：統合失調症（慢性期）患者・在宅 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
5	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：統合失調症（慢性期）患者・在宅 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
6	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：統合失調症（慢性期）患者・在宅 内 容：学びの発表・意見交換	予習：発表の準備 復習：学びをまとめる
7	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：うつ病患者 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
8	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：うつ病患者 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
9	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：双極性障害 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
10	<u>山本明弘</u> 、 <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：双極性障害 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる

11	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：パニック障害 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
12	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：パニック障害 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
13	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：アルコール使用障害 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
14	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：事例：アルコール使用障害 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
15	<u>山本明弘、</u> <u>横谷知也</u>	テーマ：7回目以降の事例についてまとめ 内 容：学びの発表・意見交換	予習：発表の準備 復習：学びをまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践 (メディカ出版)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週月曜日4限 14：40～16：10</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	実習
到達目標					
1. <u>精神科疾患のある患者を1人受け持ち、情報収集、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案・評価を行い、看護過程を展開する。</u>					
(1) <u>生活上の困難に対して、必要とされる支援を計画できる。</u>					
(2) <u>社会復帰に必要な社会資源利用について考えることできる。</u>					
(3) <u>生活上の困難に対して、必要とされる支援を患者とともに考えて実施できる。</u>					
(4) <u>患者とのかかわりをおして、反応を確かめながら看護計画を実施する。</u>					
2. <u>精神科疾患の患者の生きづらさや生活上の困難を理解する。</u>					
3. <u>社会復帰を目指す精神障害者への就労継続支援の役割について説明できる。</u>					
4. <u>地域で生活する精神障害者への生活介護（通所）のもつ役割について説明できる。</u>					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、病棟で精神科疾患のある患者1人を受け持ち看護過程を展開する、自立支援施設を利用しながら地域で生活する精神障害者への支援を理解する、という実習をおして対象者の生きづらさや生活上の困難を理解し、看護支援を実践する能力を身に付けることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、病棟で精神疾患患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって精神を病む人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。精神科の受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。社会復帰のための支援施設へ通う人たちと接し、精神障害を持ちながら地域で生活する人への支援のあり方を知る。					
この授業をおして、精神疾患患者や家族のニーズを知り、看護過程の展開を通して、精神疾患患者に対する、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	山本明弘、 横谷知也	【精神科病棟】 病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：精神科病棟の 特徴について調べる 復習：受け持ち患者 の病態生理を整理し ておく
2 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ随行実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 への援助方法を振り 返る
3 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護上の問題を抽 出し看護計画を立て る 復習：受け持ち患者 の個別性をふまえた 計画になっているか 看護計画を見直して おく
4 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施	予習：適切な介入方 法であるか見直して おく 復習：実施した援助 を振り返り、記録す る
5 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施・評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：まとめのカン ファレンスの準備を 行っておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく

6 日 目		【自立支援施設】 施設オリエンテーション 施設見学	予習：自立支援施設 について調べる 復習：本日の学びを 整理する
7 日 目		就労継続支援を受けている人に対する援助を、施設職員 と一緒に実施する	予習：就労継続支援 について調べる 復習：本日の学びを 記録する
8 日 目	山本明弘、 横谷知也	就労継続支援を受けている人に対する援助を、施設職員 と一緒に実施する 職業訓練・作業訓練を見学する	予習：職業訓練・作 業訓練について調べ る 復習：本日の学びを
9 日 目		生活介護（通所）を受けている人に対する援助を、施設 職員と一緒に実施する 機能回復訓練を見学する	予習：生活介護事業 について調べる 復習：本日の学びを 記録する
10 日 目		生活介護（通所）を受けている人に対する援助を、施設 職員と一緒に実施する スタッフの方参加のもと、まとめの会（実習での学びや 反省点を発表し助言をもらう）	予習：まとめの会の 発表内容を整理して おく 復習：本日の学びを 記録する
成績評価方法及び基準			
評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単 位を認定する。			
教科書			
なし 適宜参考図書を紹介する			
状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）			
体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉			授業形態	講義

到達目標

1. 日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景の概要が説明できる。
2. 在宅看護の法的基盤とシステムが説明できる。
3. 在宅看護における看護過程の展開が説明できる。
4. 在宅看護における多職種連携の必要性が説明できる。
5. 在宅看護における倫理的課題が説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、地域・在宅看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域・在宅看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、地域・在宅看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。訪問看護制度の確立と個別ケア展開の歴史、地域・在宅看護をめぐる社会文化的背景、地域・在宅における終末期の考え方、地域・在宅看護の法的基盤とシステム、居宅等における医行為の特徴と課題、退院支援のあり方と多職種連携、チームケアとマネジメント、在宅看護と他職種の連携について理解する。地域・在宅で療養する対象者の人権と安全を守りながら、健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	池西和哉	テーマ：日本の在宅看護の成立 内 容：在宅看護の概念 訪問看護制度の確立と個別ケア展開の歴史	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	池西和哉	テーマ：日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景 内 容：日本の家族の変遷と現状	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	池西和哉	テーマ：日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景 内 容：在宅における終末期の考え方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	池西和哉	テーマ：在宅看護の法的基盤とシステム 内 容：介護保険制度	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	池西和哉	テーマ：在宅看護の法的基盤とシステム 内 容：地域包括ケアシステム	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	池西和哉	テーマ：在宅看護の法的基盤とシステム 内 容：訪問看護制度	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	池西和哉	テーマ：在宅看護における連携 内 容：退院支援のあり方と看護職どうしの連携	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	池西和哉	テーマ：在宅看護における連携 内 容：チームケアとマネジメント	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	池西和哉	テーマ：在宅看護における連携 内 容：在宅看護と他職種との連携	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

10	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：病状・病態の変化の予測と自立支援	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅看護に求められるヘルスアセスメント	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅療法と家族支援	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅における看護過程の展開	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅における看護過程の展開	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	池西和哉	テーマ：在宅看護における倫理的課題 内 容：自己決定支援、権利擁護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

看護学テキストNiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして（南江堂）

オフィスアワー

毎週金曜日4限 14：40～16：10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

地域・在宅看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉、鷺野貴子			授業形態	講義

到達目標

1. 療養を支援する看護技術について、目的と療養者の特徴、ヘルスアセスメントの方法、看護技術の方法が説明できる。

- (1) 口腔ケアと嚥下訓練 (2) 排泄支援 (3) 清潔ケア (4) 移動の援助
(5) 肺炎予防 (6) 感染予防 (7) 心不全予防 (8) 低栄養予防

2. 医療を支援する看護技術について、目的と療養者の特徴、ヘルスアセスメントの方法、看護技術の方法が説明できる。

- (1) 服薬管理 (2) 在宅酸素療法 (HOT) (3) 在宅輸液療法
(4) 在宅人工呼吸療法 (HMV) (5) 腹膜透析 (6) 経管栄養
(7) 膀胱留置カテーテル (8) 呼吸リハビリテーション
(9) 疼痛管理 (10) 褥瘡管理

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、地域・在宅看護の対象者に対して必要な看護技術について学び、療養者の特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域・在宅看護の対象者に対して必要な看護技術と支援方法について学ぶ。療養を支援する看護技術として、口腔ケアと嚥下訓練、排泄支援、清潔ケア、移動の援助、肺炎予防、感染予防、心不全予防、低栄養予防について、基礎知識を学び看護技術について方法を修得する。医療を支援する看護技術として、服薬管理、在宅酸素療法 (HOT)、在宅輸液療法、在宅人工呼吸療法 (HMV)、腹膜透析、経管栄養、膀胱留置カテーテル、呼吸リハビリテーション、疼痛管理、褥瘡管理について基礎知識を学び看護技術について方法を修得する。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者に対して、療養の特徴に応じた看護の支援技術を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	<u>鷺野貴子</u>	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：口腔ケアと嚥下訓練 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
2	<u>鷺野貴子</u>	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：排泄支援 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
3	<u>鷺野貴子</u>	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：清潔ケア 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
4	<u>鷺野貴子</u>	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：移動の援助 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
5	<u>鷺野貴子</u>	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：肺炎予防、感染予防 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
6	<u>鷺野貴子</u>	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：心不全予防、低栄養予防 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
7	<u>池西和哉</u>	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：服薬管理 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>

8	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：在宅酸素療法（HOT）</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
9	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：在宅輸液療法</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
10	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：在宅人工呼吸療法（HMV）</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
11	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：腹膜透析</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
12	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：経管栄養</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
13	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：膀胱留置カテーテル</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
14	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：呼吸リハビリテーション</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>

15	池西和哉	テーマ：医療を支援する看護技術 内 容：疼痛管理、褥瘡管理 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術	予習：テキストの該当ページをまとめる 復習：技術の手順・留意点を整理する
成績評価方法及び基準 課題レポート20%、定期試験80%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 看護学テキストNiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして（南江堂）			
オフィスアワー 毎週木曜日4限 14：40～16：10			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 在宅看護に必要な看護技術です。予習復習をしっかりと、授業に出席してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学各論II		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉、鷺野貴子			授業形態	演習

到達目標

1. 地域・在宅看護の対象者の紙上事例について、対象者とその家族の健康レベル、療養環境、支援制度の利用状況を踏まえて看護過程の展開ができる。

(1) 事例の病態生理が説明できる。

(2) 事例についてアセスメントを実施できる。

(3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。

(4) 援助をシミュレーションによって実施する。

(5) 実施した援助の評価を行う。

2. 看護技術を在宅で実施する上での工夫を説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、地域・在宅看護の対象者の紙上事例を用いて、地域・在宅看護の対象者とその家族の特徴、療養を支援する制度を踏まえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域・在宅看護の対象者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護の支援技術をシミュレーションで実施する。要介護高齢者への在宅看護、認知症高齢者への在宅看護、がんの療養者への在宅看護、神経系難病の療養者への在宅看護、慢性感染症をもつ療養者への在宅看護、疾病や障害をもつ小児への在宅看護、精神疾患をもつ療養者への在宅看護、終末期の療養者への在宅看護について療養者の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1 ・ 2	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：要介護高齢者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
3 ・ 4	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：認知症高齢者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
5 ・ 6	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：認知症高齢者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
7 ・ 8	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：がんの療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
9 ・ 10	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：がんの療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
11 ・ 12	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：神経系難病の療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
13 ・ 14	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：神経系難病の療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
15 ・ 16	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：慢性感染症をもつ療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす

17 ・ 18	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：慢性感染症をもつ療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
19 ・ 20	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：疾病や障害をもつ小児への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
21 ・ 22	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：疾病や障害をもつ小児への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
23 ・ 24	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：精神疾患をもつ療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
25 ・ 26	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：精神疾患をもつ療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
27 ・ 28	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：終末期の療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
29 ・ 30	<u>池西和哉、</u> <u>鷺野貴子</u>	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：終末期の療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

演習への到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

看護学テキストNiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして（南江堂）

オフィスアワー

毎週木曜日3限 13：00～14：30

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉、鷺野貴子、林史子、吉村牧子			授業形態	実習
到達目標					
1. 訪問看護の機能と役割を説明できる。					
2. 訪問看護の必要性を説明できる。					
3. 多職種協働の必要性とその意義が説明できる。					
4. 2回目の訪問が可能な対象者1人について、訪問看護の立案計画が助言を受けて実施できる。					
5. 2回目の訪問が可能な対象者1人について、2回目訪問時に立案した看護ケアを訪問看護師とともに実施する。					
6. 在宅で行うケアの工夫について説明できる。					
7. 生活している場を尊重したケアの工夫について説明できる。					
8. 在宅療養者の身体的・心理的・社会的特性を説明することができる。					
9. 他職種との連携・情報交換の必要性とその方法について説明できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、訪問看護実習をとおして、在宅療養者の特徴、訪問看護の必要性と役割、多職種連携の必要性を理解し、在宅において看護支援を実践する能力を身に付けることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、訪問看護ステーションにおいて、訪問看護を受けている対象者を訪問することによって、在宅で療養する人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。訪問する対象者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、訪問看護計画の内容を理解する。訪問看護ステーションの機能とそこで働く看護職の役割および関係機関・多職種との連携の重要性を理解する。在宅療養を支える社会資源の意義と課題について学ぶ。					
この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の健康レベルに応じて、安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する能力を養う。					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	池西和哉、 鷺野貴子、 林史子、 吉村牧子	【訪問看護ステーション】 オリエンテーション 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場所確認	予習：訪問看護について調べる 復習：オリエンテーションの内容を記録する
2 日 目		訪問看護師に同行する。 同行した患者の中で、次回訪問できる患者を紹介してもらい訪問時の計画を立案する 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場所確認	予習：訪問目的の確認 復習：学びの記録
3 日 目		訪問看護師に同行する。 次回訪問時の計画について、訪問看護師に助言をもらう 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場所確認	予習：訪問計画の立案 復習：学びの記録
4 日 目		訪問看護師に同行する。 次回訪問時の計画内容を見直す 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場所確認	予習：訪問計画の見直し 復習：学びの記録
5 日 目		訪問看護師に同行する。 中間カンファレンス	予習：カンファレンスの準備 復習：学びの記録
6 日 目		訪問看護師に同行する。 2回目の訪問患者に対して、自分が立案した看護計画に従って、看護ケアを訪問看護師とともに実施 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場所確認	予習：計画した援助技術をみておく 復習：学びの記録
7 日 目		訪問看護師に同行する。 2回目の訪問患者に対して立案実施した看護ケアについて、訪問看護師からフィードバック 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場所確認	予習：訪問目的の確認 復習：学びの記録

8 日 目	池西和哉、 鷺野貴子、	訪問看護師に同行する。 訪問看護における多職種連携について、リハビリテーションの専門職から説明を受ける	予習：多職種連携について調べる 復習：学びの記録
9 日 目	林史子、 吉村牧子	最終カンファレンス（まとめ）	予習：カンファレンスの準備 復習：：学びの記録
10 日 目		学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：発表準備 復習：学びの記

成績評価方法及び基準

評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜参考図書を紹介する

オフィスアワー

実習記録及びカンファレンスにて対応する

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

体調を整えて、実習に臨んでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	緩和ケア		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美			授業形態	講義
到達目標					
1. 緩和ケアの基盤となる考え方について説明できる。					
2. 緩和ケアの実践方法について説明できる。					
3. 看取りのケアについて、家族へのケアも含めて説明できる。					
4. 緩和ケアを要する紙上事例について、より良い緩和ケアのあり方について検討できる。					
5. 緩和ケアの現状と課題の概要が説明できる。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、緩和ケア実施に必要な知識を深め、緩和ケアへの興味を持ち、緩和ケアのあり方について探究する姿勢を身に付けることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、緩和ケアの概念を理解し、看護実践を提供するための基礎知識を修得する。緩和ケアの基盤となる考え方、（意思決定を支えるケア、家族ケア、喪失と悲嘆のケア、スピリチュアルケア）、緩和ケアの実践方法、看取りのケア、看取りを迎える家族へのケアについて学ぶ。学生の臨地実習体験をふまえて、紙上事例について検討を行う。諸外国における緩和ケアの体制を学び、日本における緩和ケアの展望と課題について理解する。 この授業をとおして、緩和ケア実施に必要な基礎知識と今後の課題について学ぶ。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり	テーマ：緩和ケアの基盤となる考え方 内 容：意思決定を支えるケア 家族ケア 喪失と悲嘆のケア	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	堤かおり	テーマ：緩和ケアの実際 内 容：緩和ケアの実践方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

3	<u>堤かおり</u>	テーマ：緩和ケアの実際 内 容：看取りのケア	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	<u>堤かおり</u>	テーマ：緩和ケアの実際 内 容：看取りを迎える家族へのケア	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	<u>温井由美</u>	テーマ：紙上事例について検討 内 容：事例の説明、情報の理解	予習：事例を理解する 復習：学びをまとめる
6	<u>温井由美</u>	テーマ：紙上事例について検討 内 容：グループワーク	予習：グループワークの準備 復習：学びをまとめる
7	<u>温井由美</u>	テーマ：紙上事例について検討 内 容：グループ発表と討議	予習：グループ発表の準備 復習：学びをまとめる
8	<u>温井由美</u>	テーマ：緩和ケアの現状と課題 内 容：諸外国における緩和ケアの体制 日本における緩和ケアの展望と課題	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週月曜日2限 10:40~12:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

グループワークも取り入れながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	災害看護論		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、北出千春			授業形態	講義

到達目標

1. 災害看護に関連する制度について説明できる。
2. 災害関係各機関の支援体制について説明できる。
3. 災害時の被災者および援助者の心理について説明できる。
4. 災害各期における看護活動について説明できる。
5. 在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護について説明できる。
6. 病院における災害看護活動について説明できる。
7. 災害看護における倫理・教育・理論について説明できる。
8. 母性看護と災害をとりあげて示された事例について災害看護のあり方と課題を討論できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、災害看護に必要な知識を深め、災害看護への興味を持ち、災害看護のあり方について探究する姿勢を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、災害看護の基礎的知識と実際場面での実践方法について理解する。災害看護に関する基礎的知識として、災害に関する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画など）、災害関係各機関の支援体制、災害時の被災者および援助者の心理、災害各期における看護活動、在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護、災害時に必要な技術、病院における災害看護、災害看護における倫理・教育・理論について学ぶ。実践方法として、対象別にみた災害看護の実践として、母性看護と災害をとりあげて、具体的な事例を示して検討することによって学ぶ。この授業をとおして、災害看護の基礎知識と実践する能力を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	藤本由美子	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害に関する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画など）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	藤本由美子	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害関係各機関の支援体制	予習：資料を読んでおく
3	藤本由美子	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害時の被災者および援助者の心理	予習：資料を読んでおく
4	藤本由美子	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害各期における看護活動	予習：資料を読んでおく
5	藤本由美子	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害時に必要な技術、病院における災害看護	予習：事例を理解する
6	藤本由美子	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害看護における倫理・教育・理論について	予習：グループワークの準備
7	北出千春	テーマ：対象別にみた災害看護の実践例 内 容：母性看護と災害について	予習：グループ発表の準備」
8	北出千春	テーマ：対象別にみた災害看護の実践例 内 容：母性看護と災害についての取り組み	予習：資料を読んでおく
成績評価方法及び基準 定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー		毎週火曜日3限 13:00~14:30	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） グループワークも取り入れながら授業を実施します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護管理学		
講義開講時期	前期	学年	4	必修/選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子			授業形態	講義

到達目標

1. 看護マネジメントの定義、看護組織と管理について説明できる。
2. 看護提供方式とその特徴について説明できる。
3. 組織変革、看護管理プロセスについて説明できる。
4. 資源の獲得と配分、人的資源管理について説明できる。
5. キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランスについて説明できる。
6. 情報の管理について説明できる。
7. 管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）について説明できる。
8. 自己管理、医療連携、アウトカムマネジメントについて説明できる。
9. 安全管理、リスク管理、職場環境づくりについて説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、専門職としてより効果的・効率的なケアを実現するための方略の基盤となる看護管理を理解し、スタッフナースとしてのあり方について探究する姿勢を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護管理の基礎的知識と管理に必要な技術について理解する。基礎的知識として、看護管理学とは、マネジメントの定義、看護組織と管理、看護提供方式、組織変革、看護管理プロセスについて学ぶ。管理に必要な技術として、資源の獲得と配分、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）、自己管理、医療連携、アウトカムマネジメント、安全管理、リスク管理、職場環境づくりについて学ぶ。

この授業をとおして、専門職としてより効果的・効率的なケアを実現するための方略の基盤を理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	關戸啓子	テーマ：看護管理の基礎的知識 内 容：看護管理学とは、マネジメントの定義	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	關戸啓子	テーマ：看護管理の基礎的知識 内 容：看護組織と管理、看護提供方式	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	關戸啓子	テーマ：看護管理の基礎的知識 内 容：組織変革、看護管理プロセス	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：資源の獲得と配分、人的資源管理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：キャリアマネジメント ワーク・ライフ・バランス	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：情報の管理 管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：自己管理、医療連携 アウトカムマネジメント	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：安全管理、リスク管理、職場環境づくり	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準 定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。	
教科書 なし 適宜プリントを配布する	
オフィスアワー	毎週月曜4限 14:40~16:10
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	感染看護学		
講義開講時期	後期	学年	2	必修/選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸			授業形態	講義
到達目標					
1. 市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義、感染の3要素について説明できる。					
2. 感染予防策の考え方の歴史的変化と標準予防策について説明できる。					
3. 感染症法（1～5類感染症）、消毒と滅菌について説明できる。					
4. 院内感染対策の方法として、サーベイランス、アウトブレイク、感染症法にかかわる届け出、トリアージについて説明できる。					
5. 標準予防策と感染経路別予防策、医療廃棄物について説明できる。					
6. 母子感染の事例について、感染看護のあり方を検討する。					
【ディプロマポリシーとの関連】					
学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、感染看護について感染予防の必要性を理解し、感染予防の方策、感染看護の方法に関する知識の獲得を目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、感染看護の基礎的知識と感染予防に必要な技術について理解する。感染看護の基礎知識として、市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義、感染の3要素、感染予防策の考え方の歴史的変化と標準予防策、感染症法（1～5類感染症）、消毒と滅菌について学ぶ。院内感染対策の方法として、サーベイランス、アウトブレイク、感染症法にかかわる届け出、トリアージ、標準予防策と感染経路別予防策、医療廃棄物について理解する。事例として母子感染をとりあげて検討する。					
この授業をとおして、感染看護の基礎的知識を知り、感染予防が実践できる能力を養う。					
授業計画					
回	担当教員	授業内容			予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸	テーマ：感染看護の基礎知識 内 容：市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義			予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	貞岡美伸	テーマ：感染看護の基礎知識 内 容：感染の3要素 感染予防策の考え方の歴史的変化と標準予防策	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	貞岡美伸	テーマ：感染看護の基礎知識 内 容：感染症法（1～5類感染症） 消毒と滅菌	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	貞岡美伸	テーマ：感染予防に必要な技術 内 容：サーベイランス、アウトブレイク	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	貞岡美伸	テーマ：感染予防に必要な技術 内 容：感染症法にかかわる届け出 トリアージ	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	貞岡美伸	テーマ：感染予防に必要な技術 内 容：標準予防策と感染経路別予防策 医療廃棄物	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	貞岡美伸	テーマ：母子感染の事例 内 容：事例説明・意見交換	予習：事例を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	貞岡美伸	テーマ：母子感染の事例 内 容：感染予防策について意見交換	予習：意見をまとめておく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書 なし 適宜プリントを配布する	
オフィスアワー	<u>毎週金曜日 14:40~16:10</u>
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護教育学		
講義開講時期	後期	学年	4	必修/選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○ <u>關戸啓子、那須さとみ</u>			授業形態	講義
到達目標					
1. <u>専門職の特徴からみた日本の看護教育について説明できる。</u>					
2. <u>実践の学問としての看護学を教育する看護教育の特徴について説明できる。</u>					
3. <u>看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状について説明できる。</u>					
4. <u>カリキュラムの考え方、教育評価の方法について説明できる。</u>					
5. <u>多職種連携教育（IPE）、自己主導型学習について説明できる。</u>					
6. <u>カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価について説明できる。</u>					
7. <u>学習理論と学習方法、教育評価について説明できる。</u>					
8. <u>看護学教育における臨地実習の位置づけを知り、看護学生が臨地実習で直面しやすい問題について検討する。</u>					
【 <u>ディプロマポリシーとの関連</u> 】					
学科のディプロマポリシー「(4) <u>看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。</u> 」に基づき、自分が受けてきた看護教育について振り返り、看護教育学として学びを深め、看護教育学への興味を高め、看護教育学のあり方について探究する姿勢を身に付けることを目指す科目である。					
授業概要					
この授業では、わが国の看護教育制度、カリキュラムや教育評価など、看護学教育に関する基礎的な知識を学ぶ。看護教育学とは何か、専門職の特徴からみた日本の看護、実践の学問としての看護学、多職種連携教育（IPE）、看護制度・看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状、看護学教育の基盤、自己主導型学習、カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価、学習理論と学習方法、教育評価について学ぶ。臨地実習における教育と学習として、経験型実習教育の方法と看護学教育における臨地実習の位置づけを知り、看護学生が直面しやすい問題について検討する。					
この授業をとおして、学生自らが受けている看護学教育について理解する。					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：看護教育学の基礎 内 容：看護教育学とは何か 専門職の特徴からみた日本の看護	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	關戸啓子	テーマ：看護教育の方法 内 容：実践の学問としての看護学 多職種連携教育（IPE）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	關戸啓子	テーマ：看護教育の制度 内 容：看護制度・看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護学教育の基盤 内 容：看護学教育の基盤、自己主導型学習	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	關戸啓子	テーマ：カリキュラムについて 内 容：カリキュラム開発、カリキュラムデザイン	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	關戸啓子	テーマ：カリキュラムについて 内 容：カリキュラム評価 学習理論と学習方法 教育評価	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	那須さとみ	テーマ：臨地実習における教育と学習 内 容：経験型実習教育の方法 看護学教育における臨地実習の位置づけ	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	那須さとみ	テーマ：臨地実習における教育と学習 内 容：看護学生が直面しやすい問題について検討	予習：意見をまとめておく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験 50%、課題レポート 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護理論と実践		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、山本明弘、木野寛子			授業形態	講義

到達目標

1. 看護学と看護理論の関係について説明できる。
2. 看護理論の種類、看護理論の歴史と動向について説明できる。
3. 日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響について説明できる。
4. 看護理論を実践に活かしている事例を、母性看護学の場合と、精神看護学の場合について学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、看護理論に対する学びを深め、看護理論の必要性和実践へ応用される意義について知ることによって看護理論について興味を高め、探究する姿勢を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護理論の基礎的知識を学び、実践事例をとおして看護理論が実際に臨床現場で応用されていることを理解する。基礎的知識として、看護学と看護理論の関係、看護理論とは、看護理論の種類、看護理論の歴史と動向、日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響について学ぶ。看護理論を実践に活かしている事例を、母性看護学の場合と、精神看護学の場合について学ぶ。

この授業をとおして、看護理論の必要性和実践へ応用される意義について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：看護学と看護理論の関係	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	關戸啓子	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：看護理論とは、看護理論の種類	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

3	<u>關戸啓子</u>	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：看護理論の歴史と動向	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	<u>關戸啓子</u>	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：精神看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：精神看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	<u>木野寛子</u>	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：母性看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	<u>木野寛子</u>	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：母性看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験 50%、課題レポート 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週木曜日 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

実例も紹介しながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域精神保健学		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	講義

到達目標

1. 周産期の精神の健康支援について説明できる。
2. 乳幼児期から学童期の精神の健康支援について説明できる。
3. 思春期と青年期の精神の健康支援について説明できる。
4. 成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）支援について説明できる。
5. 老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）について説明できる。
6. 地域精神医療福祉の現状と課題について説明できる。
7. 精神の健康に関する普及啓発活動について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、地域精神保健についてライフサイクルに沿って学修を深めることによって、地域精神保健への興味を高め、地域における精神保健を探究する姿勢を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域精神保健について、ライフサイクルに沿って学修する。ライフサイクルと地域精神保健の課題、周産期の精神の健康、乳幼児期から学童期の精神の健康、思春期と青年期の精神の健康、成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）、老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）について学ぶ。地域精神医療福祉の現状と課題と精神の健康に関する普及啓発活動について理解する。

この授業をとおして、地域精神保健の基礎的な知識と課題について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：周産期の精神の健康	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	<u>山本明弘</u>	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：乳幼児期から学童期の精神の健康	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	<u>山本明弘</u>	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：思春期と青年期の精神の健康	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	<u>山本明弘</u>	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	<u>山本明弘</u>	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	<u>山本明弘</u>	テーマ：地域精神医療福祉について 内 容：地域精神医療福祉の現状と課題	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	<u>横谷知也</u>	テーマ：地域精神保健について 内 容：精神の健康に関する普及啓発活動	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	<u>横谷知也</u>	テーマ：地域精神保健について 内 容：今後の展望	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週木曜日3限 13:00~14:30

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅰ（演習）		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、全教員			授業形態	演習

到達目標

1. 各領域が示す事例に従って、看護過程が展開できる。
2. シミュレーション環境下において、適切な臨床判断を行うことができる。
3. シミュレーション演習をとおして、適切な看護実践ができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、臨地実習の学びを統合して、各領域における臨床判断を求められる事例に対してシミュレーション環境下で演習を行うことによって、看護実践能力を高めることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、既修の知識・技術を統合し、与えられた紙上事例について、適切に看護過程を展開する能力を修得する。シミュレーションを用いて、高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、演習を行う。
この授業をとおして、高度な看護実践能力を育成する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	關戸啓子、 全教員	テーマ：成人看護学領域（慢性期）における事例展開 内 容： <u>血糖値測定・インスリン自己注射の指導を受けている患者の事例を用いて、自己コントロールに向けて指導が必要な糖尿病患者の看護過程の展開を行う</u>	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
3 ・ 4		テーマ：成人看護学領域（慢性期）における事例展開 内 容： <u>事例の中の1場面として、個室の病室を模したシミュレーション環境において、自己血糖測定、インスリン自己注射の指導を実施する。</u>	予習：技術練習 復習：演習の振り返り

5 ・ 6		テーマ：成人看護学領域（急性期）における事例展開 内 容： <u>手術直後の事例を用いて、急性期にある患者の看護過程の展開を行う</u>	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
7 ・ 8		テーマ：成人看護学領域（急性期）における事例展開 内 容： <u>事例の中の1場面として、人工呼吸器を使用している手術直後を模したシミュレーション環境において、患者の観察を行い、その内容を看護師役の教員へ報告する演習を実施する</u>	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
9 ・ 10		テーマ：高齢者看護学領域における事例展開 内 容： <u>食欲低下と嚥下困難がある高齢者の事例について看護過程の展開を行う</u>	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
11 ・ 12	關戸啓子、 全教員	テーマ：高齢者看護学領域における事例展開 内 容： <u>事例の中の1場面として、個室の病室を模したシミュレーション環境において食事介助をしていたら、高齢者がむせて呼吸困難をきたした場合の対応を演習する。</u>	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
13 ・ 14		テーマ：母性看護学領域における事例展開 内 容： <u>出産直後の褥婦に対する事例について看護過程の展開を行う</u>	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
15 ・ 16		テーマ：母性看護学領域における事例展開 内 容： <u>事例の中の1場面として、出産直後を模したシミュレーション環境において、褥婦の観察を行い、その内容を看護師役の教員へ報告する演習を実施する</u>	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
17 ・ 18		テーマ：小児看護学領域における事例展開 内 容： <u>気管支喘息で入院している小児患者の事例で看護過程の展開を行う</u>	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す

19 ・ 20	關戸啓子、 全教員	<p>テーマ：小児看護学領域における事例展開</p> <p>内 容：<u>事例の中の1場面として、小児の病室を模したシミュレーション環境において、気管支喘息で入院している小児に食事を持って訪室したところ、喘息発作を起こしたため対応しようとしていたら、祖母がお見舞いに来て孫の様子を見てパニックを起こした場合の対応について演習を実施する</u></p>	<p>予習：技術練習</p> <p>復習：演習の振り返り</p>
21 ・ 22		<p>テーマ：精神看護学領域における事例展開</p> <p>内 容：<u>拒薬傾向のある統合失調症患者の事例で看護過程の展開を行う</u></p>	<p>予習：事例の理解</p> <p>復習：看護計画を見直す</p>
23 ・ 24		<p>テーマ：精神看護学領域における事例展開</p> <p>内 容：<u>事例の中の1場面として、精神科病棟の病室を模したシミュレーション環境において、患者を訪室し、服薬介助を行う場面で服薬を拒否された場合の対応について演習を実施する</u></p>	<p>予習：技術練習</p> <p>復習：演習の振り返り</p>
25 ・ 26		<p>テーマ：地域・在宅看護学領域における事例展開</p> <p>内 容：<u>胃ろうによる栄養管理を行っている高齢の在宅療養患者の事例で看護過程の展開を行う</u></p>	<p>予習：事例の理解</p> <p>復習：看護計画を見直す</p>
27 ・ 28		<p>テーマ：地域・在宅看護学領域における事例展開</p> <p>内 容：<u>事例の中の1場面として、在宅療養の自宅を模したシミュレーション環境において、患者宅を訪問し、胃ろうによる栄養管理に関する観察、皮膚のケアを行う場面について演習を実施する</u></p>	<p>予習：技術練習</p> <p>復習：演習の振り返り</p>
29 ・ 30		<p>テーマ：まとめの発表会</p> <p>内 容：学びを発表し意見交換を行う</p>	<p>予習：発表準備</p> <p>復習：学びをまとめる</p>

成績評価方法及び基準 課題レポート100%で評価し、 <u>60%以上の評価で単位を認定する。</u>	
教科書 なし 適宜プリントを配布する	
オフィスアワー	<u>毎週月曜日5限 16:20~17:50</u>
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) シミュレーションを用いて臨床に近い形で演習を実施します。積極的に参加してください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅱ（演習）		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠、全教員			授業形態	演習

到達目標

1. 領域ごとに与えられた事例に従って、看護実践に必要な技術が演習で実施できる。
2. 高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力の基礎を演習によって身に付ける。
3. 技能試験に合格できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、卒業前の集大成として、高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、技能試験を実施することによって、看護実践能力を高めることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、既修の知識・技術を統合し、与えられた紙上事例について、適切に看護実践を行うことができるか、学生ひとりひとり技能試験を行う。そのため、事前にいくつか与えられた事例について、シミュレーションを用いて練習する期間を与える。高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、技能試験を実施する。この授業をとおして、臨床で求められる看護実践能力の基礎を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	赤星誠、 全教員	テーマ：成人看護学領域（慢性期）における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 呼吸・循環に障害がある患者を想定して、呼吸音・ 心音の聴取ができ、正常と異常の判断について演習を 実施する	予習：技術の手順の 確認 復習：振り返り

3 ・ 4		<p>テーマ：成人看護学領域（急性期）における事例</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて技術練習 <u>手術後酸素療法と心電図モニターをつけて、輸液ポンプによる点滴を受けている患者を想定して、検査室へ移送する場合の対応、点滴の交換方法について演習を行う</u></p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>
5 ・ 6		<p>テーマ：高齢者看護学領域における事例</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて技術練習 <u>高齢で人工膝関節置換術を受けてリハビリテーションが開始された患者を想定して、転倒のリスクについて評価し、車いすでの移送、ベッドへの移動、病室の環境整備について演習を行う。</u></p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>
7 ・ 8		<p>テーマ：小児看護学領域における事例</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて技術練習 <u>1歳児で経管栄養を実施している患者が便秘で腹満があり、浣腸の指示が出た場合の手技について演習を行う。</u></p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>
9 ・ 10	赤星誠、 全教員	<p>テーマ：母性看護学領域における事例</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて技術練習 退院前の褥婦に、新生児の沐浴指導を行っていたら、褥婦が気分不快を訴えて座り込んでしまった事例を用いて、沐浴指導の手技と褥婦への対応について演習を行う。</p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>
11 ・ 12		<p>テーマ：精神看護学領域における事例</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて技術練習 精神障害のある患者が、大量に服薬し意識消失を起こして病室で倒れているのを発見した場合の対応について演習を行う。</p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>
13 ・ 14		<p>テーマ：地域・在宅看護学領域における事例</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて技術練習 <u>在宅で人工呼吸器をつけて生活している難病患者を訪問して、機器の確認を行い、臀部に出来ている褥瘡の処置を実施する演習を行う。</u></p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>

15 ・ 16	赤星誠、 全教員	<p>テーマ：高度な医療機器の操作</p> <p>内 容：<u>14回目までに練習した技術を組み合わせて用いる事例が試験では準備されているため、復習しておきたい医療機器の操作について、教員の指導のもと練習を行う</u></p>	<p>予習：技術の手順の確認</p> <p>復習：振り返り</p>
17 ・ 18		<p>テーマ：リスクマネジメント・臨床判断能力</p> <p>内 容：<u>14回目までに練習した技術を組み合わせて用いる事例が試験では準備されているため、リスクマネジメント・臨床判断について復習を教員の指導のもと行う</u></p>	<p>予習：対応方法について確認</p> <p>復習：振り返り</p>
19 ・ 20		<p>テーマ：多重課題</p> <p>内 容：<u>14回目までに練習した技術を組み合わせて用いる事例が試験では準備されているため、多重課題が発生した場合の対応について、復習を教員の指導のもと行う</u></p>	<p>予習：対応方法について確認</p> <p>復習：振り返り</p>
21 ・ 22		<p>テーマ：事例に対する技能試験</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う</p> <p>試験後ひとりずつ振り返りを行う</p> <p>試験後ひとりずつフィードバックを行う</p>	<p>予習：技術の練習</p> <p>復習：振り返り</p>
23 ・ 24		<p>テーマ：事例に対する技能試験</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う</p> <p>試験後ひとりずつ振り返りを行う</p> <p>試験後ひとりずつフィードバックを行う</p>	<p>予習：技術の練習</p> <p>復習：振り返り</p>
25 ・ 26		<p>テーマ：事例に対する技能試験</p> <p>内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う</p> <p>試験後ひとりずつ振り返りを行う</p> <p>試験後ひとりずつフィードバックを行う</p>	<p>予習：技術の練習</p> <p>復習：振り返り</p>

27 ・ 28	赤星誠、 全教員	テーマ：事例に対する技能試験 内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか 試験を行う 試験後ひとりずつ振り返りを行う 試験後ひとりずつフィードバックを行う	予習：技術の練習 復習：振り返り
29 ・ 30		テーマ：まとめの会 内 容：技能試験での学びを共有する	予習：意見をまとめておく 復習：学びを整理する
成績評価方法及び基準 事例に対する技能試験結果50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、 <u>60%以上の評価で単位を認定する。</u>			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー 毎週水曜日5限 16：20～17：50			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） シミュレーションを用いて臨床に近い形で技術を練習します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅰ（実習）		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、全講師・横谷知也・林史子・吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

1. 病院組織および看護組織についての概要が説明できる。
2. 看護組織の形態と機能について説明できる。
3. 病棟の組織や機能について説明できる。
4. 病棟師長が行っている看護管理について説明できる。

(病室管理、物品管理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リスク管理、職場環境づくり)

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、看護管理について学修を深めることによって、看護マネジメントへの興味を高め、看護管理を探究する姿勢を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で病棟の看護管理者に随行し、看護管理の実際を学ぶ。看護管理者が行っている病室管理、物品管理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リスク管理、職場環境づくりの実際を学ぶ。

この授業をとおして、看護管理の必要性和役割を理解する。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	藤本由美子、全講師・横谷知也・林史子・吉村牧子	看護管理について看護部長よりオリエンテーション 病院組織および看護組織についての概要、および組織の目標等の説明を受ける 病棟の管理について病棟師長よりオリエンテーション 病棟の組織や機能、特徴などについて説明を受ける	予習：看護管理について調べる 復習：オリエンテーション内容をまとめる

2 日 目		病棟看護師長とともに行動し、日常業務の中に含まれる マネジメント活動について観察する（病室管理、物品管 理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ラ イフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リ スク管理、職場環境づくり）	予習：実習目標を明 確にしておく 復習：実習の学びを 記録する
3 日 目	藤本由美 子、全講 師・横谷知 也・林史 子・吉村牧 子	病棟看護師長とともに行動し、日常業務の中に含まれる マネジメント活動について観察する（病室管理、物品管 理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ラ イフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リ スク管理、職場環境づくり）	予習：実習目標を明 確にしておく 復習：実習の学びを 記録する
4 日 目		病棟師長とカンファレンス、反省会 （看護管理について学んだこと、疑問を発表し討論す る。病棟師長から助言をもらう）	予習：カンファレン スの準備 復習：実習の学びを 記録する
5 日 目		まとめの発表会 実習終了後に、実習で体験したことをもとに報告会を行 い、体験の共有化をはかる	予習：まとめの発表 会の準備を行ってお く 復習：発表会からの 学びを整理しておく
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単 位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅱ（実習）		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠、全教員			授業形態	実習

到達目標

1. 学生各自の実習課題を明確にする。
2. 課題にそって具体的な実習目標を設定できる。
3. 実習目標にそった実習計画が立てられる。
4. 目標達成に向けて、主体的に実習ができる。
5. 集大成の実習として、看護の実践能力を高めることができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、看護学生が実習で自分の課題として残っていることや、興味がありさらに充実したい内容、自分の将来のキャリアに向けて体験したい内容などに従って、主体的に実習を行い、自己研鑽の姿勢を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、実習の集大成として、既修の知識・技術・態度を統合し、看護学生が実習で自分の課題として残っていることや、興味がありさらに充実したい内容、自分の将来のキャリアに向けて体験したい内容などに従って、実習を学生が教員と相談しながら計画し実施する。

この授業をとおして、臨床で求められる看護の実践能力を高める。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	赤星誠、 全教員	病棟オリエンテーション 学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習計画書をもとに、教員・施設における指導者と打合せを行ない、計画の実行方法および倫理的配慮に関する確認を行なう。	予習：自分の実習目標と実習方法を明確にしておく 復習：実習の学びを記録する
2 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習方法、実習中の学びについて、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する

3 日 目	赤星誠、 全教員	学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 <u>実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。</u>	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
4 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 <u>実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。</u>	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
5 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 中間カンファレンス、実習目標達成を評価し、必要なら計画の見直し	予習：中間カンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
6 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 <u>教員とともに前週の実習の振り返りを行ない、今週の実習に生かせるように指導を受ける</u>	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
7 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 <u>実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。</u>	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
8 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 <u>実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。</u>	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
9 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 最終カンファレンス <u>カンファレンスでは主体的に計画して実施した実習を振り返り、意見交換と学びのまとめを行う</u>	予習：最終カンファレンスの準備 復習：カンファレンスでの学びをまとめる
10 日 目		学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う <u>実習で体験したことをもとに報告会を行い、体験の共有化をはかる</u>	予習：学びの発表の準備 復習：発表会での学びをまとめる

成績評価方法及び基準	
評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。	
教科書	
なし 適宜参考図書を紹介する	
オフィスアワー	実習記録及びカンファレンスにて対応する
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）	
体調を整えて、実習に臨んでください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護研究Ⅰ		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、藤本由美子、池西和哉			授業形態	講義

到達目標

1. 看護研究に必要な文献検討の方法と必要性について説明できる。
2. 看護研究を行うために必要な一連のプロセスについて説明できる。
3. 看護研究計画書に記載する内容について説明できる。
4. 研究の倫理について説明できる。
5. 量的研究について調査方法が説明できる。
6. 量的研究について分析方法が説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、看護研究を行うために必要な知識を獲得することを目指す科目である。

7. 質的研究について調査方法が説明できる。

授業概要

この授業では、研究を行う一連の流れを学ぶ。看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）について理解する。

この授業をとおして、看護研究に求められる研究の基礎的知識を修得する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：看護研究のテーマの決定	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：テーマに関連する文献検索	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

3	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：研究論文のクリティーク	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：看護研究計画書の作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	<u>山本明弘</u>	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：看護研究計画書の作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	<u>藤本由美子</u>	テーマ：質的研究方法 内 容：調査方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	<u>藤本由美子</u>	テーマ：質的研究方法 内 容：調査方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	<u>藤本由美子</u>	テーマ：質的研究方法 内 容：分析手法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
9	<u>藤本由美子</u>	テーマ：質的研究方法 内 容：分析手法	予習：資料を読んでおく
10	<u>藤本由美子</u>	テーマ：研究倫理について 内 容：看護研究を行う上での倫理	予習：資料を読んでおく
11	<u>池西和哉</u>	テーマ：量的研究方法 内 容：研究の枠組み	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
12	<u>池西和哉</u>	テーマ：量的研究方法 内 容：アンケート作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

13	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：アンケート作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
14	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：統計処理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
15	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：統計処理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
成績評価方法及び基準			
定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー		毎週月曜日1限 9:00~10:30	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 卒業研究に必要な内容です。予習復習をして授業に出席してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護研究Ⅱ		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○ <u>關戸啓子、全准教授、全講師、</u> <u>横谷知也、大内由梨、吉村牧子</u>			授業形態	演習

到達目標

1. 研究のプロセスを体験する。
2. 研究の成果を論文にまとめることができる。
3. 研究成果を大学内で発表し、質疑応答ができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、研究のプロセス、論文作成、研究発表を体験することによって、今後看護を探究していくために必要な基礎的研究能力を獲得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、個人またはグループで卒業研究を実施する。看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）について体験し、研究成果を卒業論文として作成し、大学内で発表を行う。

この授業をとおして、看護研究に求められる研究の基礎的実践力を育成する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	○ <u>關戸啓子、全准教授、全講師、</u>	テーマ：研究のプロセス 内 容：看護研究のテーマの決定	予習：テーマについて考えておく 復習：学びをまとめておく
3 ・ 4	<u>横谷知也、大内由梨、吉村牧子</u>	テーマ：研究のプロセス 内 容：テーマに関連する文献検索	予習：文献検索の方法を確認しておく 復習：学びをまとめておく

5 ・ 6		テーマ：研究のプロセス 内 容：研究論文のクリティーク	予習：クリティークの方法を確認しておく 復習：学びをまとめておく
7 ・ 8		テーマ：研究のプロセス 内 容：看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）	予習：研究計画書に必要な内容を確認しておく 復習：学びをまとめておく
9 ・ 10		テーマ：研究のプロセス 内 容：看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）	予習：研究倫理について確認しておく 復習：学びをまとめておく
11 ・ 12	○ <u>関戸啓子、全准教授、全講師、横谷知也、大内由梨、吉村牧子</u>	テーマ：研究の実施 内 容：調査の実施	予習：調査方法について確認しておく 復習：学びをまとめておく
13 ・ 14		テーマ：研究の実施 内 容：調査の実施	予習：調査結果を見直す 復習：学びをまとめておく
15 ・ 16		テーマ：研究の実施 内 容：分析	予習：分析方法を確認しておく 復習：学びをまとめておく
17 ・ 18		テーマ：研究の実施 内 容：分析	予習：分析結果を見直す 復習：学びをまとめておく
19 ・ 20		テーマ：論文作成 内 容：結果の作成	予習：結果の書き方を見直しておく 復習：学びをまとめておく

21 ・ 22		テーマ：論文作成 内 容：考察の作成	予習：考察の書き方を見直しておく 復習：学びをまとめておく
23 ・ 24	○ <u>關戸啓子、全准教授、全講師、横谷知也、大内由梨、吉村牧子</u>	テーマ：論文作成 内 容：全文を作成	予習：論文の書き方を見直しておく 復習：学びをまとめておく
25 ・ 26		テーマ：卒業研究発表会 内 容：発表会の準備	予習：発表内容を検討する 復習：学びをまとめておく
27 ・ 28		テーマ：卒業研究発表会 内 容：発表・質疑応答	予習：発表の準備 復習：学びをまとめておく
29 ・ 30		テーマ：卒業研究発表会 内 容：発表・質疑応答	予習：意見をまとめておく 復習：学びをまとめておく
成績評価方法及び基準 研究のプロセス全般、完成した論文、発表内容について、評価表を用いて評価を行う。 <u>60%以上の評価で単位を認定する。</u>			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー		毎週火曜日3限 13:00~14:30	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 大学の集大成です。意欲的に取り組んでください。			

【資料6】

アセスメントポリシー

宝塚医療大学 和歌山保健医療学部 看護学科 学習成果の評価に関する方針 (アセスメントポリシー)

宝塚医療大学では、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの3つのポリシーに基づき、大学全体・学部・科目の3つのレベルで、それぞれ学修成果等を検証する。

1. 宝塚医療大学全体のアセスメントポリシー

学生の志望進路への就職率、免許取得率、卒業予定者アンケートなどから、宝塚医療大学全体レベルにおける学習成果の達成状況を検証する。

検証結果は、本学の現状把握、全体的な教育改革及び改善、学生支援の改善等に活用する。

2. 学部のアセスメントポリシー

資格・免許の取得状況、単位取得状況、GPAなどから、教育課程レベルにおける学習成果の達成状況を検証する。

検証結果は、学部における教育課程の改革・改善、学生支援の改善等に活用する。

3. 科目ごとのアセスメントポリシー

シラバスで示された授業科目の到達目標に対する評価や、授業評価アンケート等の結果から、各科目レベルにおける学習成果の達成状況を検証する。

検証結果は、各授業における講義の実施方法、成績評価方法等の改善、学生指導の改善等に活用する。

4. 具体的な検証方法

宝塚医療大学保健医療学部における具体的な検証方法等は、次の表のとおりである。

	入学前・入学直後	在学中 (単位認定・進級判定)	卒業時(卒業後)
	アドミSSIONポリシーを満たす人材かどうかの検証	カリキュラムポリシーに則って学修が進められているかどうかの検証	ディプロマポリシーを満たす人材になったかどうかの検証
大学全体レベル	各種入学試験 調査書等の記載内容 面接、志願理由書等	GPA 修得単位数 課外活動状況 退学・除籍率 休学率	卒業予定者アンケート 卒業生へのアンケート調査 学位授与数 就職率 離職率

学部レベル	各種入学試験 調査書等の記載内容 面接、志願理由書等	GPA 修得単位数 学修行動調査 課外活動状況 資格取得者 退学・除籍率 休学率	卒業時満足度調査 卒業生へのアンケート調査 学位授与数 国家試験合格率 就職率
科目レベル	入学前課題 補充授業	成績評価 学外実習評価 授業評価アンケート 学修履歴（ポートフォリオ）	

5. 科目レベルでの具体的な評価基準等

本学保健医療学部は、医療人として備えるべき資質を定めた学位授与方針（ディプロマポリシー）に沿って、教育課程を編成している。「徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する。」との大学の建学の精神に立脚し、学年ごとに、あるいは科目ごとに、以下の指針に則って多面的に評価する。

講義・演習科目では、知識とその応用を評価する。実技・実習科目では、技能、態度、コミュニケーション能力を評価するほか、倫理感、遵法意識も合わせて評価対象とする。

知識とその応用および技能に関しては筆記試験ならびに実技試験、総合的な能力は実習評価で評価する。

筆記試験・実技試験・実習評価は、数値化して達成度を評価する。

評価方法と合否基準の設定にあたっては、その妥当性ならびに客観性を考慮し、担当教員が定期的に見直しを行い、次年度開始時にシラバスで提示する。

医療技術者育成に関する教育における順次性を考慮し、年度ごとに進級判定あるいは卒業判定を行う。

科目合否判定や進級・卒業判定に加え、随時達成度確認を行うことで到達目標に至る道程を明らかにする。

定期試験で所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を、病気その他やむを得ない事由で定期試験を受験できなかった場合は、追試験を行うことがある。

授業（実習等を含む）は、出席することが前提であるため出席による加算点はなく、所定の回数以上を出席しなければ評価の対象としない。

各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に周知する。

各科目の評価をもとにGPAを算出する。GPAは学内の奨学生選考に利用されるほか、GPAが1.5以下の学生に対しては教育指導を行い、GPAが1.0未満の学生に対しては、本人に対する進路選択

を含めた教育指導を行うとともに保護者との面談を行うことがある。

定期試験の問題・正答および判定基準は原則として各担当教員が1年間保管し、学生からの照会に応じる体制を整備する。